

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第199集

塚野I・塚野II遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

(財)岩手県文化振興事業団
埋蔵文化財センター

塚野I・塚野II遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,600箇所に及ぶ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化遺産を保存し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた重大な責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も重要な一施策であります。特に幹線道路網の整備は、産業経済開発の大動脈として、多方面から期待されるところでもあります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する処置をとってまいりました。

本報告書の塙野Ⅰ遺跡および塙野Ⅱ遺跡は、湯田町西方の小繫沢段丘面に立地し、平成4年における発掘調査により、縄文時代の狩場の跡や野営地におけるものと考えられる土坑や遺物が発見されました。なかでも陥し穴状遺構は湯田地方において初めて検出されたものです。このように、湯田町の縄文時代の歴史を解明する上で貴重な資料を得ることができました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

おわりに、これまでの発掘調査および報告書作成に御援助、御協力を賜りました湯田町教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

平成5年6月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 工 藤 巖

例　　言

1. 本報告書は、和賀郡湯田町第55地割157-8ほかに所在する塚野Ⅰ遺跡と塚野Ⅱ遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2. 本遺跡の発掘調査は、東北横断自動車道秋田線建設工事に伴って、遺跡の一部が消滅するため、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。調査は日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3. 本遺跡の岩手県遺跡番号および調査略号は、次のとおりである。

塚野Ⅰ遺跡 遺跡番号MD 58-1126 調査略号TN I-92

塚野Ⅱ遺跡 遺跡番号MD 58-1134 調査略号TN II-92

4. 本遺跡の発掘調査期間および調査面積は、次のとおりである。

塚野Ⅰ遺跡 発掘調査期間 平成4年4月22日～9月4日 発掘調査面積 7,750m²

塚野Ⅱ遺跡 発掘調査期間 平成4年4月22日～9月30日 発掘調査面積 13,000m²

5. 遺跡の発掘担当者および報告書の執筆者は、次のとおりである。

塚野Ⅰ遺跡 調査担当者 藤村敏男・工藤剛司 報告書執筆者 藤村敏男

塚野Ⅱ遺跡 調査担当者 佐々木弘・溜浩二郎 報告書執筆者 佐々木弘

なお、報告書の「I. 調査に到る経過」を三浦謙一、「II. 遺跡の位置と環境」について
は「2. 地形と地質」を佐瀬隆が、「1. 位置、3. 周辺の遺跡」を伊東格が執筆した。

6. 遺跡の基準点の設置は、株式会社ハイマーテックによる。成果についてはおのおの遺跡において記載している。周辺の地形図は北上・奥羽山系開発室の五千分の一のものを元図とした。

7. 分析鑑定は、下記の方々に依頼した。(敬称略)

石質鑑定 佐藤二郎 (佐藤地質工学研究所)

¹⁴C測定 木越邦彦 (学習院大学)

8. 発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々に御指導・御助言をいただいた
(敬称略)。

湯田町教育委員会・北上市教育委員会

9. 野外調査において北上市・花巻市をはじめとする地元の方々の御協力をいただいた。

目 次

序

例言

本 文

I. 調査に至る経過.....	5	IV. 塚野Ⅱ遺跡	
II. 遺跡の位置と環境.....	5	1. 調査結果の概要.....	47
1. 位置.....	5	2. 調査方法と室内整理.....	47
2. 地形と地質.....	6	(1) 野外調査の方法.....	47
3. 周辺の遺跡.....	8	(2) 室内整理の方法.....	48
III. 塚野Ⅰ遺跡		3. 基本土層.....	49
1. 調査方法と室内整理.....	15	4. 検出された遺構と遺構内出土遺物.....	53
(1) 野外調査の方法.....	15	(1) 壇穴状遺構.....	53
(2) 室内整理の方法.....	15	(2) 土坑.....	53
2. 基本層序.....	15	(3) 陥し穴状遺構.....	64
3. 検出された遺構.....	16	(4) その他.....	64
(1) 土坑.....	16	5. 出土遺物.....	67
(2) その他.....	22	(1) 土器.....	67
4. 出土遺物.....	23	(2) 石器.....	68
(1) 土器.....	23	6. まとめ.....	83
(2) 石器.....	23	(1) 遺構.....	83
(3) その他.....	25	(2) 出土遺物.....	84
5. まとめ.....	26	(3) まとめ.....	85
(1) 遺構.....	26	7. 鑑定・分析.....	86
(2) 遺物.....	26	学習院大学放射性炭素年代測定報告書	
(3) 遺跡.....	26	86

図 版

第1図 岩手県全図	4	第4図 鬼ヶ瀬川流域の段丘面分布	8
第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む東西 断面図	6	第5図 周辺の遺跡位置図	10
第3図 平鹿盆地付近の地質図	7	第6図 周辺の地形	11・12

表

第1表 周辺の遺跡一覧表	9
--------------	---

塙野 I 遺跡 図 版

第1図 土層模式図	16	第10図 石鎌・石錐・石槍	27
第2図 地形図・遺構配置図	17	第11図 石槍・石匙	28
第3図 5・6Mライン土層断面図	18	第12図 石匙	29
第4図 土坑の配置図	18	第13図 石匙・搔器・削器	30
第5図 第1号～第4号土坑	20	第14図 削器・石籠	31
第6図 第5号～第7号土坑	21	第15図 石籠	32
第7図 西端部旧地形	22	第16図 石籠・打製石斧他	33
第8図 剥片集中部出土状態	23	第17図 遺構外出土遺物	34
第9図 出土土器	24		

写 真 図 版

写真図版1 全景	36	写真図版6 石鎌・石槍・石錐・石匙	41
写真図版2 トレンチ検出状況	37	写真図版7 石槍・石匙・搔器他	42
写真図版3 検出状況・土層断面他	38	写真図版8 削器・石籠他	43
写真図版4 第2号～第4号土坑	39	写真図版9 石籠・礫石器・接合剥片他	44
写真図版5 第5号～第7号土坑	40		

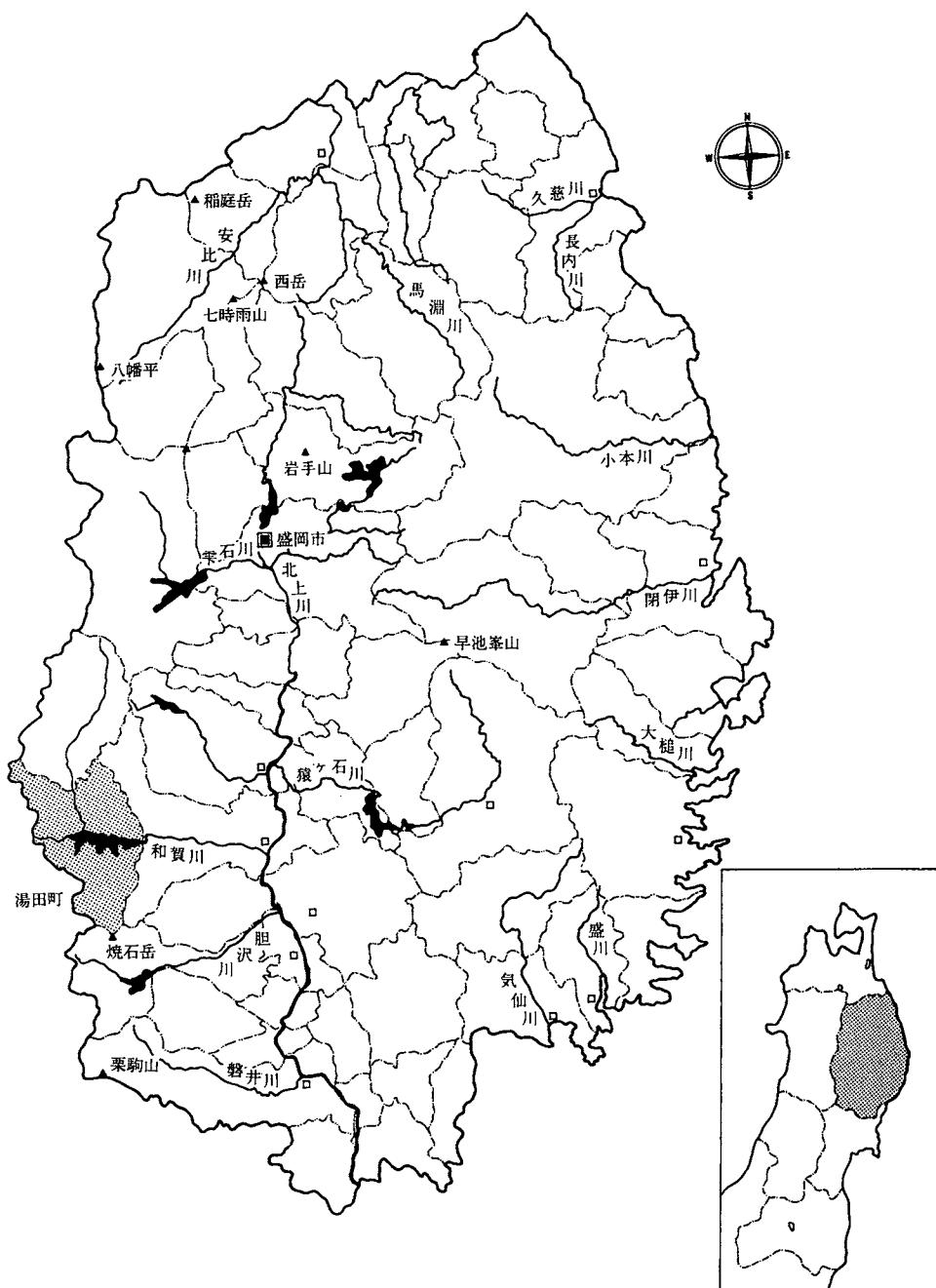
第1図 基本土層……………	50	第10図 VII A区沢跡、VII A区沢跡・IV B区 一括土器出土状況……………	66
第2図 遺構配置図……………	51・52	第11図 出土遺物：土器(1)……………	69
第3図 III C-1号堅穴状遺構……………	54	第12図 出土遺物：土器(2)……………	70
第4図 III B-1、III C-1・2号土坑……………	56	第13図 出土遺物：石器(1)……………	73
第5図 III C-3・4、IV C-1号土坑……………	58	第14図 出土遺物：石器(2)……………	74
第6図 IV C-2・3、VI B-1号土坑……………	59	第15図 出土遺物：石器(3)……………	75
第7図 VII A-1、VII B-1号土坑……………	61	第16図 出土遺物：石器(4)……………	76
第8図 VII B-2～4号土坑……………	63	第17図 出土遺物：石器(5)……………	77
第9図 VII B-5・6号土坑、IV B-1号陥し 穴状遺構……………	65	第18図 出土遺物：石器(6)……………	78

表

第1表 地区別土器出土状況……………	71	第4表 土坑・沢跡出土石器類……………	81
第2表 土器観察表……………	71	第5表 石器観察表……………	82
第3表 地区別石器類出土状況……………	79～81		

写 真 図 版

写真図版1 空中写真（遺跡全景）……………	89	写真図版8 VI B-1号陥し穴状遺構、VII A 区沢跡……………	96
写真図版2 調査区遠景・基本土層……………	90	写真図版9 石器類出土集中区、その他 ……………	97
写真図版3 III C-1号堅穴状遺構……………	91	写真図版10 出土遺物：土器(1)……………	98
写真図版4 III B-1、III C-1～3号土坑 ……………	92	写真図版11 出土遺物：土器(2)……………	99
写真図版5 III C-4、IV C-1～3号土坑 ……………	93	写真図版12 出土遺物：石器(1)……………	100
写真図版6 VI B-1、VII A-1、VII B-1 ・2号土坑……………	94	写真図版13 出土遺物：石器(2)……………	101
写真図版7 VII B-3～6号土坑……………	95	写真図版14 出土遺物：石器(3)……………	102
		写真図版15 出土遺物：石器(4)……………	103



第1図 岩手県全図

I. 調査に至る経過

東北横断自動車道秋田線は岩手県北上市から秋田県秋田市に至る総延長 107 km の高速道路である。このうち、第 9 次・第 10 次施工命令区間は北上ジャンクションから秋田県境までの延長 33.9 km である。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については岩手県教育委員会が昭和 56 年から分布調査を行ってきたが、日本道路公団仙台建設局からの分布調査結果の照会に対して昭和 62 年 5 月に回答している。それに基づいた両者の協議の結果、やむを得ず消滅する遺跡については事前の発掘調査を実施することとした。

昭和 63 年以降、岩手県教育委員会が日本道路公団仙台建設局に発掘調査事業について照会して回答を得たのち、日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会、(財) 岩手県文化振興事業団の 3 者の協議を経て、(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとした。

塙野 I ・ II 遺跡の調査は、平成 4 年 2 月 12 日付けで、(財) 岩手県文化振興事業団が平成 4 年度埋蔵文化財調査事業の通知を岩手県教育委員会から受け、4 月 1 日付けの委託契約によって発掘調査に着手した。

II. 遺跡の位置と環境

1. 位置

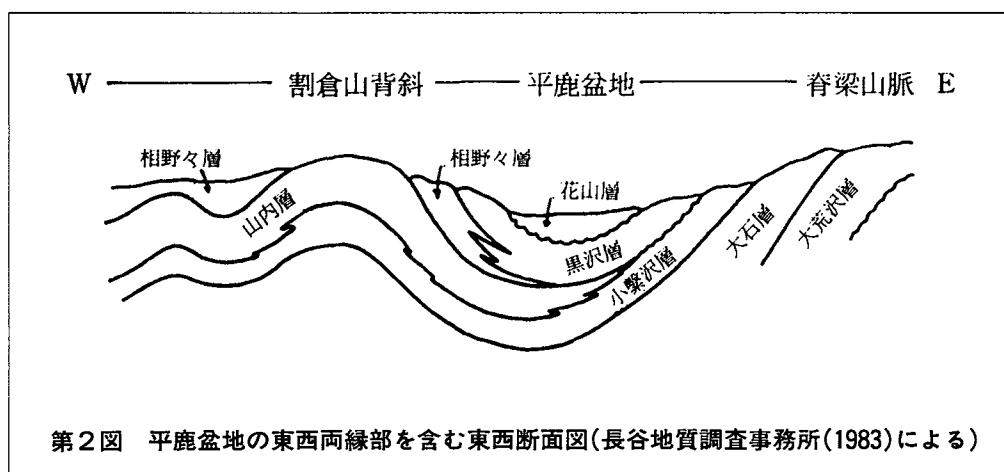
塙野 I ・ II 遺跡は北緯 39°19' 東経 140°45'30" 付近に位置し、湯田町役場の西約 4 km のところにある。

遺跡の所在する湯田町は岩手県中央部の西端にあり、東は北上市、西は秋田県雄勝郡東成瀬村、同県平鹿郡山内村、同県仙北郡六郷村、北は同県仙北郡千畠町、岩手県和賀郡沢内村、南は岩手県胆沢郡胆沢町と境を接している。同町は奥羽山脈の山間部に開けた平鹿盆地の中央にあり、周囲を同山脈の山嶺に囲まれている。主な山嶺は、北から女神山 (956 m)、割倉山 (770 m)、白木峠 (601 m)、三森山 (1,102 m)、蜂巣山 (1,155 m)、三界山 (1,381 m)、南本内岳 (1,486 m)、焼石岳 (1,548 m)、牛形山 (1,389 m)、鷲ヶ森山等である。町の総面積の 82% が山林であり、11% が原野で占められている。和賀岳 (1,440 m) に源を発した和賀川は湯田町中部を南流したのち、川尻付近で直角状に折れて東流する。川尻を中心に、北に湯本、湯田、左草、下前、西に柳沢、新田郷、南に湯川、鷹之巣、大石、草井沢などの集落は、和賀川とその支流である数本の川が開析した段丘の上に散在している。気候は裏日本式で、県内では最も降

水量が多く、豪雪地帯として知られている。JR北上線が町の中央を横断し、ゆだ錦秋湖・ほっとゆだ・ゆだ高原の3駅がある。国道107号（通称平和街道）がほぼこれと並走する。

2. 地形と地質

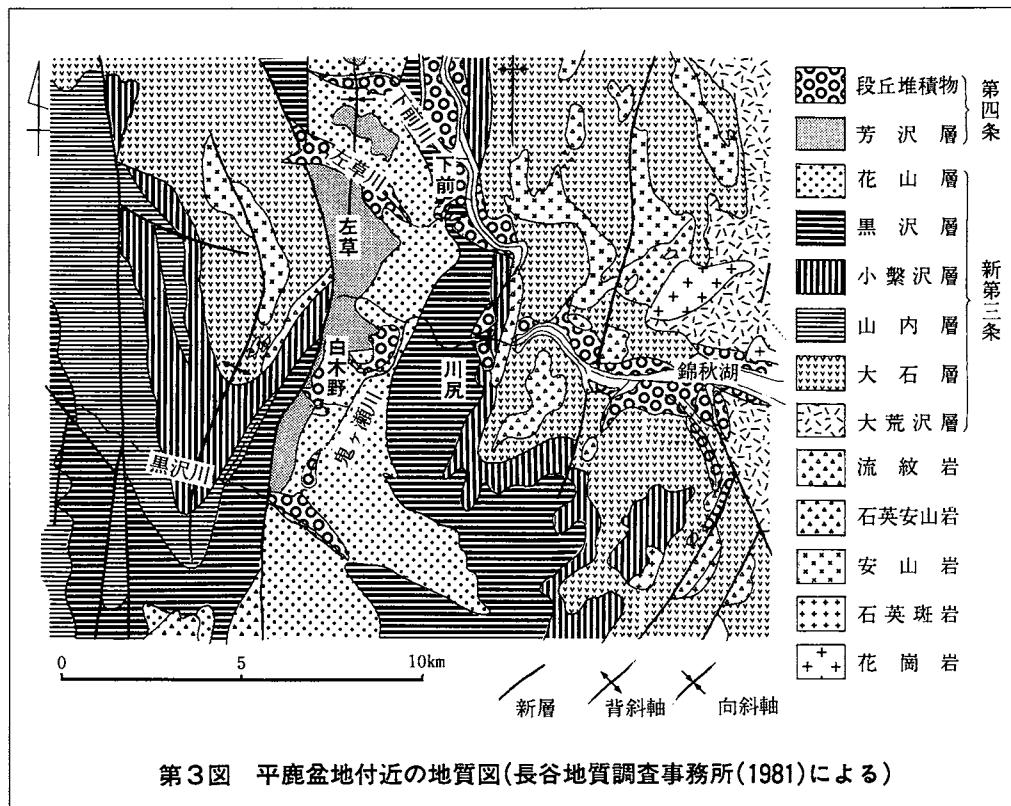
奥羽脊梁山脈は、東北地方を450kmにおよび南北につらなる一大山脈である。それはユーラシアプレートと太平洋プレートの境界である日本海溝にはほぼ平行しており、プレート押付の結果として生じた大きな背斜構造としてとらえられるが、細かくみればそれぞれ地形的山脈と対応した雁行配列を示す小単位の背斜構造に分解される。たとえば、遺跡の位置する湯田町が含まれる地域は、南へ向かって高度を下げる西側の和賀岳、割倉山背斜から逆に高度を上げる荒沢森背斜への脊梁山脈の移行部にあたる。両背斜間には花山向斜が存在し、平鹿盆地と呼ばれる地形的凹地に対応する（第2図）。なお、このような構造的特徴は、当地域に奥羽脊梁山脈



第2図 平鹿盆地の東西両縁部を含む東西断面図(長谷地質調査事務所(1983)による)

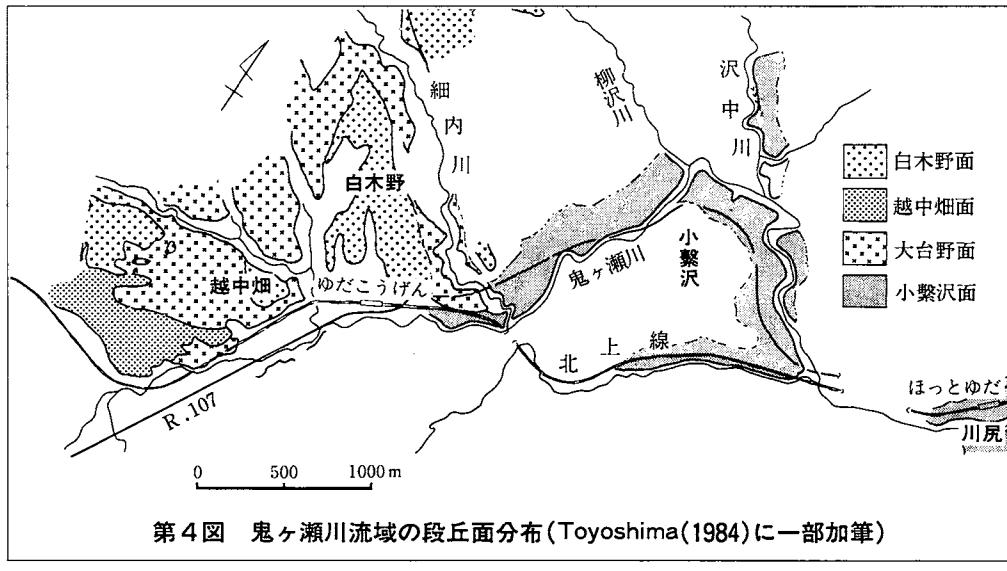
中で最も低い分水界 (285 m) が存在することと無関係ではなかろう。河川の流向も地質構造の支配をうけている。北上川の主要支流の一つである和賀川は、その下流部において上記移行部の相対的低地を東西方向に流れる。荒沢森背斜を横切る和賀仙人では先行谷的性格の峡谷を形成している。一方、上流部では構造軸に平行に南流する。

第3図は湯田町付近の地質分布を示す。背斜部は主に第三系中新統下部、大荒沢層、大石層、小繁沢層などのグリーンタフ系の凝灰質岩により構成される。向斜部、平鹿盆地には、前記のグリーンタフ系の凝灰質岩を基盤として、砂岩を主とする中新統上部の黒沢層、同じく砂岩を主とする中新統上部～鮮新統の花山層が堆積する。これらを不整合に被い未固結の砂礫、粘土を主とし亜炭化した泥炭層を伴う第四系の花山層が堆積する。芳沢層は扇状地堆積物の層相を呈する。



第3図 平鹿盆地付近の地質図(長谷地質調査事務所(1981)による)

第4図は、遺跡の位置する鬼ヶ瀬川流域の地形分布図である。段丘は白木野(新称)、越中畠(新称)、大台野(Toyosima, 1984)、小繫沢(Toyosima, 1984)の4面に区分される。大台野、小繫沢の両面の形成には最終氷期後半の気候変動が関係する(Toyosima, 1984)。すなわち、小雨寒冷気候下で、河川の運搬力を上回り供給された砂礫などから厚い谷堆積物が形成され、その後、気候の温暖湿润化に伴い、河川の侵食力が増加することで、まず、谷堆積物を構成層とする大台野面の離水が生じた。さらに勾配のより小さい流路にそっては、側方侵食も働いて谷堆積物を侵食面とする小繫沢面が形成されたと考えられている(Toyosima, 1984)。埋積から侵食への転換期は、約2万年前と推定される(Toyosima, 1984)。両面は中川ほか(1971)の川尻段丘に相当する。川尻段丘は和賀川下流域の金ヶ崎段丘に対比される(中川ほか、1971)。細内川と越中畠川に挟まれた約310mの定高性を示す丘陵を白木野面と呼称する。黒沢層、花山層を基盤とし、芳沢層を水平にのせる。未固結の砂礫、粘土を主とする芳沢層は白木野面の構成層と考えられる。同質の地形面は、越中畠川右岸にも残存し、さらに、北方の柳沢、左草地区にも分布が認められる。また、県境付近の北上線の北方隣接域に約290mの定高性を示す扇状地形が存在する。北上線が通る県境の谷からかつて流出していた鬼ヶ瀬川へ合流していた河



川により形成された扇状地と考えられる。この河川は、その上流部を黒沢川の支流である田代沢により奪われ半ば死んでいる。なお、塚野Ⅰ・Ⅱ遺跡は小繫沢面に立地する。

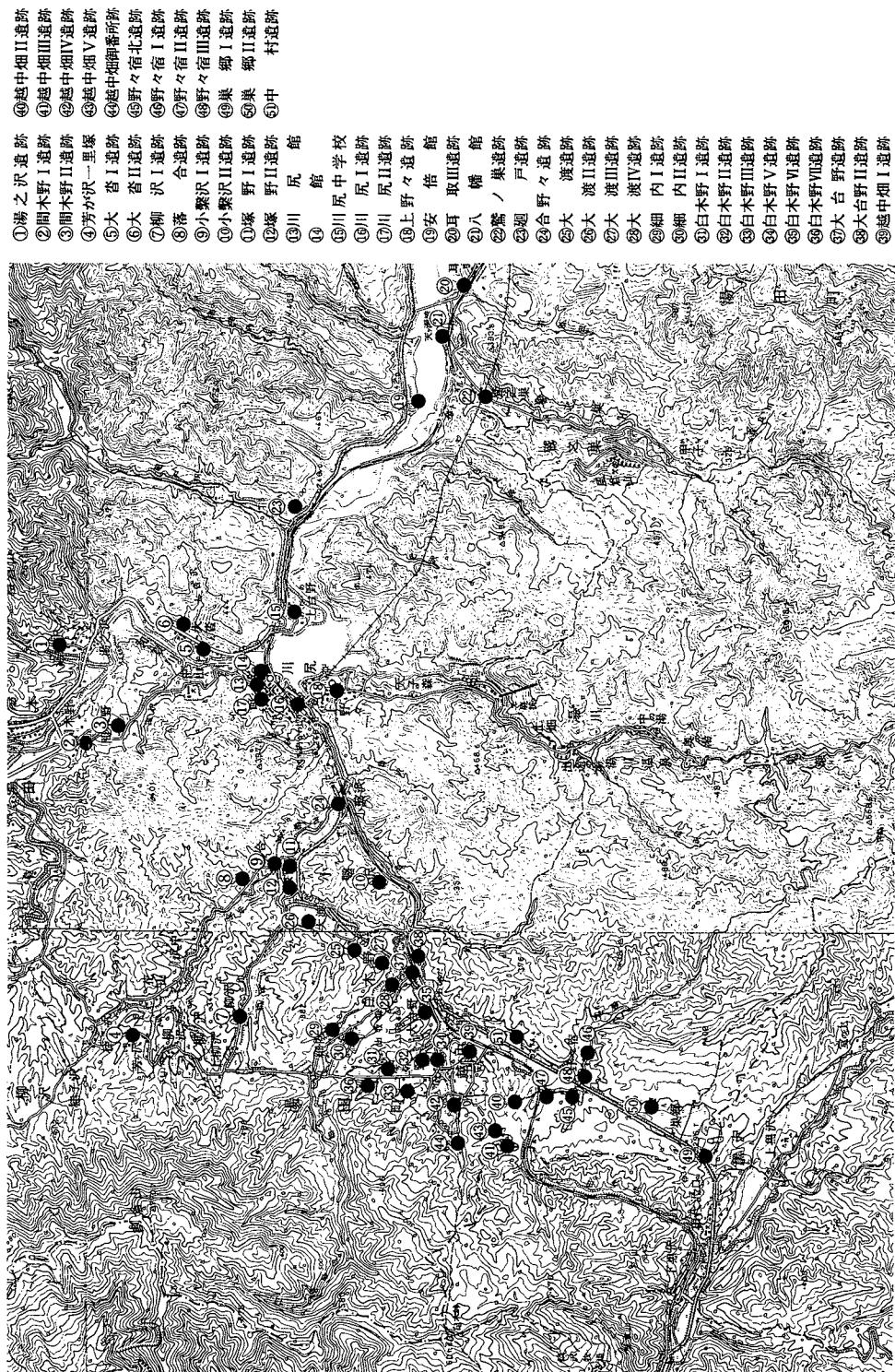
3. 周辺の遺跡（第5図、表1）

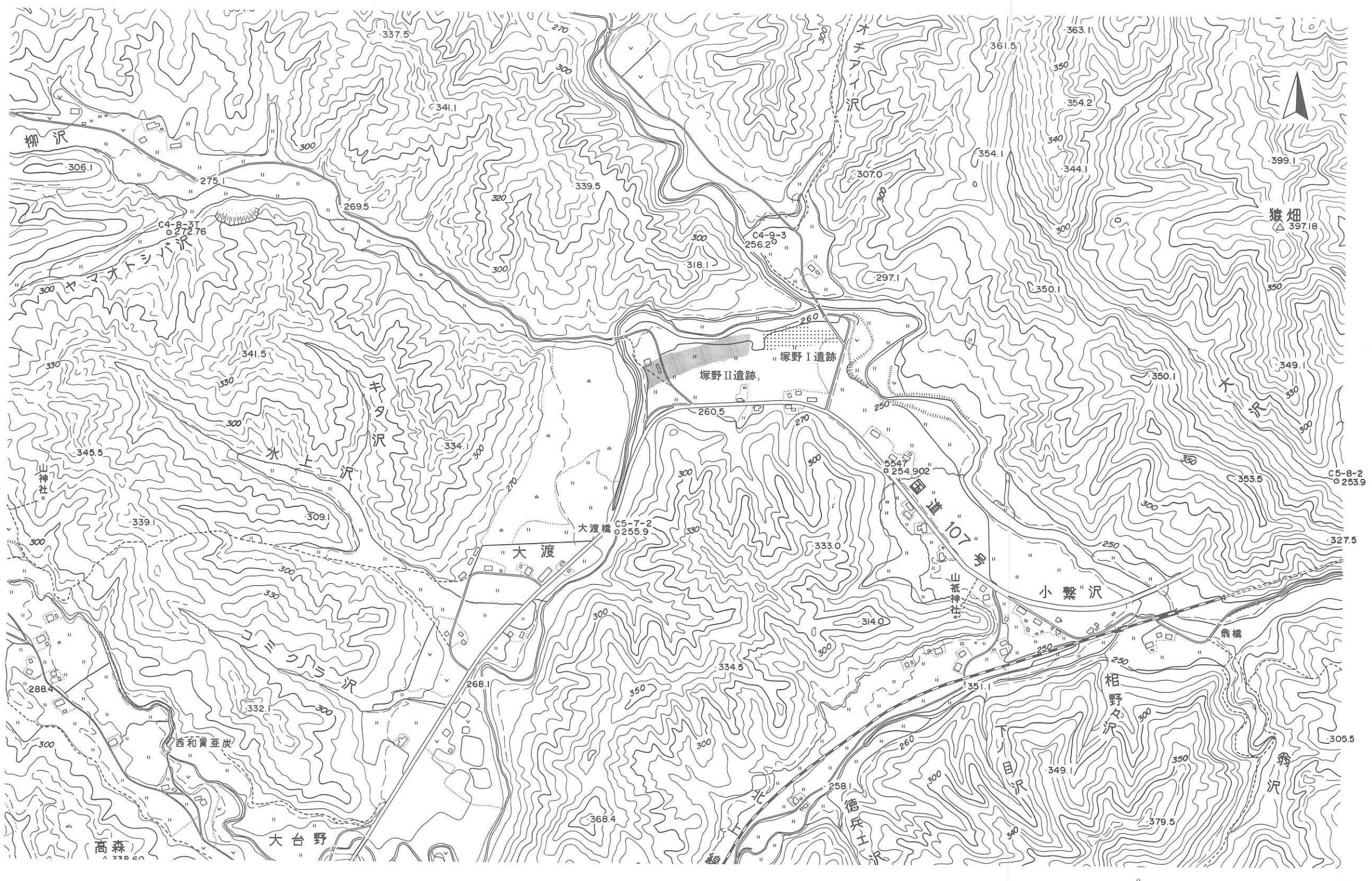
岩手県遺跡登録台帳によれば、湯田町では現在までに 51 の遺跡が登載されている。このうち、発掘調査された代表的な遺跡は大台野遺跡（37）である。大台野遺跡は旧石器時代から弥生時代にかけての複合遺跡であるが、県内において調査された旧石器時代の遺跡の代表的なもので、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、搔器など 1 万余点が出土している。平成 2 年度には東北横断自動車道秋田線建設関連の遺跡発掘事業が始まり、塚野Ⅰ遺跡（11）、塚野Ⅱ遺跡（12）、大渡遺跡（25）、大渡Ⅱ遺跡（26）、白木野Ⅰ遺跡（31）、白木野Ⅱ遺跡（32）、白木野Ⅲ遺跡（33）、越中畠Ⅳ遺跡（42）、越中畠Ⅴ遺跡（43）が調査されている。

第1表 周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	遺構／遺物	所在地	備考
1	湯之沢	散布地	縄文土器、石器	湯之沢 35 外	昭 59
2	間木野 I	散布地	旧石器	第 30 地割 24 外	昭 59
3	間木野 II	散布地	旧石器	第 30 地割 24 外	昭 59
4	芳が沢 一里塚	史跡	塚 1 基	芳ヶ沢 72 - 51 外	昭 59
5	大沓 I	散布地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石鎌、土鍤	第 36 地割 63 番地 2	
6	大沓 II	散布地	縄文土器、石器	大沓 36 - 27 - 2 外	
7	柳沢 I	散布地	縄文土器	下柳沢 70 - 80 - 1 外	
8	落合	集落跡	縄文土器	第 56 地割 15 番地	
9	小繫沢 I	散布地	縄文土器、石器	小繫沢	
10	小繫沢 II	集落跡	剝片、旧石器	第 55 地割 34 番地	
11	塚野 I	散布地	縄文土器	第 55 地割 147	
12	塚野 II	散布地	縄文土器	第 55 地割 151 外	
13	川尻館	館跡		第 40 地割 149 番地	
14	館	集落跡	石鎌、石斧、縄文(前期～中期)土器、石鎌、石槍	第 40 地割 166 番地 5	損壊
15	川尻中学校	散布地	縄文(中期)土器、石斧、石匙、石鎌	第 41 地割 59 番地	損壊
16	川尻 I	散布地	縄文土器、石器		
17	川尻 II				
18	上野々	散布地	縄文土器片、石匙、剝片石器		
19	安倍館	館跡	古代?、伝承地		
20	耳取 III	散布地	縄文土器、石器	耳取	
21	八幡館	館跡	古代?、伝承地	41	
22	鷲ノ巣	散布地	縄文(中期)土器、石匙、石鎌	第 50 地割 101 番地	
23	廻戸	散布地	縄文(後～中期)土器、石刃、剝片		
24	合野々	散布地	剝片石器、土器片	第 55 地割 84 外	
25	大渡	散布地	縄文土器、石器	68	
26	大渡 II	キャンプ跡?	旧石器、有舌尖頭器、石斧	大渡 57	
27	大渡 III	キャンプ跡?	旧石器、炭化物粒	大渡 57 - 40 外	
28	大渡 IV	集落跡	縄文土器		
29	細内 I	散布地	化石	第 69 地割 66 番地	
30	細内 II	キャンプ	旧石器		
31	白木野 I	散布地	剝片石器	第 67 地割	
32	白木野 II	散布地	剝片石器	第 67 地割	
33	白木野 III	散布地	剝片石器、石刃	第 67 地割 155 番地	
34	白木野 V	散布地	旧石器、石刃	白木野 67 - 262 外	
35	白木野 VI	散布地	旧石器、彫刻刀、石刃	白木野 67 - 315 外	
36	白木野 VII	キャンプ跡?	旧石器、剝片、炭化物粒	白木野 67 外	
37	大台野	集落跡	旧石器～弥生土器、石器	第 68 地割 253 番地 1 外	
38	大台野 II	散布地	縄文土器、石器	下細内	
39	越中畠 I	散布地	縄文土器	第 64 地割	
40	越中畠 II	散布地	旧石器、剝片石器	第 64 地割外	
41	越中畠 III	散布地	縄文土器	第 64 地割	
42	越中畠 IV	散布地	縄文土器	第 64 地割 17 番地 1	
43	越中畠 V	散布地	縄文土器、石器、焼土	第 64 地割 133 番地外	
44	越中畠御番所跡	番所跡		第 64 地割 100 番地	
45	野々宿北	散布跡	旧石器、剝片石器	第 64 地割 207 番地	
46	野々宿 I	集落跡	縄文土器、石器	第 60 地割 50 番地外	
47	野々宿 II	散布地	旧石器、剝片石器	第 62 地割 90 番地	
48	野々宿 III	キャンプ跡?	旧石器、剝片石器	第 67 地割 77 番地外	
49	巢郷 I	散布地	縄文土器、石器	第 63 地割	
50	巢郷 II	散布地	旧石器、剝片石器	第 63 地割 10 番地外	
51	中村	散布地	旧石器、剝片石器	第 59 地割 52 番地	

第5図 周辺の遺跡位置図





第6図 周辺の地形

III. 塚野 I 遺跡

所 在 地	和賀郡湯田町第 55 地割 145 - 88 ほか
委 託 者	日本道路公団仙台建設局北上工事事務所
発掘調査期間	平成 4 年 4 月 22 日～9 月 4 日
調査対象面積	7,755 m ²
発掘調査面積	7,755 m ²
遺跡番号・略号	MD 58 - 1126 • TN I - 92
調査担当者	藤村敏男・工藤剛司
協 力 機 関	湯田町教育委員会・北上市教育委員会

1. 調査方法と室内整理

(1) 野外調査の方法

調査区の設定

調査グリッドの各基点の数値と設定は次のとおりである。

基点1 X = -76200.000 Y = -6500.000 Z = 257.150 m

基点2 X = -76200.000 Y = -6440.000 Z = 256.778 m

基点1から基点2の方向へ4mごとに区画し、小グリッドを設定した。基点2方向に1~50の番号、それと直交する南方向は4mごとにX・A・B~Rのアルファベットを付した。原点のグリッド名は0Xとなる。また、必要に応じて2m×2mの小区画名を付するとともに、原点(N0・E0)を起点とする1m×1mの小区画に基づいて位置を呼称する形も併用した。北方向の座標軸線は真北に沿って設定されている。

粗掘りと検出遺構

調査対象区の全域にわたって人力と重機を併用して表土除去を行った。

検出された遺構は、土坑は51から一連の番号を与え、この分類番号と区画名を合わせて遺構名とし、同一区画で同種の遺構が複数検出された場合はNo1・No2と付番した。ただし、整理の過程において、遺構の種類毎に第1号土坑のように通し番号を付して処理している。

精査

土坑は2分法、沢跡は任意のセクションベルトを残して精査した。

記録

遺構の実測図は、土坑は平面・断面とも20分の1、沢跡の平面は40分の1、断面は20分の1の縮尺で作成した。

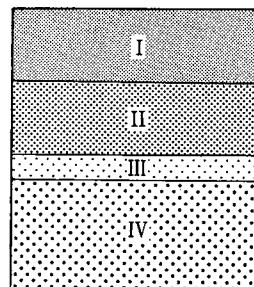
(2) 室内整理の方法

- a. 資料の整理は通常の手順によって行い、報告書の作成にあたった。
- b. 報告書は、遺構および遺物に関しては本文と図版を混在させ、それぞれの写真図版は遺構・遺物の順で文末に掲載した。
- c. 遺物の番号は図版と写真図版とが対応する。
- d. 遺構縮尺は40分の1と60分の1を原則として用い、表示した。
- e. 遺物の図版と写真図版は縮尺率を統一し、任意の縮尺を用いたものは表示した。
- f. 石器の一覧表における長さ・幅・厚さの単位はcmであり、重さの単位はgである。

2. 基本層序

本遺跡の層序は以下のとおりである。

I層 黒褐色土 耕作土。層厚は 10 ~ 15 cm。
 II層 黒色土 旧表土。層厚は 10 ~ 15 cm。
 III層 黒褐色土 部分的に明黄褐色土を含む。
 下面が遺構検出面である。
 IV層 明黄褐色土 層厚は 30 ~ 50 cm。川床砂礫や
 砂岩または泥岩に部分的に続く。
 調査地域によっては I 層と II 層の間に攪乱層を挟在
 させており、特に調査区の西端区域に多い。また地形的
 な凹凸があり、開田作業に際して高い部分を削り、沼地
 あるいは湿地を埋め込み造成している。さらに、部分的に暗渠状の掘り込みやホダの埋め込みが確
 認できたほか、東端部は資材置き場として使用されたために地山深くまで改変を受けていた。



第 1 図 土層模式図

3. 検出された遺構

遺構は、土坑 7 基が調査区西端区域に検出された。第 1 号土坑と第 2 号土坑をのぞいては、長軸方向が北西 - 南東となっている。

(1) 土坑

第 1 号土坑

遺構（第 5 図、写真図版 3）

4 O 区に位置している。平面形は小判形であり、北側は削平されて検出面が下がっている。東西方向に長軸をもち、開口部の大きさは 1.55 m × 1.05 m である。底部径は開口部径から約 25 cm 減の規模となる。深さは 0.60 m である。埋土は 4 層で自然堆積の層相を示すが、層理面は不明瞭であり、人為堆積の可能性も残る。

遺物

摩耗した土器の細片と石器の剥離細片、合わせて 3 点が埋土上部から出土している。

第 2 号土坑

遺構（第 5 図、写真図版 4）

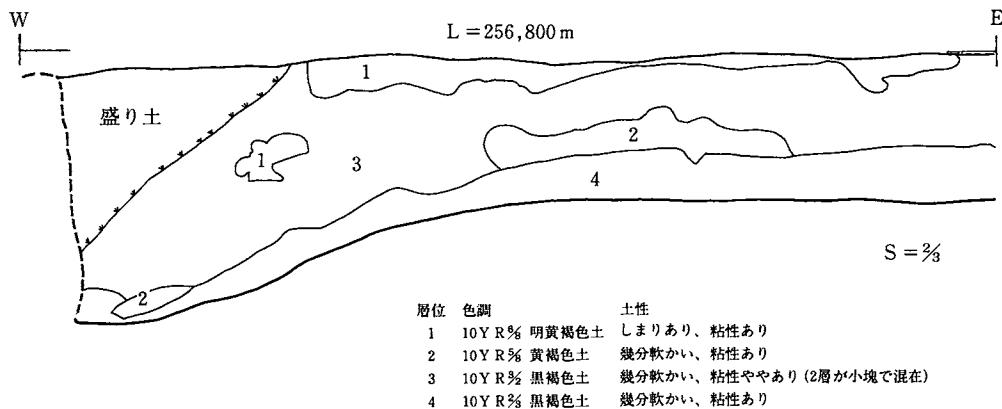
4 P 区に位置している。平面形は小判形である。南北方向に長軸をもち、開口部の大きさは 1.90 m × 0.90 m である。底部径は開口部径から北・西・南で約 25 cm 減、東で約 10 cm 減の規模となる。深さは 0.60 m である。埋土は 2 層であるが、一気に埋積した人為堆積の可能性がある。出土遺物はない。

第 3 号土坑

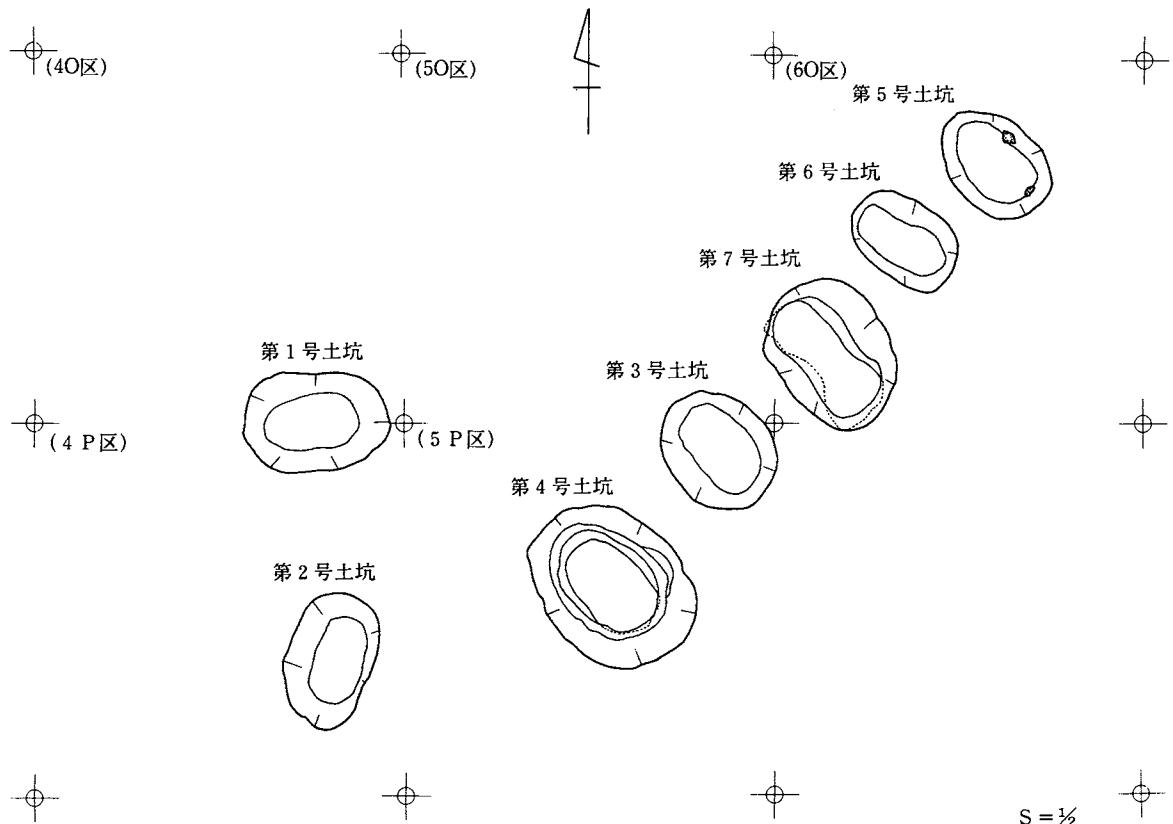
遺構（第 5 図、写真図版 4）

第2図 地形図・遺構配置図





第3図 5・6Mライン土層断面図



第4図 土坑の配置図

5 O区南東隅に位置している。平面形は小判型である。北西—南東方向に長軸をもち、開口部の大きさは $1.40\text{ m} \times 1.10\text{ m}$ である。底部径は開口部径から長軸方向で約 50 cm 減、短軸方向で約 35 cm 減の規模となる。深さは 0.70 m である。埋土は 10 層まで細分できるが、4 ~ 10 層は一気に埋積した人為堆積と考えられる。出土遺物はない。

第 4 号土坑

遺構（第 5 図、写真図版 4）

5 P 区中央部に位置している。検出時には 2 基の土坑の切り合いのように見えたが、南東部のものは抜根による攪乱であった。北西部のものは削平土の再堆積層に覆われていたため、検出時よりも規模は大きくなつた。断面計測は南東隅の変則的なものである。平面形は小判形である。北西—南東方向に長軸をもち、開口部の大きさは $1.95\text{ m} \times 1.45\text{ m}$ である。断面形は幅広の漏斗形になり、底部径は開口部径から長軸方向で約 80 cm 減、短軸方向で約 80 cm 減の規模となる。深さは 1.00 m である。埋土は 6 層であるが、一気に埋積した人為堆積の可能性がある。埋土中位北寄り部分に少量の炭化物が認められたが、出土遺物はない。

第 5 号土坑

遺構（第 6 図、写真図版 5）

6 O 区北東部に位置している。平面形は小判形である。北西—南東方向に長軸をもち、開口部の大きさは $1.30\text{ m} \times 0.95\text{ m}$ である。底部径は開口部径から長軸方向で約 30 cm 減、短軸方向で約 35 cm 減の規模となる。深さは 0.55 m である。側壁には段丘基底礫が数個残存しているが、底部からは除去されている。埋土は 4 層に区分されるが、層理面は明瞭でなく、一気に埋積した人為堆積の可能性が強い。出土遺物はない。

第 6 号土坑

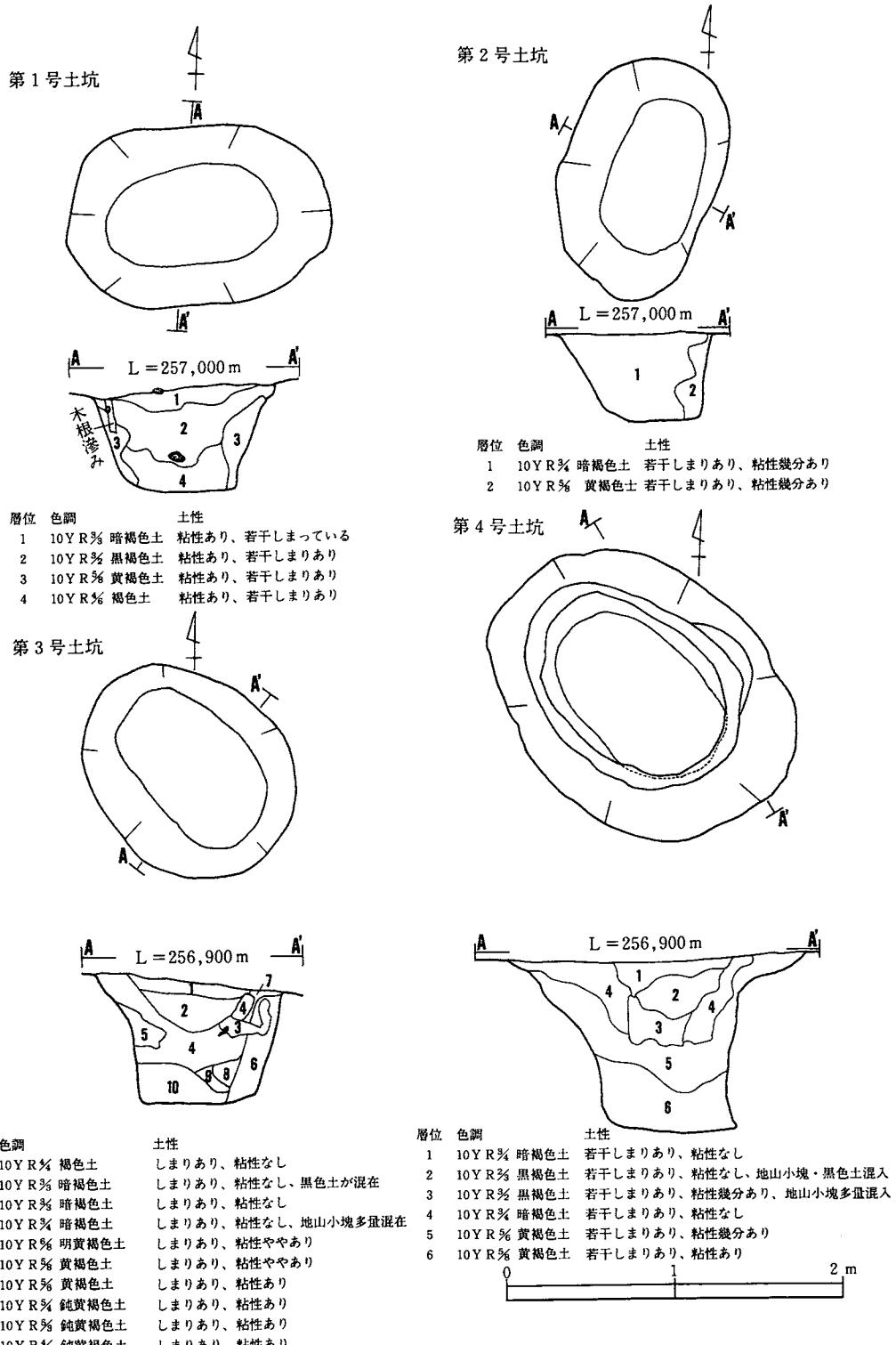
遺構（第 6 図、写真図版 5）

6 O 区中央部に位置している。平面形は小判形である。北西—南東方向に長軸をもち、開口部の大きさは $1.90\text{ m} \times 0.90\text{ m}$ である。底部径は開口部径から長軸方向で約 20 cm 減、短軸方向で約 40 cm 減の規模となる。深さは 0.45 m である。埋土は 2 層に区分できるが、一気に埋積した人為堆積と思われる。出土遺物はない。

第 7 号土坑

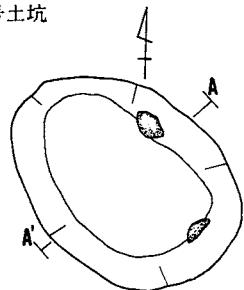
遺構（第 6 図、写真図版 5）

6 O 区南西部に位置している。平面形は小判形である。北西—南東方向に長軸をもち、開口部の大きさは $1.70\text{ m} \times 1.20\text{ m}$ である。底部径は開口部径から長軸方向で約 20 cm 減、短軸方向で約 80 cm 減の規模となる。深さは 0.90 m である。底部形は南京豆状のえぐり込みになっているが、地山と埋土の区別が難しい土層で、長軸方向で幾分掘り過ぎ、短軸方向で掘り足らずの

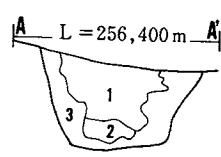
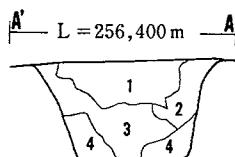
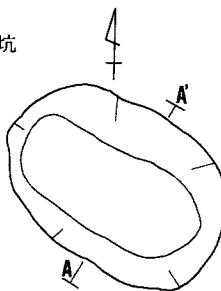


第5図 第1号～第4号 土坑

第5号土坑



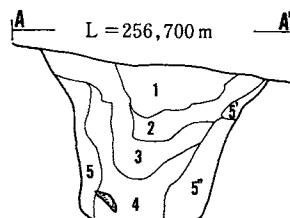
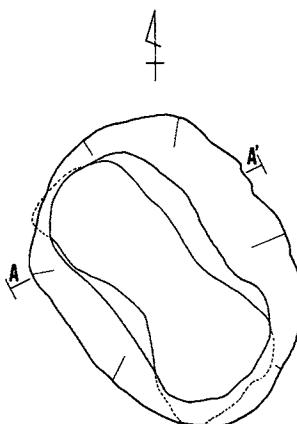
第6号土坑



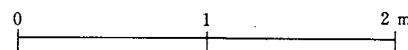
層位	色調	土性
1	10Y R 2%	黒色土 粘性あり、やわらかい、地山小塊、炭含む
2	10Y R 3%	暗褐色土 粘性あり、しまっている、地山小塊を多く含む
3	10Y R 3%	暗褐色土 粘性あり、しまっている、黒色土・地山小塊を少量含む
4	10Y R 6%	褐色土 粘性あり、しまっている (壁崩落土)

層位	色調	土性
1	10Y R 2%	黒色土 粘性あり、やわらかい、地山小塊・炭含む
2	10Y R 3%	暗褐色土 粘性あり、しまっている、黒色土・地山小塊を少量含む
3	10Y R 3%	暗褐色土 粘性あり、しまっている、地山質土多い、根滲みあり

第7号土坑

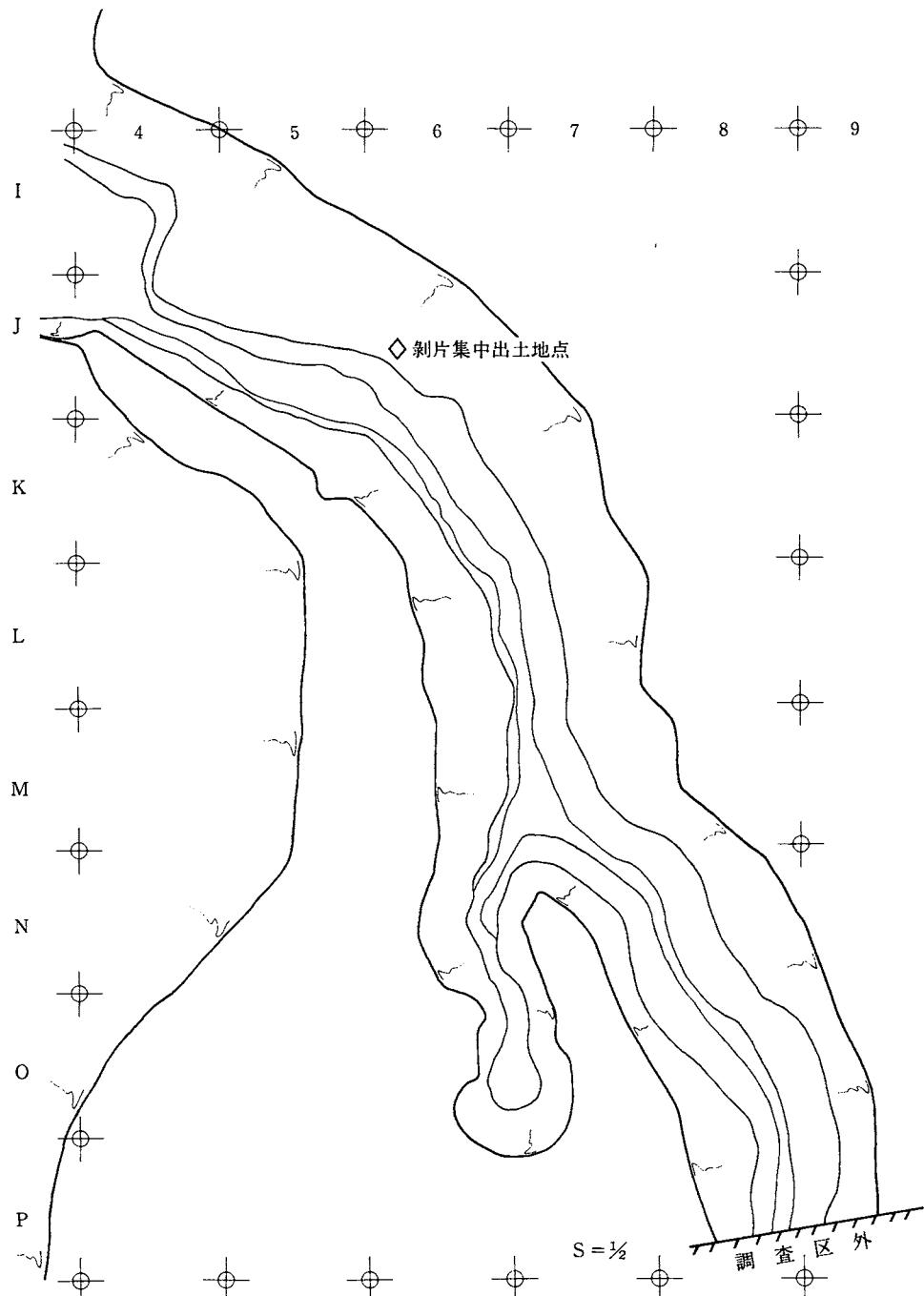


層位	色調	土性
1	10Y R 2%	黒褐色土 しまりあり、粘性幾分あり
2	10Y R 3%	黒褐色土 しまりあり、粘性幾分あり
3	10Y R 3%	暗褐色土 若干しまりあり、粘性幾分あり
4	10Y R 6%	黄褐色土 しまりあり、粘性あり
5'	10Y R 6%	黄褐色土 若干しまりあり、粘性弱、黒色土が少量混在
5''	10Y R 6%	黄褐色土 若干しまりあり、粘性あり、黒色土が少量混在



第6図 第5号～第7号 土坑

きらいがある。底部には基底礫が残存しているが、石を抜き取って副穴様に掘り込まれた部分が中央にある。埋土は5層である。7基の土坑中で一番自然堆積の可能性が強い。出土遺物はない。



第7図 西端部旧地形

(2) その他

調査区西端部の西側は沢に画されているが、そこへ向かう小埋没谷が認められた。埋没谷の先端部の底は岩盤になっており、前述の沢とは6 m程の落差をもつ。埋没谷の埋積土には遺物が2～3

点程認められた。また埋没谷の中間地点から約1m位離れた平坦部に、剝片の密集した箇所が検出された。これらの剝片は原位置を保っていると考えられる（第8図）。

4. 出土遺物

遺物は石器と少量の土器が出土した。縄文土器の大半は深鉢である。剝片石器や剝片は調査区の西端部に多い。その他として土人形の頭部（第17図100・写真図版9）などが出土している。以下、土器・石器・その他の順で掲載する。

(1) 土器（第9図、写真図版9）

破片のうち比較的部位が明確に

分かるもの、摩耗度が少なく施文の明確なもの、比較的同一個体の点数が多いもの、計7点を掲載した。

出土土器の大半は胎土に纖維を含むことなどから縄文時代前期のものと考えられ、中期・後期と思われる底部細片が少数ある。

1は深鉢の口縁部で山形突起状をなし、撚糸圧痕が施されている。2は深鉢の口縁部で撚糸圧痕が施されている。3は深鉢の口縁部で地文上の頸部に太めの原体が押圧されている。4は深鉢の口縁部で波状になっている口縁下に隆帯を巡らしている。この隆帯は上下から交互に刺突されており、この隆帯の直上は斜方向から刺突が施されている。5は深鉢の体部で絡条体圧痕文により木葉状文様を施している。内外とも摩耗している。6は深鉢の体部で撚糸結束部が押圧されている。7は深鉢の口縁部で棒状工具で刺突列が形成されている。1箇所外側からの穿孔が認められる。器面は内外面とも摩耗している。1～7はすべて胎土に纖維を含み、1・2・4・6は煤が付着している。これらの土器のうち1～6は大木2式、7は大木3式に属するものと考えられる。

(2) 石器

a. 石鏃（第10図、写真図版6）

茎の有無によって無茎鏃と有茎鏃の二つに分けられる。無茎鏃は基部の形態で平基と凹基の



第8図 剥片集中部出土状態

S = 1/3

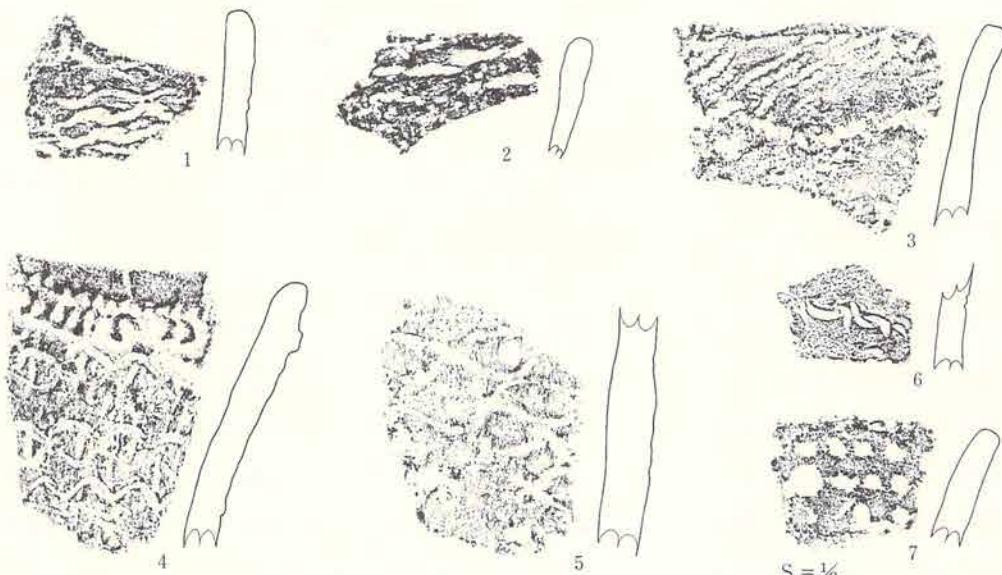
二つに分けられる。平基としたものは中心線に対して基部がほぼ直交するもので、1～5までの5点である。6は下半分が欠損しているが、いちおうここに含めた。これらの個々のものは基部が完全に水平な訳でなく、多少の凹凸と基部の一端に小さな抉り込みが存在する。凹基としたものは基部にゆるい弧を描く抉入があるもののみで、7・8の2点である。7は8より調整が丁寧である。有茎鎌としたものは9・10の2点である。いずれも小型のもので、調整は粗雑である。とくに9は調整し難い石材を用いており、実用性の点で疑問が残る。

b. 石槍 (第10・11図、写真図版6・7)

この区分に該当するものは11～17の7点である。大半が欠損品なので形態的に区分しない。11はほぼ完形品であるが、先端部は尖頭状になっていない。12は下半部が欠損したもので、断面は薄い。調整は非対称になっている。13・15・17は両端部が欠損したものである。幅広で、使用に伴う抉り込み跡が中央部にある。14は肉厚の器形になっている。16は先端部のみ残存したもので、調整は粗い。

c. 石錐 (第10図、写真図版6)

出土したものは2点だけである。18は19より調整が丁寧である。



番号	地点・層位	器種	部位	器形／外 面	内 面	胎 土	図版	写図	備 考
1	5 J Q 3 1層	鉤	口縁部	山形突起 LR 摩耗痕	煤付着	纖維含む	9	9	
2	31G	鉤	口縁部	LR 摩耗痕	煤付着	纖維含む	9	9	
3	4 I Q 4 1層	鉤	口縁部	R L頭部に太めのR L原体押圧	摩耗	纖維含む	9	9	
4	6 I 2層下部	鉤	口縁部	波状口縁隆起交互刺突斜方向刺突	煤付着	纖維含む	9	9	
5	5 J 1	鉤	体部	格状体圧痕木葉状 摩耗	摩耗	纖維含む	9	9	
6	42 E	鉤	体部	結束部圧痕	煤付着	纖維含む	9	9	
7	51 Q 3 3層	鉤	口縁部	棒状工具刺突列 摩耗	摩耗	纖維含む	9	9	

第9図 出土土器

d. 石匙（第11～13図、写真図版6・7）

形態により縦長石匙と横長石匙とに区分した。縦長石匙は20～39の20点である。ほぼ完形のものは20～23・29の5点である。23・29は調整が粗雑である。33はつまみ様のものが作り出されているが、調整が粗雑なものである。30は剝片集中区出土の製作途中段階での未製品である。他のものは欠損しているが、いちおうここに含めた。横長石匙は40～43の4点である。40・42はつまみの位置が幾分左右に偏っている。41・42は中央寄りにつまみが付いているものである。また41は実用品と言うより装飾品の類いのものと考えられる。

e. 搔器・削器・石箆状石器（第13～16図、写真図版7～9）

円形のものや左右非対称のもので従来搔器や削器とされていたものに近似の形態をもつものは形態から4区分した。従来石箆とされていたものに近似の形態のものは、橢円形に近い形状のもの、頭部にやや幅のあるもの、頭部が尖っているものに3区分した。

①搔器・削器

44～46は不定形石器に区分することも可能な形態であるが、一応ここに区分した。48～52も44等と同様な不確定性をもつものであるが、一応ここに区分した。

②石箆

橢円形に近い形態のものは53～55の3点である。頭部にやや幅があり両面に加工してあるものは58～60の3点である。頭部が尖っているものは61～67の7点である。

f. 打製石斧（第16図、写真図版9）

68・69の2点である。自然面を残すものとそうでないものの違いはあるが、ともに大型のものである。

g. 磨り石・凹石（第16・17図、写真図版9）

70は長辺の部分を磨ってあるもので、71のような弾けた部分をもたない。71は半円状偏平打製石器に近い用途の考えられるものである。72は半割り礫の両面に凹所をもつものである。

h. 接合剝片など（第16・17図、写真図版9）

74～76は剝片集中部に出土したもののうち接合した資料である。2～4片がそれぞれ接合している。77は9片が接合したものである。一部の剝片は調整加工を施しながら、途中でやめた形跡が認められる。この石材は珪質泥岩であるが、不規則に充填鉱物の薄層を内在させているためか不規則な割れ方をしている。このようなことが77のような接合関係が見られる残存状態で発見された理由の一つであるとも考えられる。

(3) その他（第17図、写真図版9）

73は土坑が検出された地域の耕作土から出土した黒曜石で、加工を施した痕がある。100は土製人形の頭部である。島田髪の様相を呈し、顔の部分に鼻が突起として認められる。首には心

棒をはめる穴が設けられている。髪と顔の部分にわずかながら模様らしいものが認められる。

5. まとめ

(1) 遺構

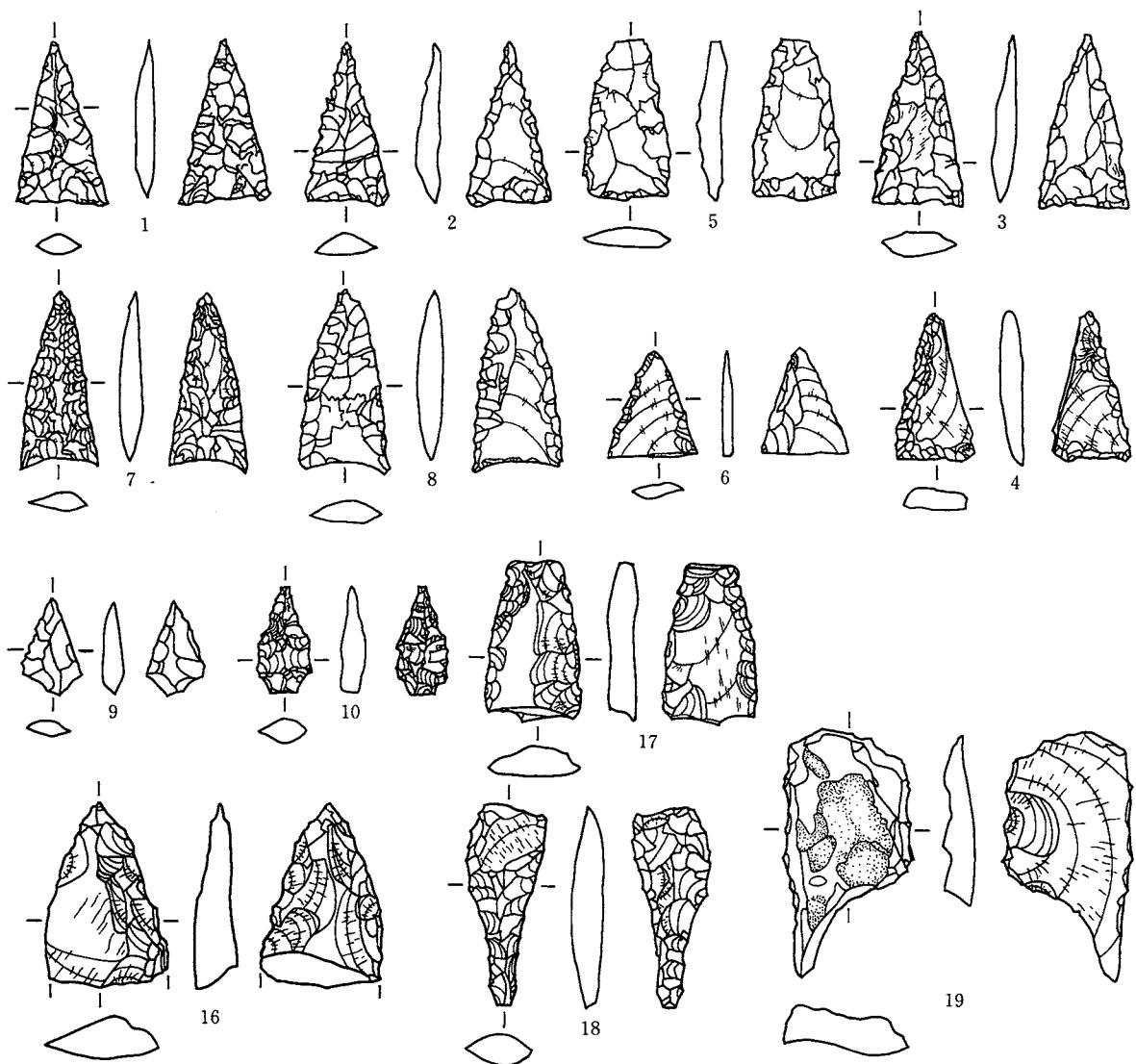
縄文時代に属する土坑7基が検出された。第1号と第2号・第3号・第5号・第6号は形状のみでの判断であるが、墓壙と思われる。第4号・第7号土坑は形状および埋土から墓壙以外の性格を考慮したが、墓壙と考えられる他の3基と並んでいるので、この2基だけを除外する根拠に乏しい。したがって7基全部が墓壙になる可能性が高いと考えたい。集落跡における占地例などをみると、台地の先端部に墓域が設けられることが多い。本遺跡の街道筋にある秋田県虫内I遺跡と虫内III遺跡では舌状に張り出した先端部を墓域とし、縄文時代後期後半から晩期前半にかけての墓壙が100基以上、土器棺墓が250基以上も検出されている。その事例だけで本遺跡の土坑を墓壙とすることは短絡的であるが、あえて区分することが求められるとすれば、前述のような結論となる。これらの構築年代は不明である。なお、本遺跡4号土坑に類似する塚野II遺跡の遺構出土炭化物は学習院大学において年代測定をした結果、2780年±130B.P.の値を得ていることを参考までに付記しておく。

(2) 遺物

土器は、大半が破片のため明確なことは言えないが、縄文時代前期から後期にかけてのものが見られる。縄文時代前期の土器は大木2式および大木3式に属するものと考えられる。石器については旧石器の条件を備えた遺物を認めることができなかった。剝片の接合例は隣接の塚野II遺跡や大渡II遺跡に見られる。また湯田町教育委員会が平成4年に発掘調査した左草遺跡からは大量の縄文時代の石器が検出されている。

(3) 遺跡

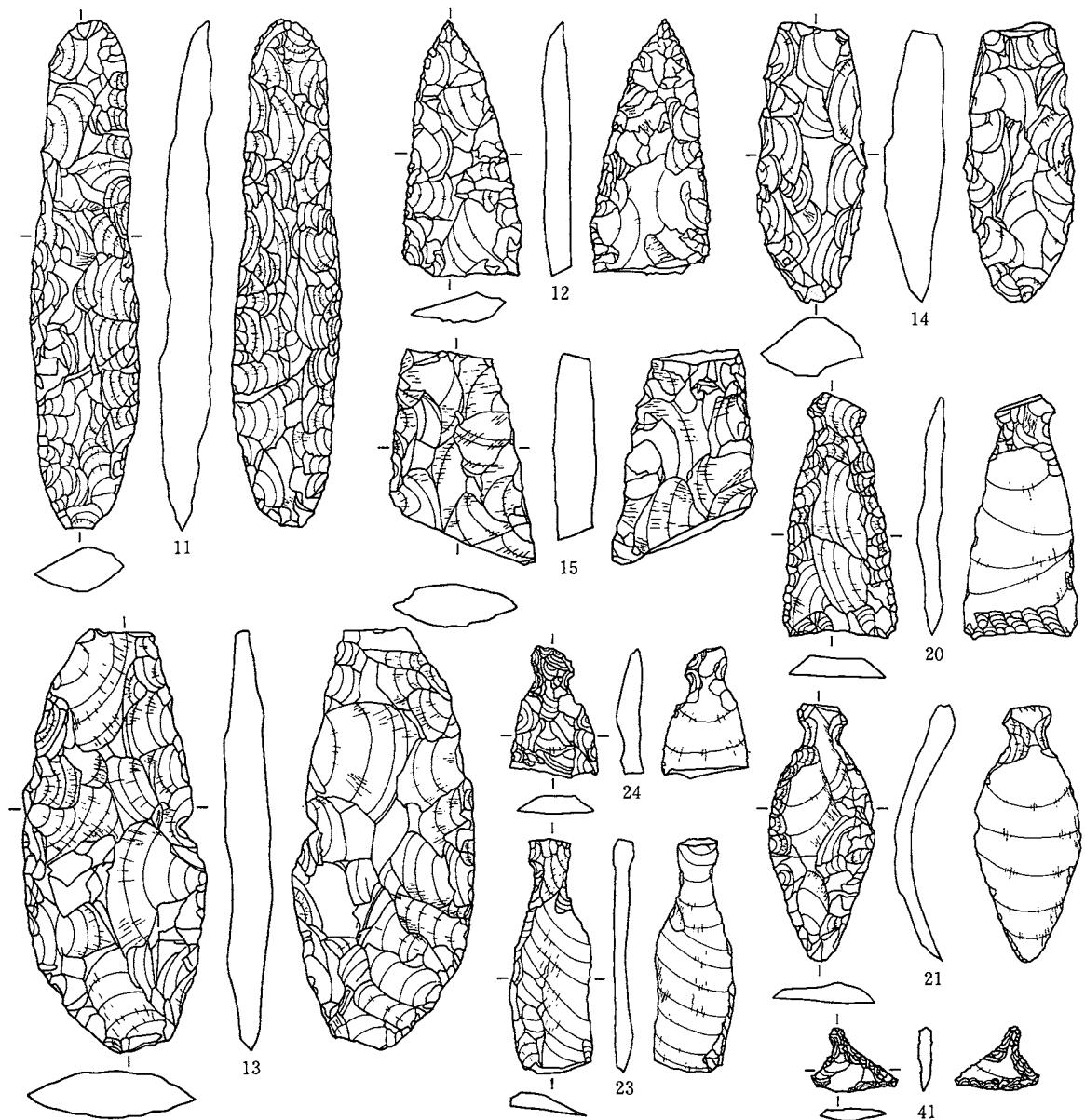
今回の調査によって、縄文時代の土坑7基と縄文時代前期から後期にかけての縄文土器、石器などの遺物が確認された。開田工事に伴う地山に達する攪乱を受け、遺構・遺物はあまり残っていないが、定形石器の石鏃が見られることや隣接する塚野II遺跡から落とし穴と思われる土坑および陥し穴状遺構が検出されていることなどから、遺跡の性格としては、狩猟の場であったと考えられる。同時に、小沢のそばで、鬼ヶ瀬川の転石を利用できた西端部は石器製作がなされた場であった可能性があること、さらには、ある時期においては墓域であったとも考えられる。これら縄文人の生活根拠地は現在判明していないが、調査区の南側に集落が存在する可能性も考えられる。



S = 1/3

番号	器種	地 点	層 位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材 質	産 地	図	写図	備 考
1	石鎌	6O	旧表土	3.4	1.8	0.4	2.1	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
2	石鎌	40L	2層	3.2	1.7	0.5	1.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
3	石鎌	5 J (Q 1)	2層	3.4	1.8	0.5	2.7	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	10	6	
4	石鎌	6 K	2層	3.1	1.6	0.5	2.1	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
5	石鎌	41(Q 4)	1層	3.3	1.7	0.5	2.7	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
6	石鎌	5 F (2+3)	表土	2.2	1.8	0.3	0.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
7	石鎌	39H	2層	4.0	1.7	0.5	2.3	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
8	石鎌	5 J (側削)	2層	3.6	1.8	0.5	3.2	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
9	石鎌	12M	1層	1.9	1.3	0.5	0.9	玉髓	奥羽山地(湯田) 中新統	10	6	
10	石鎌	5O	1層	2.2	1.1	0.5	0.9	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
16	石槍	41(Q 4)	3層	3.9	2.5	0.9	7.4	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
17	石槍	27 L	2層	3.2	2.0	0.6	4.4	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
18	石錐	5 J	2層	4.1	1.6	0.7	2.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	
19	石錐	6 G	1層	5.0	2.6	0.9	9.7	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	10	6	

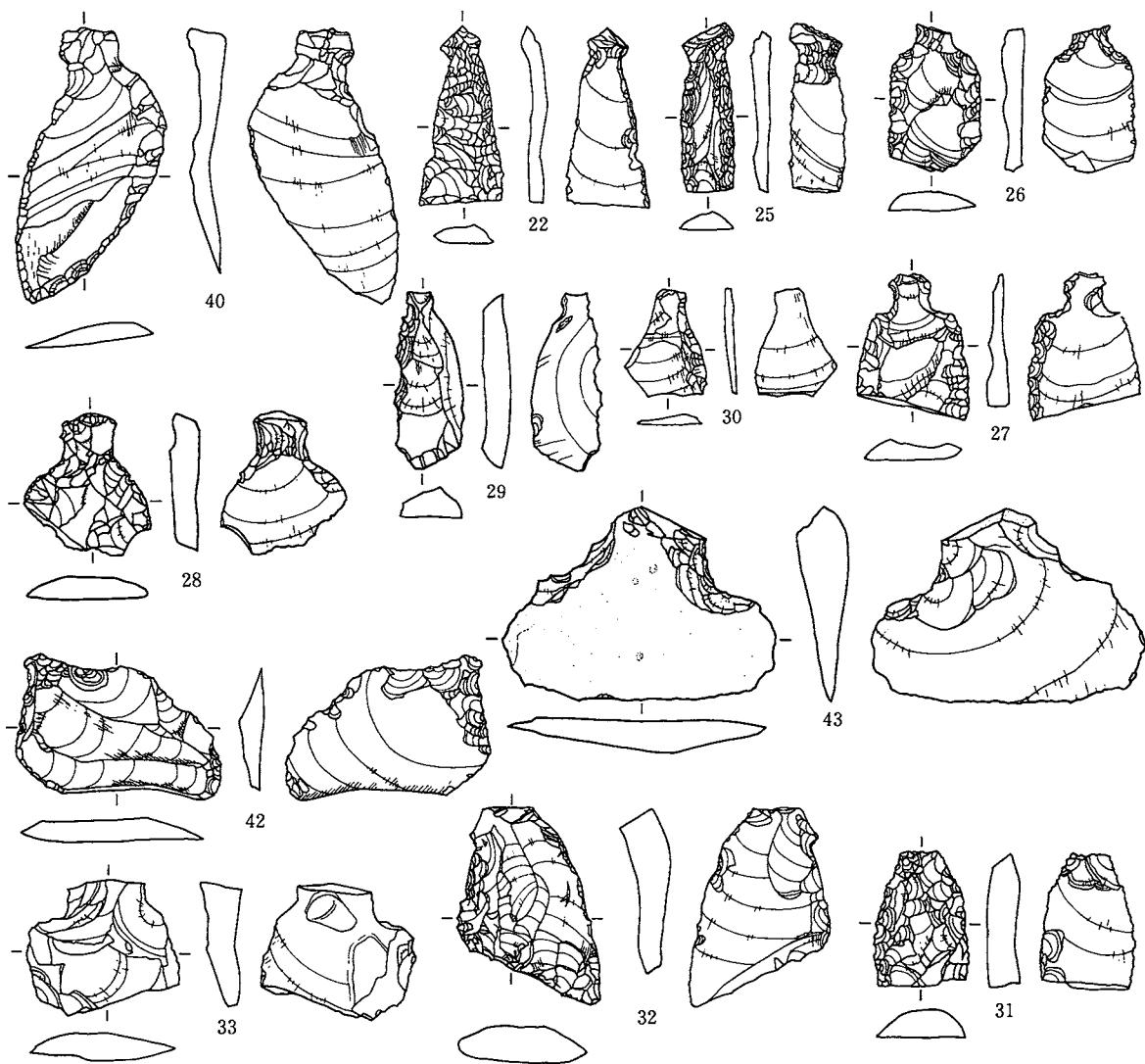
第10図 石鎌・石錐・石槍



S = 1/2

番号	器種	地 点	層 位	長さ(回)	幅(回)	長さ(回)	重さ(g)	材 質	地 産	図	写 図	備 考
11	石槍	4 H (Q 3)	3層	14.4	3.2	1.4	56.1	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	7
12	石槍	32 J	2層	7.2	3.4	0.8	19.4	珪質泥岩	川尻横手方面	中新統	11	7
13	石槍	7 I	1層	12.1	5.2	1.3	85.8	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	11	7
14	石槍	6 F (2+3)	1層	8.5	3.4	1.8	52.1	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	7
15	石槍	5 J	2層	6.1	4.1	1.2	27.1	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	6
20	石匙	4 H (Q 1)	1層	6.9	3.2	0.7	13.3	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	6
21	石匙	6 I	1層	7.4	3.0	0.7	17.7	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	6
23	石匙	4 I (Q 4)	1層	6.7	2.3	0.6	10.4	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	11	6
24	石匙	5 J (Q 2)	2層	3.7	2.5	0.7	4.8	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	11	6
41	石匙	5 J	2層	1.8	2.5	0.4	1.1	鉄石英	奥羽山地	中新統	11	6

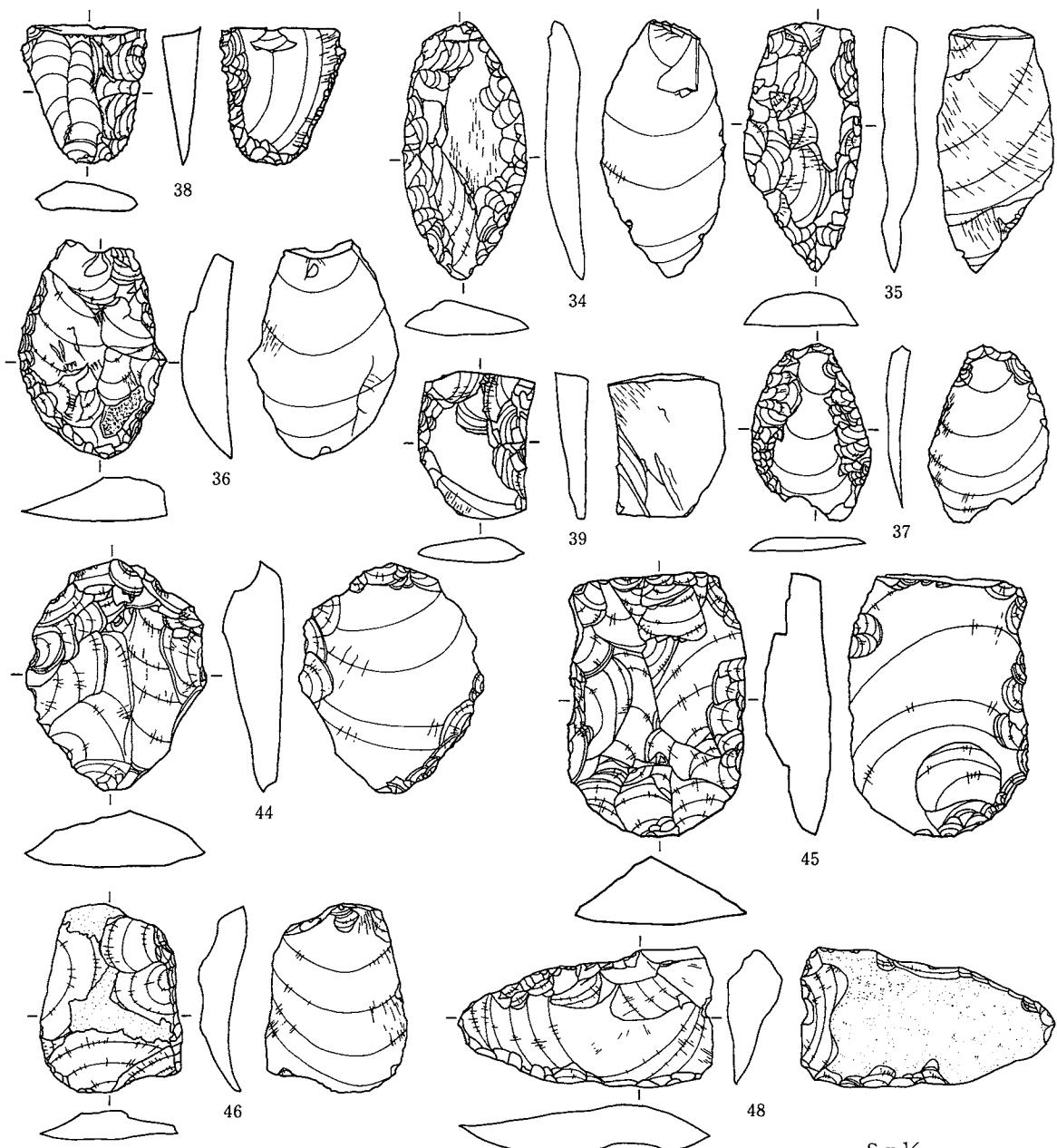
第11図 石槍・石匙



S = 1/2

番号	器種	地 点	層 位	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(g)	材 質	産 地	図	写 図	備 考
22	石匙	22 B	2層	4.8	2.3	0.7	5.3	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	6	
25	石匙	6 J	3層	4.5	1.5	0.5	3.8	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	12	6	
26	石匙	6 I	2層	3.9	2.5	0.7	6.1	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	12	6	
27	石匙	11 E	2層	3.9	3.0	0.6	6.4	珪質泥岩	川尻横手方面 中新統	12	6	
28	石匙	10 J	2層	3.9	3.4	0.8	8.2	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	6	
29	石匙	6 J.	3層	4.7	1.9	0.8	6.6	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	12	6	
30	石匙	5 I (Q 4)	3層	2.9	2.2	0.3	1.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	6	
31	石匙	5 M	3層	3.6	2.5	0.7	9.0	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	6	
32	石匙	12 D	2層	5.4	3.9	1.3	20.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	7	
33	石匙	5 J (Q 1)	3層	3.7	4.7	1.1	11.4	珪質泥岩	川尻横手方面 中新統	12	6	
40	石匙	6 J	2層	7.5	4.0	1.0	19.0	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	12	7	
42	石匙	40 H	1層	3.8	5.6	0.7	15.1	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	12	7	
43	石匙	5 I (Q 1)	3層	5.2	7.4	1.4	33.9	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	12	7	

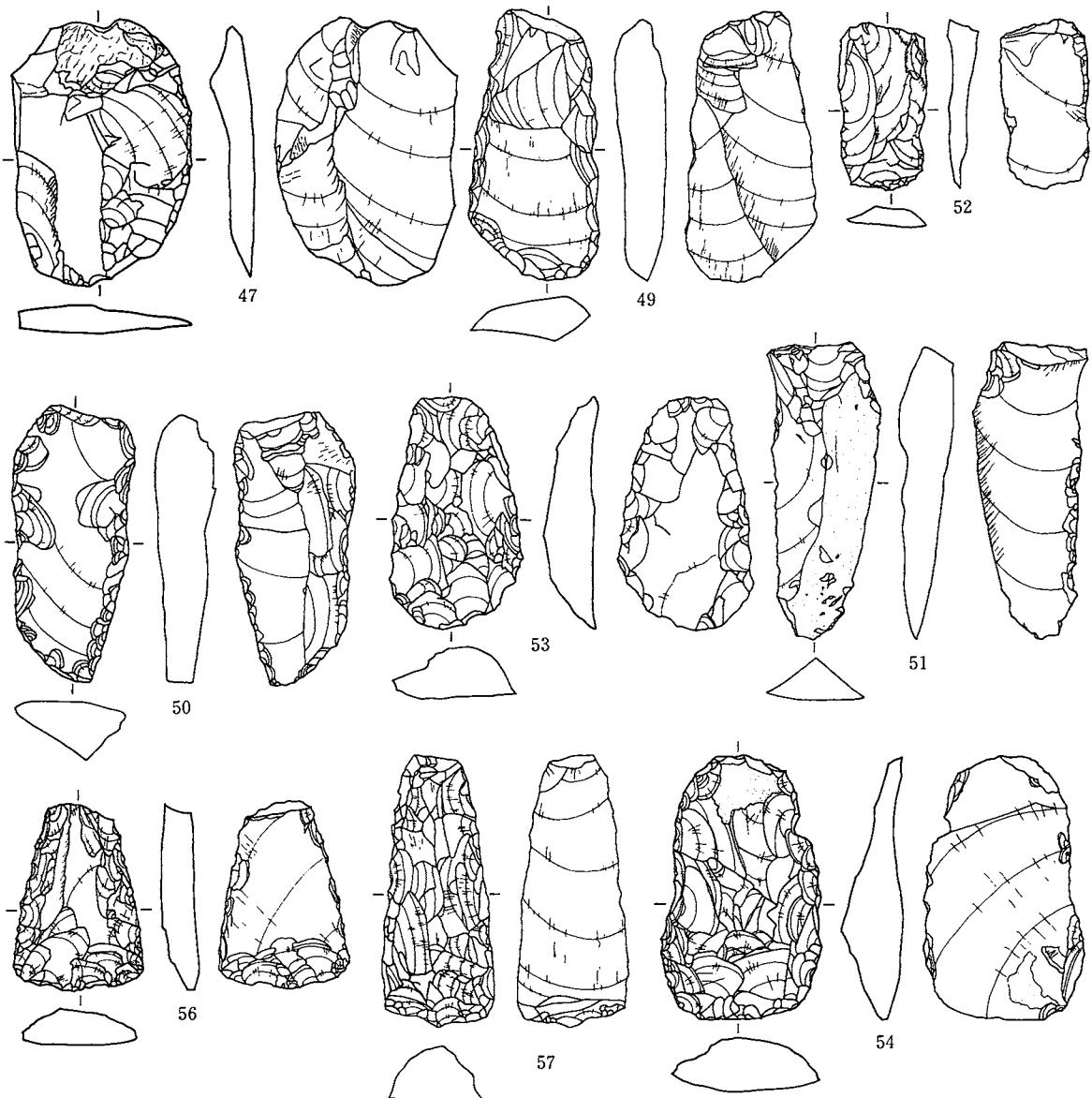
第12図 石匙



$S = \frac{1}{2}$

番号	器種	地	点	層	位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材 質	產 地	図	写 図	備 考
34	石匙	5 J		2層		7.5	3.6	1.0	25.4	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	7	
35	石匙	4 H (Q 4)		1層		7.2	3.4	1.0	27.0	珪質泥岩	川尻横手方面 中新統	13	7	
36	石匙	6 J		2層		6.9	4.7	1.4	40.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	7	
37	石匙	5 I (Q 3)		3層		5.2	3.5	0.7	8.2	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	7	
38	石匙	6 I		2層		4.1	3.7	1.1	14.7	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	7	
39	石匙	8 P		2層		4.2	3.4	0.9	13.3	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	7	
44	撗器	5 J		2層		6.7	5.3	1.7	56.4	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	13	7	
45	撗器	4 I		3層		7.8	5.2	2.0	78.6	珪質泥岩	川尻横手方面 中新統	13	7	
46	削器	12 B		2層		5.5	4.2	1.4	22.5	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	13	8	摘みが付けば石匙
48	削器	6 H		1層		4.1	7.4	1.6	37.0	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	13	8	

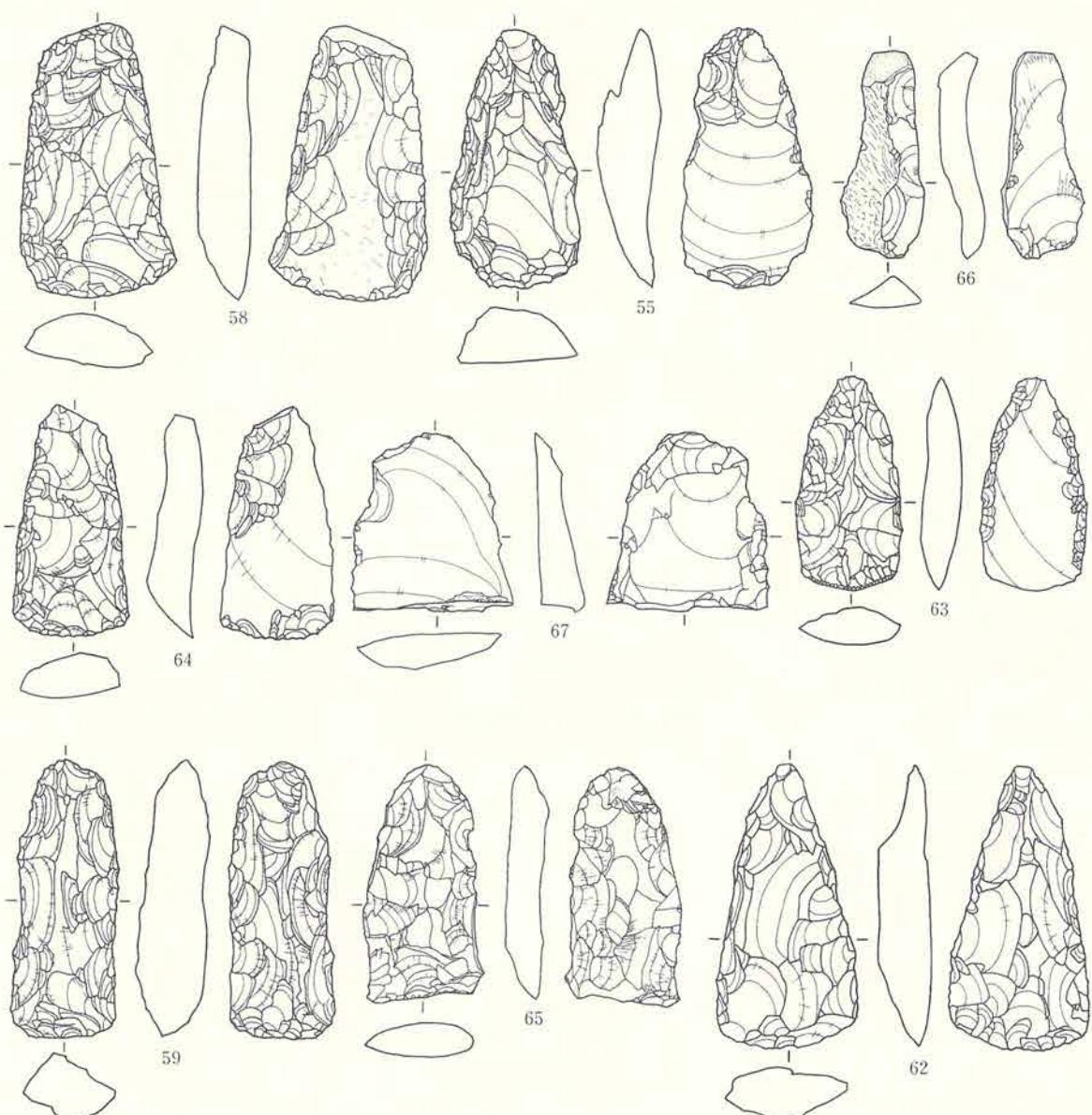
第13図 石匙・撗器・削器



$S = \frac{1}{2}$

番号	器種	地點	層位	長さmm	幅 mm	厚さmm	重さ(g)	材質	産地	図	写図	備考
47	削器	7 J	1層	7.5	5.1	1.1	38.6	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	14	8
49	削器	37 L	1層	7.6	3.8	1.5	48.2	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
50	削器	32 M	2層	7.7	3.5	1.7	48.2	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
51	削器	6 J	2層	8.5	3.2	1.5	31.0	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
52	削器	4 1 (Q 4)	2層	4.8	2.5	0.9	9.9	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	14	8
53	石鎚	22 N	2層	6.6	3.8	1.5	33.8	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	14	8
54	石鎚	5 H	1層	7.5	4.6	1.7	49.5	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
55	石鎚	6 F	1層	7.3	3.7	1.7	43.5	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
56	石鎚	6 F	1層	5.3	3.7	0.9	22.2	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8
57	石鎚	5 J (Q 1)	3層	7.7	3.2	1.6	42.9	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	14	8

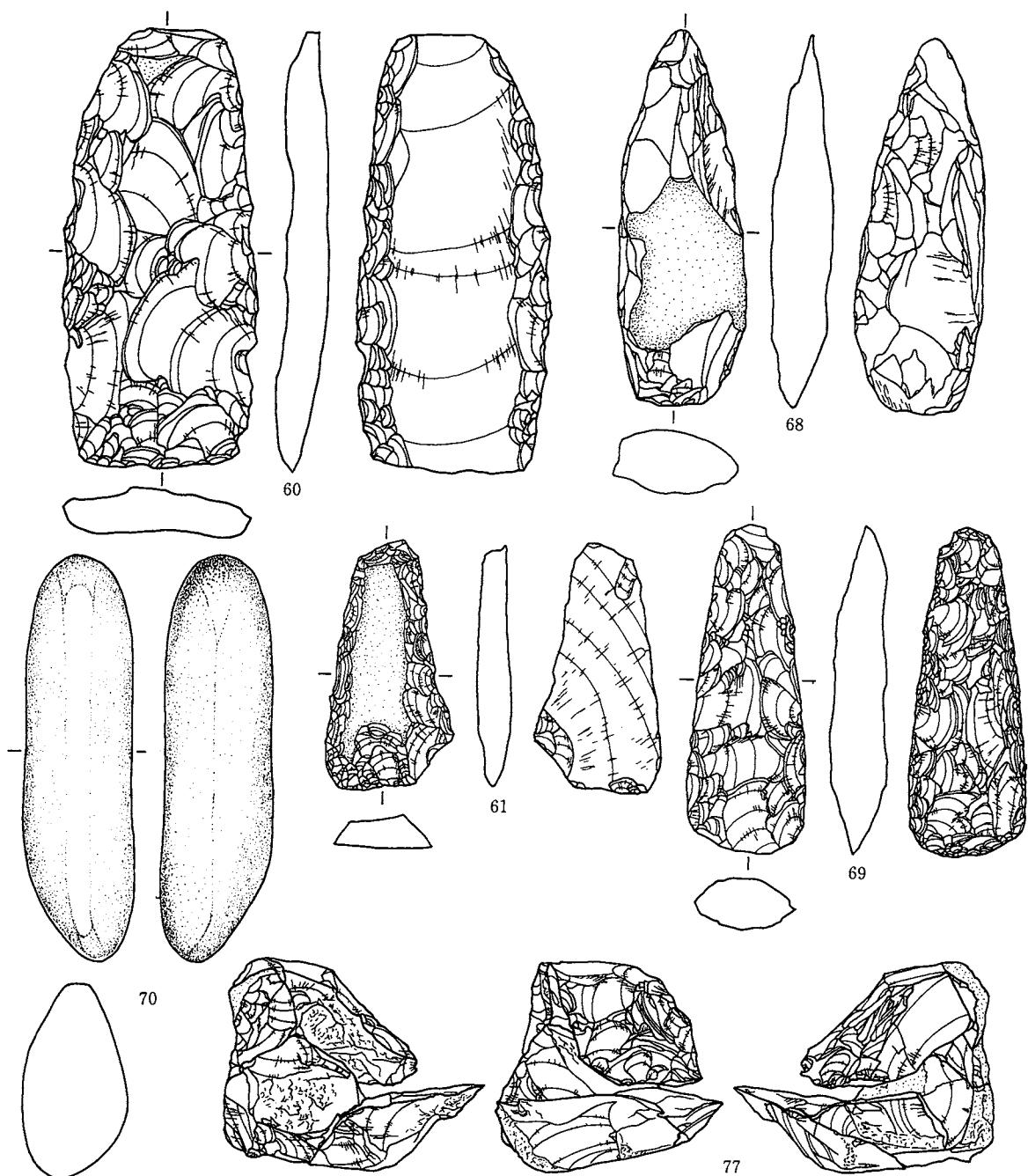
第14図 削器・石鎚



$S = \frac{1}{2}$

番号	器種	地 点	層 位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材 質	産 地	図	写 図	備 考
58	石鎧	5 L	3層	7.8	4.5	1.5	48.6	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	15	8
59	石鎧	5 J (1-4)	3層	7.8	3.0	2.0	45.3	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	15	9
62	石鎧	6 J	2層	8.1	3.9	1.5	42.0	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	15	9
63	石鎧	19 N	1層	6.5	3.3	1.3	23.8	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	15	8
64	石鎧	6 K	2層	6.6	3.3	1.5	29.6	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	15	8
65	石鎧	5 J (Q 2)	3層	6.8	3.5	1.3	25.9	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	15	8
66	石鎧	38 L	1層	6.3	3.1	1.4	18.7	珪質泥岩	川尻横手方面	中新統	15	8
67	石鎧	6 F (Q3)	1層	5.1	4.6	1.2	30.1	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	15	8

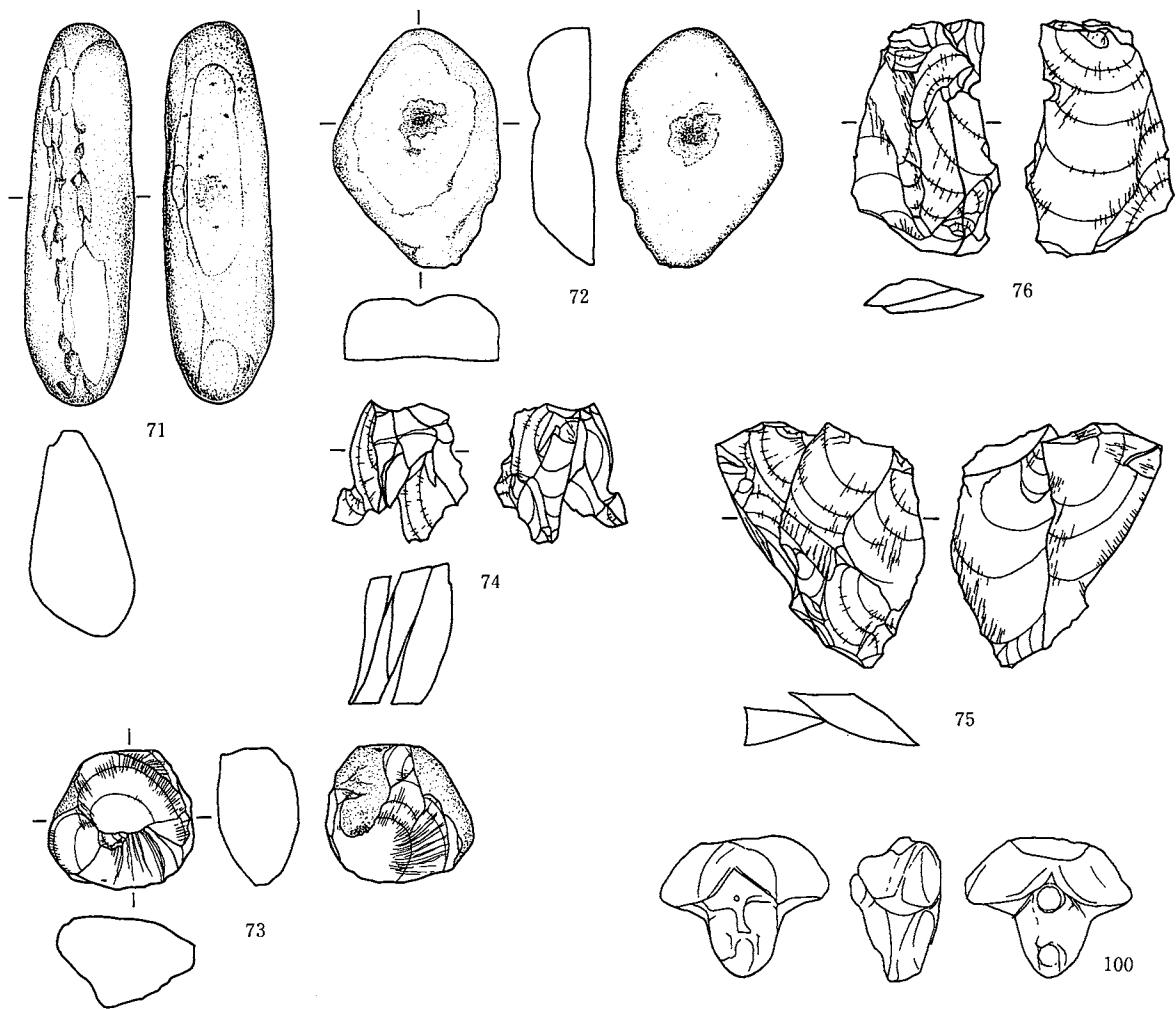
第15図 石鎧



$S = \frac{2}{3}$

番号	器種	地點	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	产地	図	写図	備考	
60	石鎧	37 L	1層	9.8	4.3	1.2	50.7	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	16	8	
61	石鎧	12 I	1層	11.0	5.8	1.6	116.0	泥質凝灰岩	湯田地方	中新統	16	9	
68	打製石斧	6 F (Q 4)	3層	16.9	5.7	2.8	315.0	粘板岩	和賀仙人付近	古生界	16	9	
69	打製石斧	5 J (Q 1)	1層	14.8	5.3	2.7	190.0	硬質泥岩	湯田沢内地方	中新統	16	9	
70	磨石	5 J (Q 4)	2層	18.2	8.7	4.8	1257.0	粘板岩	和賀仙人付近	古生界	16	9	
77	接合剝片	41 H (4・3)	3層	11.8	10.0	9.5	705.0	珪質泥岩	川尻横手方面	中新統	16	9	

第16図 石鎧・打製石斧他



S = 2/3

番号	器種	地點層位	長さmm	幅mm	厚さmm	重さ(g)	材質	産地	図写	備考
71	磨石	5J 4層	15.0	8.1	4.2	760.0	緑色凝灰岩	湯田周辺 中新統	17 9	
72	凹石	5J (Q3) 3層	9.4	6.6	3.6	155.0	流紋岩質細粒凝灰岩	湯田 中新統	17 9	
73	石材	6N 1層	2.3	2.9	1.6	21.1	黒曜石	奥羽山地 中新統	17 9	
74	接合剥片	5I (Q4) 3層	2.8	2.5	1.7	11.8	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	17 9	
75	接合剥片	5I (Q4) 3層	4.9	3.9	0.9	13.9	硬質泥岩	湯田沢内地方 中新統	17 9	
76	接合剥片	5I (Q4) 3層	4.7	3.0	1.2	11.5	泥質凝灰岩	湯田地方 中新統	17 9	

第17図 遺構外出土遺物

塚野I遺跡 写真図版



遺跡全景(航空写真、南東から撮影)



西端部土坑群および旧地形

写真図版1 全 景



西端部 検出状況



15~22区 検山状況



25~32区 検出状況



写真図版2 トレンチ検出状況

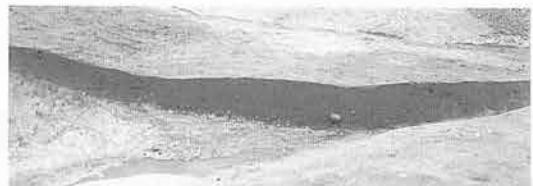
33~41区



42~48区 檜山状況



5・6M ライン土層断面



旧地形沢埋土



西端部 土層断面図 他



第1号土坑

平面

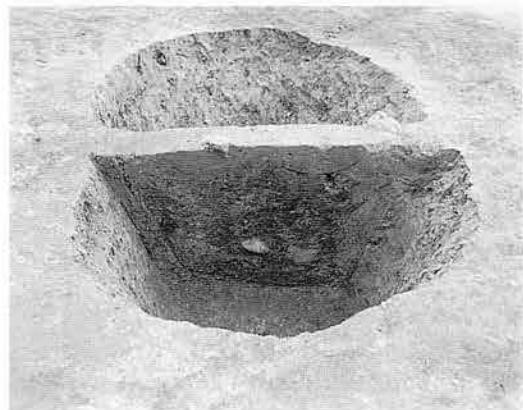
断面



写真図版3 検出状況・土層断面他



第2号土坑



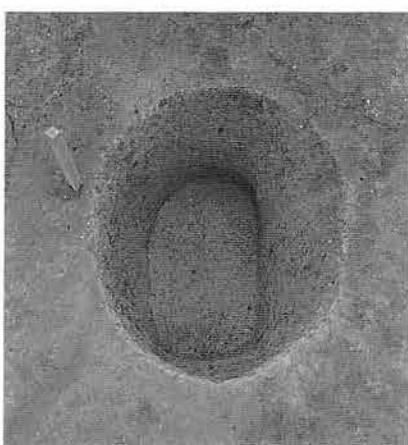
同左断面



第3号土坑



同左断面

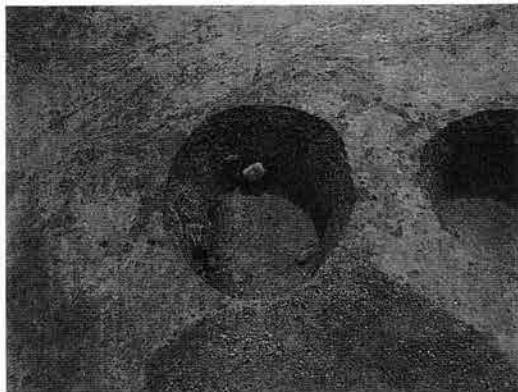


第4号土坑



同左断面

写真図版4 第2号～第4号土坑



第5号土坑



同左断面



第6号土坑



同左断面

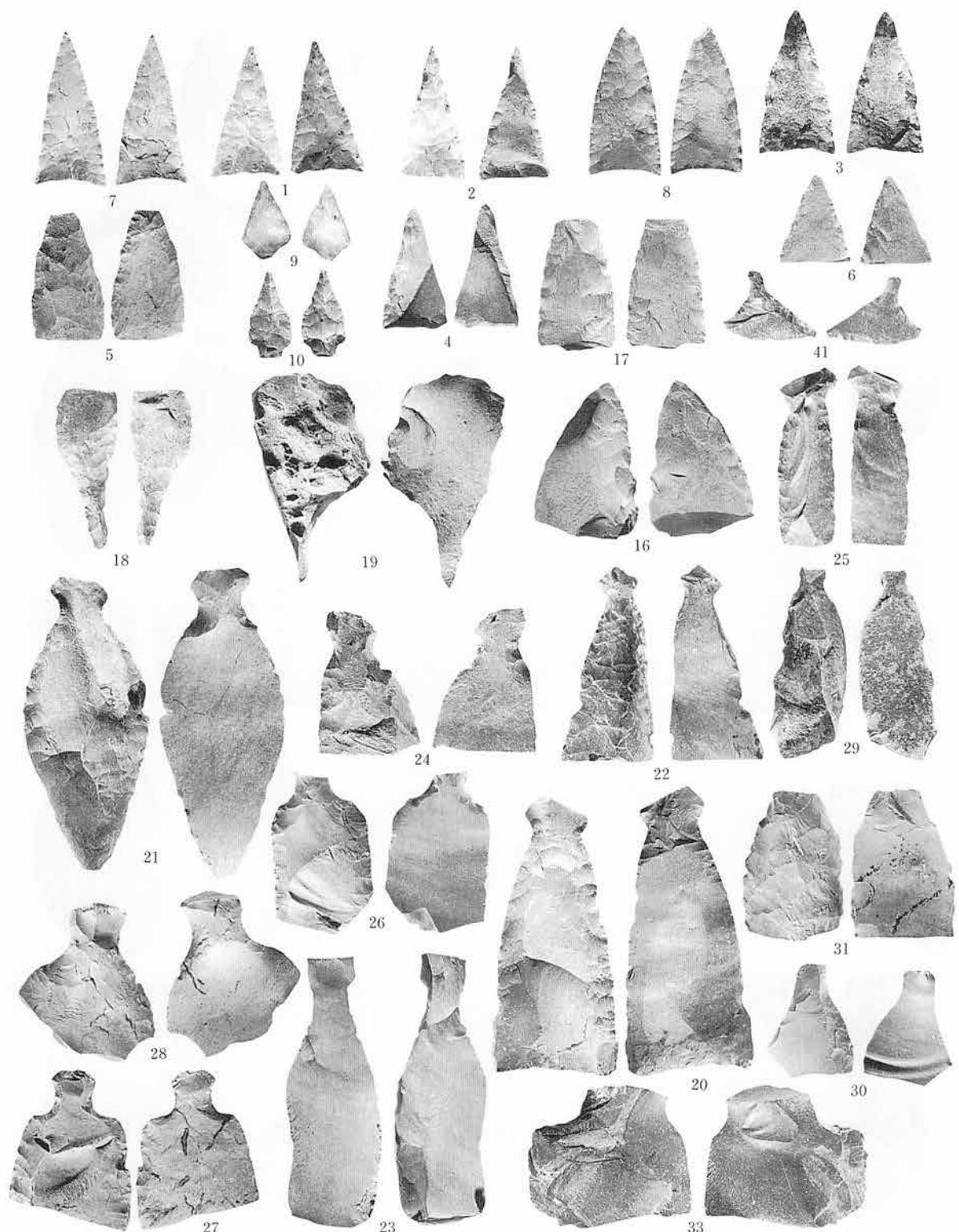


第7号土坑

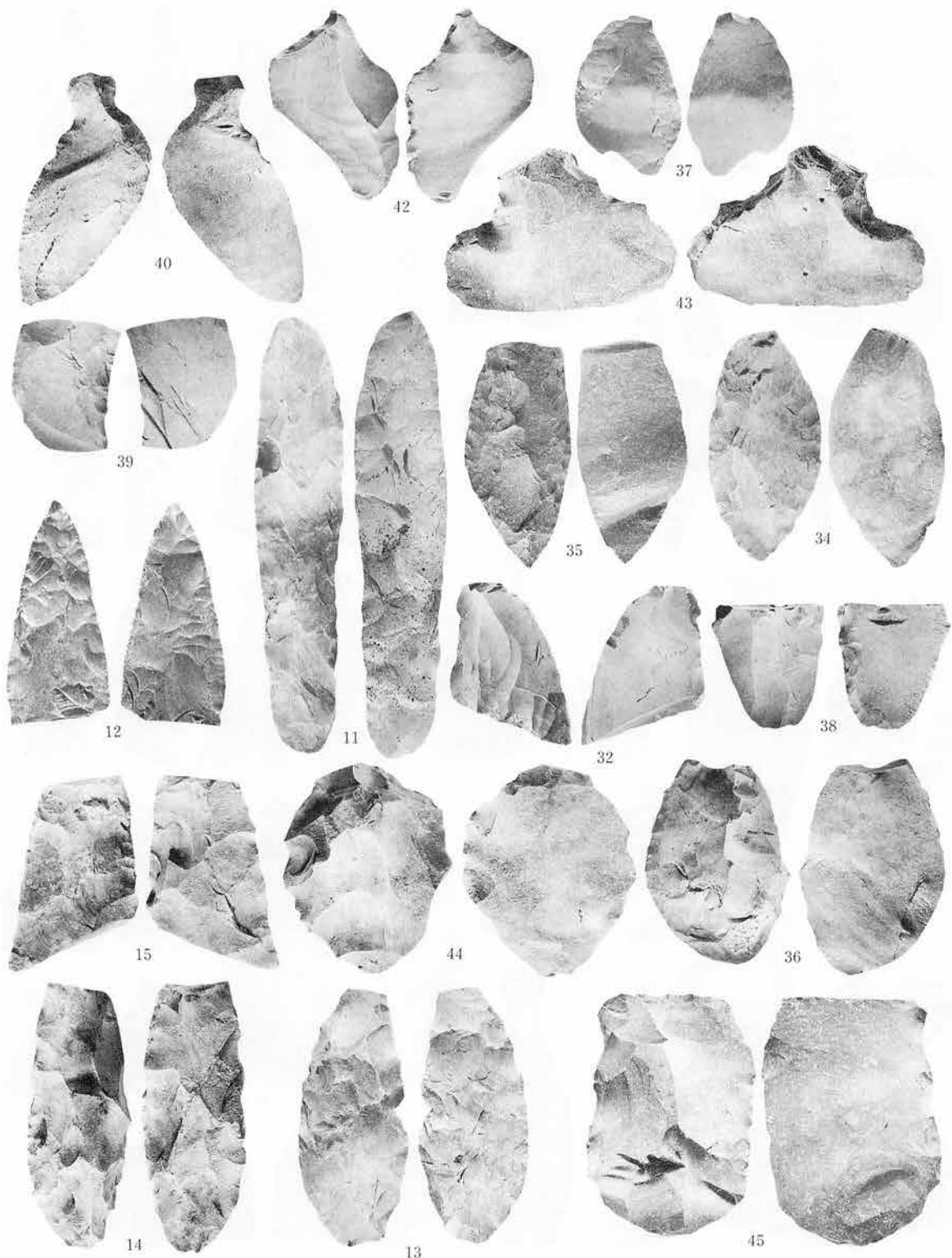


同左断面

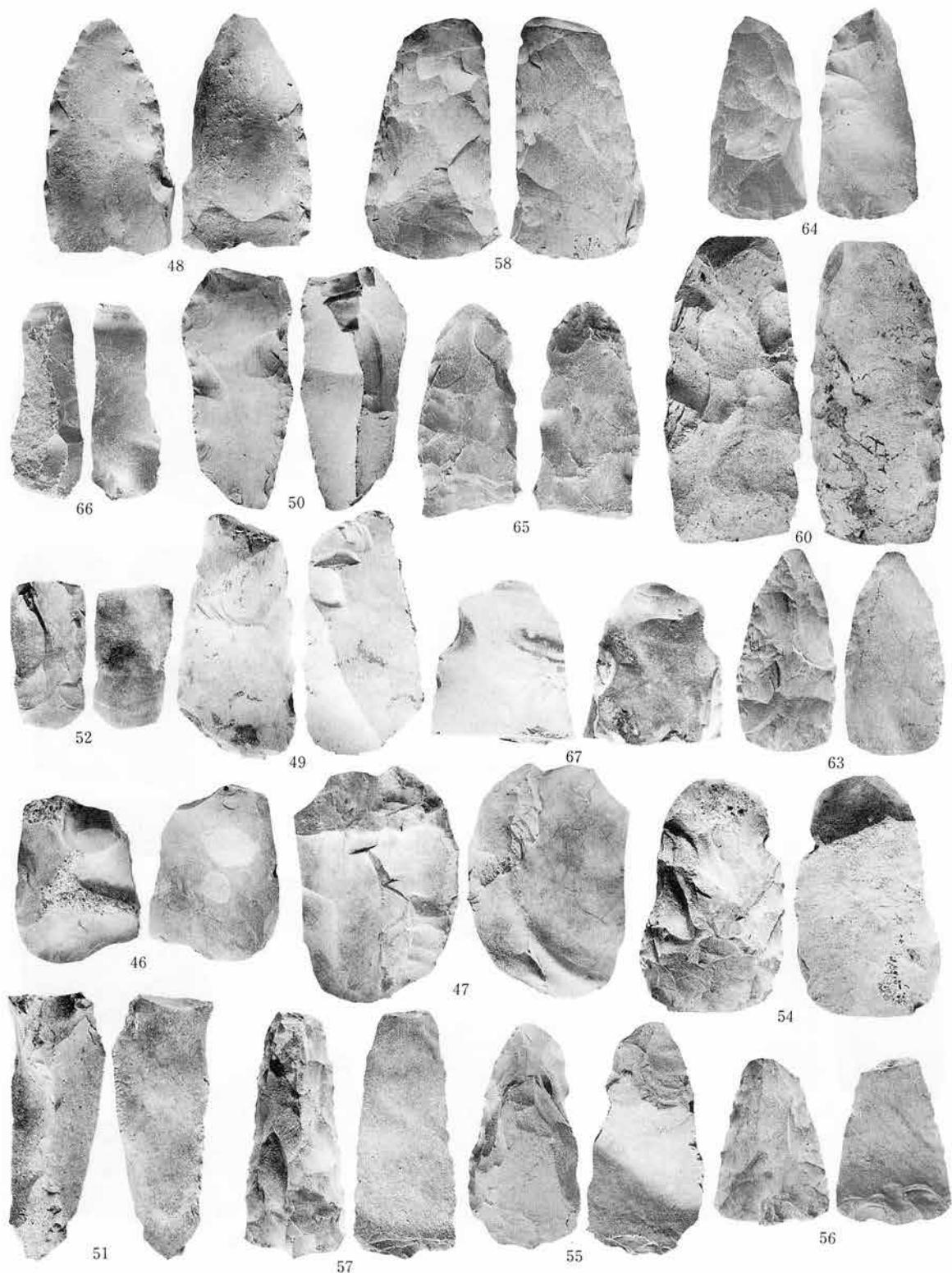
写真図版5 第5号～第7号土坑



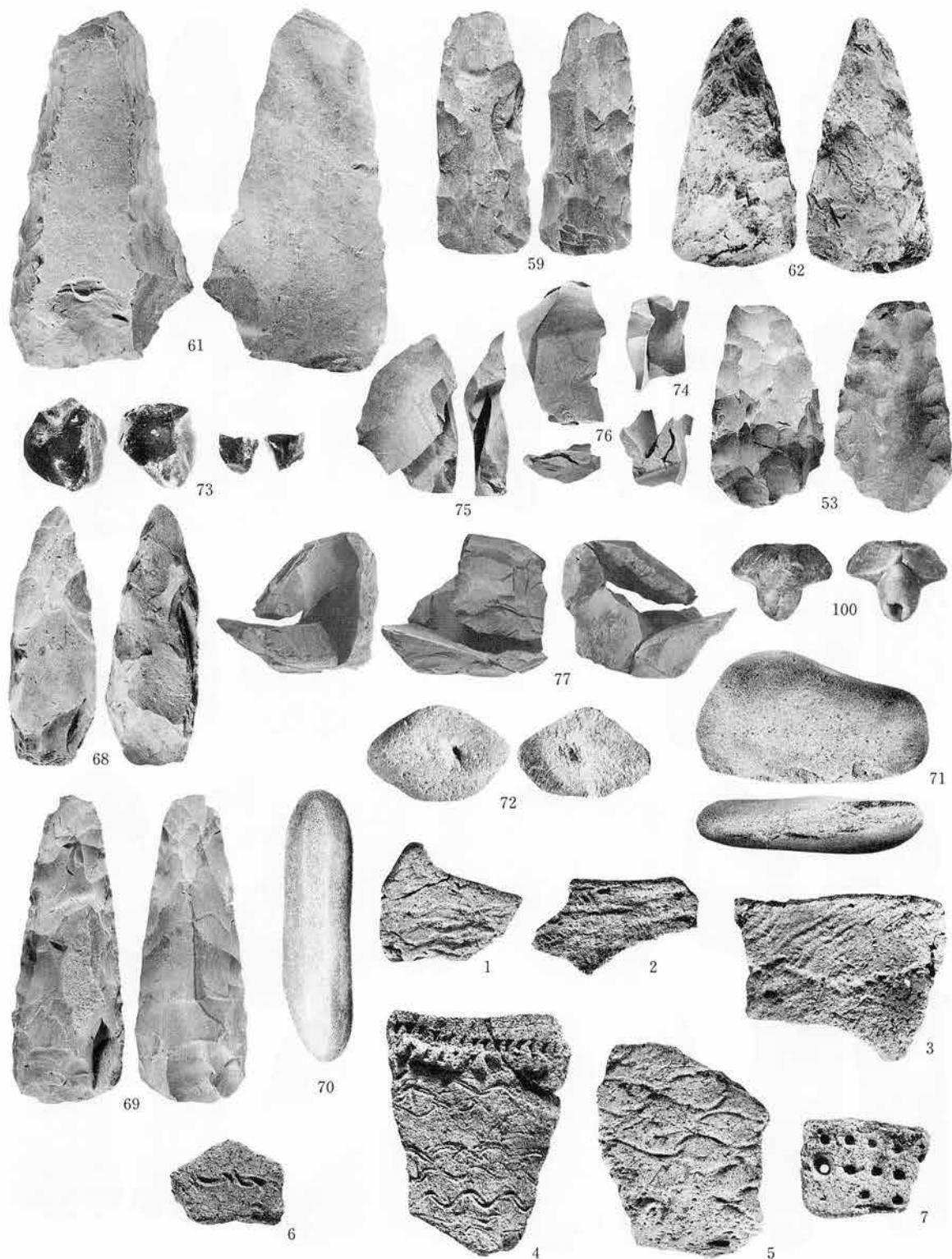
写真図版6 石鏃・石槍・石錐・石匙



写真図版 7 石槍・石匙・搔器他



写真図版8 削器・石箒他



写真図版9 石籠・礫石器・接合剥片他

IV. 塚野Ⅱ遺跡

所 在 地	和賀郡湯田町第 55 地割 157 - 11 ほか
委 託 者	日本道路公団仙台建設局北上市工事事務所
発掘調査期間	平成 4 年 4 月 22 日～9 月 30 日
調査対象面積	13,000 m ²
発掘調査面積	13,000 m ²
遺跡番号・略号	MD 58 - 1134 • TN II - 92
調査担当者	佐々木弘・溜浩二郎
協力機関	湯田町教育委員会・北上市教育委員会

1. 調査結果の概要

今回の調査で検出された遺構は、堅穴状遺構1棟、土坑16基、陥し穴状遺構1基である。他に、縄文時代の石器・剝片・チップ類が集中して出土している箇所や縄文時代のものと思われる沢跡が検出されている。土坑のうちの5基と堅穴状遺構1棟は時期不明である。その他の遺構は縄文時代に属すると思われるが詳細は不明なものが多い。

出土遺物は、縄文時代の土器・石器である。縄文土器は前期初頭～前葉のものが大半で、後期のものが数点出土している。小破片がほとんどで、復元できたものは2個体だけである。総量はコンテナ(41×31×19cm)で1箱である。石器は石鏃・石匙・石籠等の剥片石器が38点、擦石が2点、剝片・チップ類が出土しており、総量はコンテナ(41×31×19cm)で1箱である。

2. 調査方法と室内整理

(1) 野外調査の方法

調査区の設定と遺構名

地区割に当たっては基準点測量を委託し、公共座標軸を利用して行った。調査範囲内の東西方向に一直線になるように、調査区中央付近に基点A・Bを40m間隔で設定した。基点A・Bの公共座標は次の通りである。

	第X系		標高
基点A	X = -76260.000 m	Y = -6720.000 m	259.048 m
基点B	X = -76260.000 m	Y = -6680.000 m	258.833 m

この2点を結ぶ直線を東西方向、直交する直線を南北方向の軸線とした。これをもとに調査対象区全体を40m間隔に大区画した。各区画の表示は、東西は西からI～VIIのローマ数字を、南北は北からA～Dのアルファベットをそれぞれ付し、両者の組み合わせによって大区画名をII A、IV Cのように表した。さらに、大区画を4m毎に区画（小区画）し、東西は東から0～9の数字を、南北は北a～jの小文字を付し、小区画名をII A-4 h、III B-1 cのように表した。また、それぞれの地点は、南西側を起点に東へ1m、2mはE 1、E 2、同様に北へN 1、N 2と表し、E 1-N 2のように表した。

検出された遺構は、大区画毎に分け、概ね検出順に1号～、2号～の番号を付し、大区画名と組み合わせ、II C-1号土坑、IV B-3号陥し穴状遺構と呼称した。

粗掘り・遺構検出・精査

最初に、区画に沿う形で南北方向のトレンチ（幅2～4m）を16～20m間隔で12本入れ、調査区全体の遺物の出土状況や層序の確認を行った。その後、畠地については人力、宅地及び水田の耕作土は重機によって表土除去を行った後、遺構の検出を行った。

遺構の精査は堅穴状遺構は4分法、土坑・陥し穴状遺構は2分法、沢跡や旧河道は任意のペルトを設けて調査を行った。

遺構内出土の遺物のうち、埋土出土のものは上部・下部に分けて取り上げ、底面出土のものは写真撮影後、図面を作成し取り上げた。また遺構外出土の遺物は小区画毎に層位を記入して取り上げた。また、埋土中の炭化物は必要に応じて取り上げ、年代測定の試料とした。

実測・写真撮影

実測は2人1組で2組つくり、簡易遣り方測量を行った。実測図の縮尺は20分の1を原則とし、一括出土土器は10分の1で作成した。また、沢跡や旧河道の実測は平板測量（縮尺100分の1）を行った。

写真撮影は調査員が担当し、 $6 \times 7\text{ cm}$ 判1台（白黒）、 35 mm 判2台（白黒・カラーリバーサル）の3台を1セットとして使用し、埋土断面・全景・遺物出土状況等を撮影した。

（2）室内整理の方法

作業手順

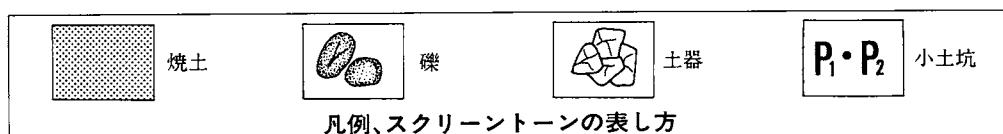
遺構については、実測してきた図面の座標・セクションポイントの位置・基準高などを点検しながら遺構毎に第2原図を作成した。遺物は、水洗いは発掘現場で行い、室内整理では、遺物の注記から始め、接合・復元の順で進めた。これらの作業が終わった段階で、遺物の仕分け・登録を行い、報告書掲載分について写真撮影を行った。その後、遺物実測、土器拓本、遺物・遺構トレースの順に作業を進め、最後に図版や写真図版を作成した。以上の作業と併行して、計測、諸鑑定、原稿作成を行い報告書に掲載した。

図版

遺構図版の縮尺は土坑・陥し穴状遺構が40分の1、堅穴状遺構が60分の1、沢跡が160分の1、遺構配置図は任意縮尺である。

遺物図版の縮尺は復元土器が3分の1、土器拓本が2分の1、剝片石器が3分の2、2分の1、礫石器が3分の1であり、遺構、遺物ともに図版毎にスケールを付している。

写真図版の縮尺は遺構が不定、遺物は復元土器が3分の1、土器拓本が2分の1、剝片石器類が3分の2、2分の1、礫石器が2分の1である。また、遺物の写真番号は遺物図版番号と同一番号とした。



3. 基本土層

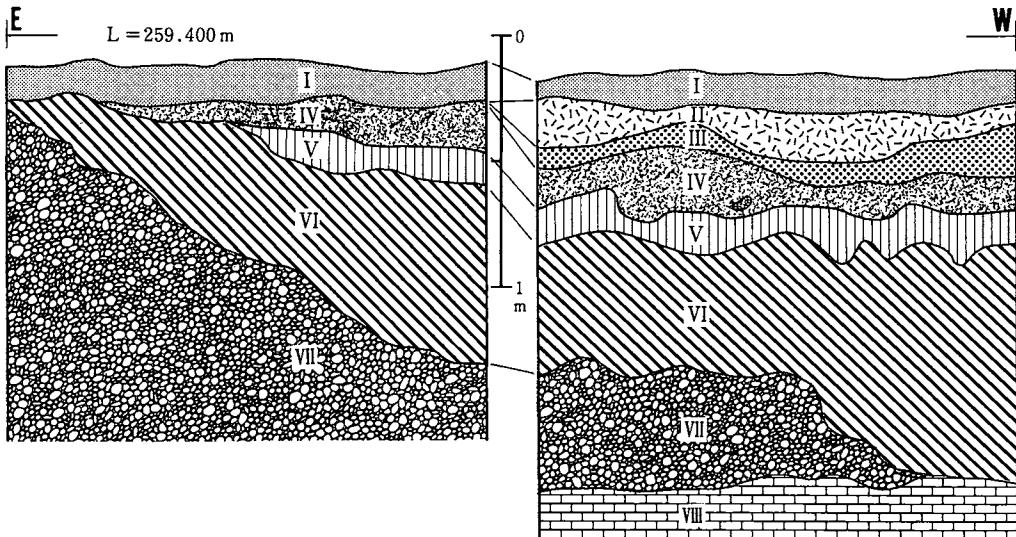
遺跡は和賀川支流の鬼ヶ瀬川によって形成された小繫沢段丘上に立地し、標高は 257～259 mで、遺跡の西～北側 10～30 mを北～東流する鬼ヶ瀬川とは 10～14 mの比高差がある。

調査範囲は西南西～東北東方向約 270 m、北北西～南南東方向約 50 mの道路建設部分で、遺跡の現況は水田が大半を占め、畠地や旧道箇所（盛土）が部分的にみられる。水田造成時の際の削平が著しく、ほとんどが黄褐色土層（VI層）まで削られており、黒～黒褐色土層が残るのは、旧河道・沢跡の一部や西端の緩やかな傾斜面及び水田化されなかった北東側の一部だけである。したがって必ずしも調査区全域の層序は同一にはならないが、基本的には以下の通りにまとめられる。なお、土層断面図は調査区西端部、中央部、北東側を示すこととする。

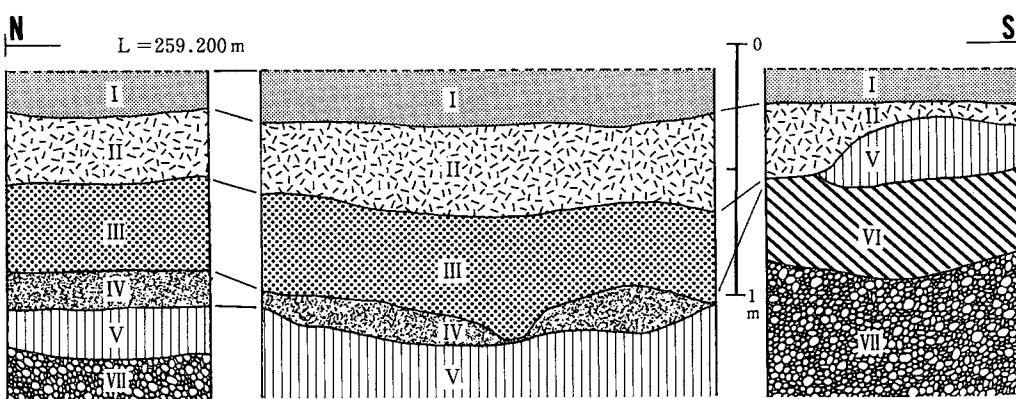
I 層 黒褐色シルト	表土。水田・畠地の耕作土で、下部に水酸化鉄の集積がみられる。粘性はなく、しまっている。層厚 20 cm前後。
II 層 黒褐色シルト	水田造成時等の盛土層で、黄褐色土（地山）ブロックや礫が多く混入する。層厚 10～40 cm。
III 層 黒～黒褐色シルト	旧河道・沢跡や傾斜面に堆積する。粘性はなく、しまっている。層厚 0～50 cm。
IV 層 黒褐色シルトと 暗褐色シルトの混合土	炭化物を少量含む。粘性はなく、ややしまっている。層厚 0～40 cm。
V 層 にぶい黄褐色シルトと 褐色シルトの混合土	やや粘性があり、しまっている。層厚 0～20 cm。
VI 層 黄褐色シルト	地山。粘性はなく、しまっている。また、下位ほど砂質を帶びる。層厚は最大 1 m前後
VII 層 砂礫層	層厚不明
VIII 層 基盤岩	砂岩の層である。層厚不明。

縄文時代の遺物は V 層まで含まれる。遺構の検出面は削平による攪乱のため、V 層～VI 層上面であるが、実際はもっと上から掘り込まれていたと思われる。

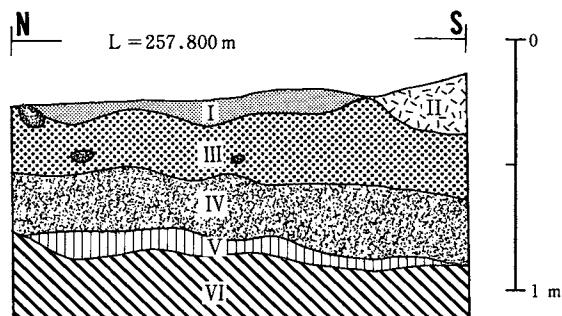
〈調査区南西端〉



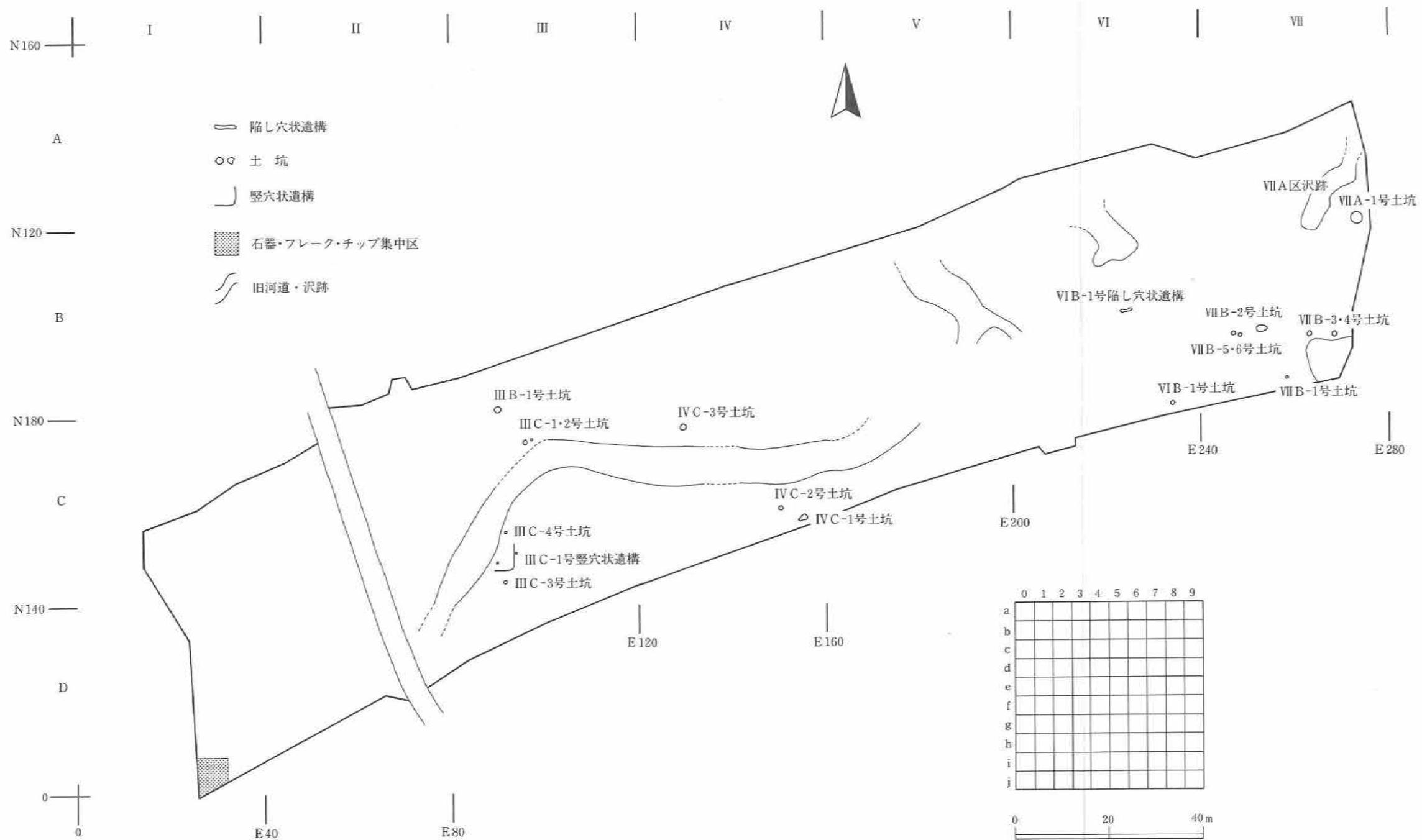
〈調査区中央部南側〉



〈調査区北東側〉



第1図 基本土層



第2図 遺構配置図

4. 検出された遺構と遺構内出土遺物

(1) 壴穴状遺構

III C - 1号竪穴状遺構

遺構 (第3図、写真図版3)

本遺構は調査区中央部南西側に位置し、南約2mにIII C - 3号土坑、北約1.5mにIII C - 4号土坑がある。

平面形・規模は北西側半分が削平されているため不明であるが、残存する壁は南北方向で6m、東西方向で4.4mを測り、長方形か、一辺が6m前後の正方形を呈していたと思われる。

埋土は6層に細分され、上層(1・2層)が炭化物・炭化材や焼土ブロック・黄褐色シルトブロックが多量に混じる黒褐色シルト、下層が黒褐色シルトで構成される。1・2層は人為的堆積で、自然堆積後の凹みに水田の区画整理等の際に焼却した雑木などを埋めたものと思われ、燃え残った枝などが混じっている。

壁は床面から緩やかに外傾しながら立ち上がり、壁高は16~14cmである。

床面はVI層まで掘り込んで構築されておりかたくしまっているが、一部砂礫層(VII層)が露出しているため幾分凹凸がある。

床面南西側と東壁中央外側にそれぞれ小土坑を伴うが、性格は不明である。規模は前者が開口部径72×67cm、底部径26×22cmで、深さ29cm、後者が開口部径68×59cm、底部径52×45cmで、深さ11cmである。出土遺物はない。

(2) 土坑

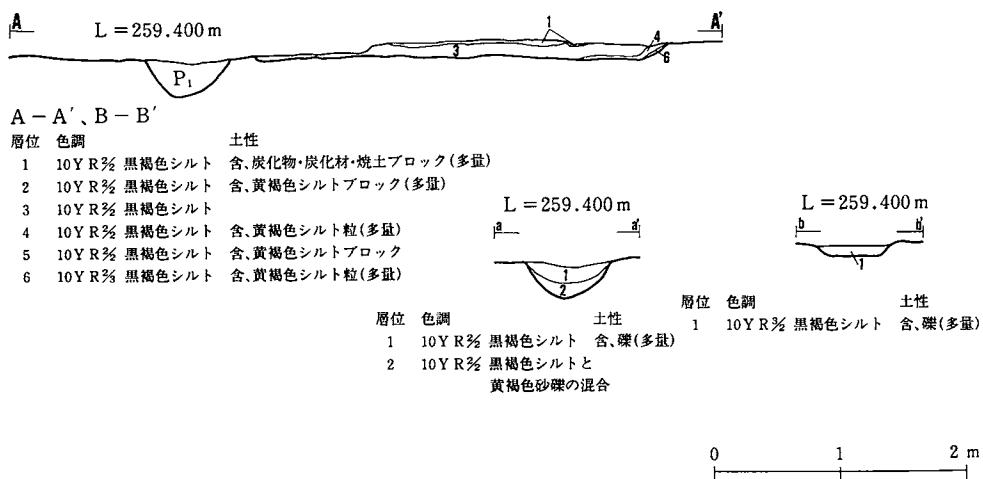
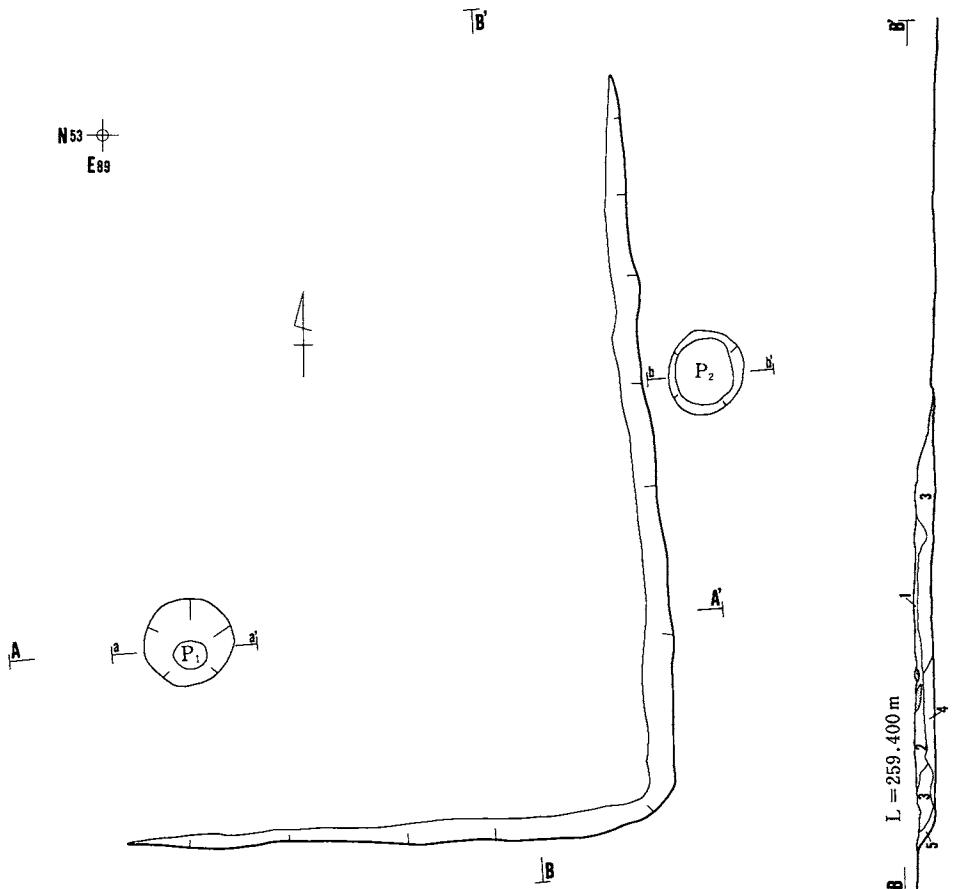
調査区西側を除くほぼ全域から16基検出されており、東側にやや集中(8基)している。

III B - 1号土坑

遺構 (第4図、写真図版4)

本遺構は調査区中央部北西側に位置し、南東約8mにIII C - 1号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径146×142cm・底部径48×43cmで、深さは132cmである。VII層(砂礫層)まで掘り込んで構築されており、底面はやや丸みを帯びている。壁はやや外傾気味に立ち上がる。埋土は10層に細分され、中~下層に径1~15cmの礫が混じる黒褐色シルトが堆積する。出土遺物はない。



第3図 III C-1号竪穴状遺構

III C - 1号土坑

遺構（第4図、写真図版4）

本遺構は調査区中央部西側に位置し、北東約8mにIII B - 1号土坑があり、東にIII C - 2号土坑が隣接する。

平面形は開口部・底部共に円形で、断面形は袋状を呈する。規模は開口部径119×114cm、底部径64×59cmで、深さは94cmである。VII層（砂礫層）まで掘り込んで構築されており、底面はやや丸みを帯び、かたくしまっている。壁の下位は抉られ、上位がくびれている。埋土は11層に細分され、径1～5cmの礫が少量混じる黒褐色シルトや暗褐色シルトで構成される。埋土下部の壁際や最下部には砂礫層の崩壊による砂や礫が多量に堆積している。出土遺物はない。

III C - 2号土坑

遺構（第4図、写真図版4）

本遺構は調査区中央部西側に位置し、北東約9mにIII B - 1号土坑があり、西にIII C - 1号土坑が隣接する。

平面形は開口部・底面共に円形で、断面形は椀状を呈する。規模は開口部径55×48cm、底部径20×16cmで、深さは20cmである。底面はV層を掘り込んで構築され、丸みを帯びている。埋土は3層に細分され、黒褐色シルトや暗褐色シルトで構成される。出土遺物はない。

III C - 3号土坑

遺構（第5図、写真図版4）

本遺構は調査区中央部南西側に位置し、北約2mにIII C - 1号竪穴状遺構がある。

平面形は開口部・底部共に円形で、断面形は摺鉢状を呈する。規模は開口部径104×95cm、底部径47×43cmで、深さは34cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、柔らかく幾分凹凸がある。埋土は2層に細分される。黄褐色シルトがブロックで混じる黒褐色シルトで構成され、人為堆積の様相を呈する。出土遺物はない。

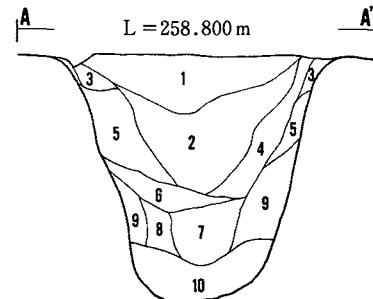
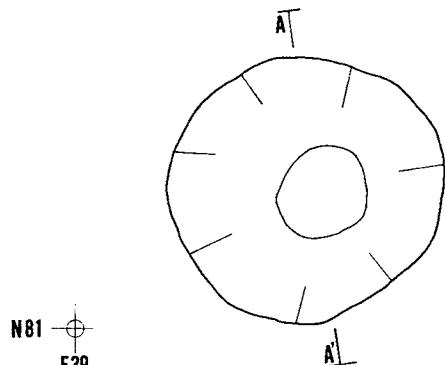
III C - 4号土坑

遺構（第5図、写真図版5）

本遺構は調査区中央部南西側に位置し、南約1.5mにIII C - 1号竪穴状遺構がある。

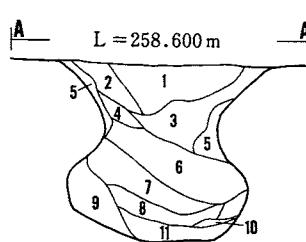
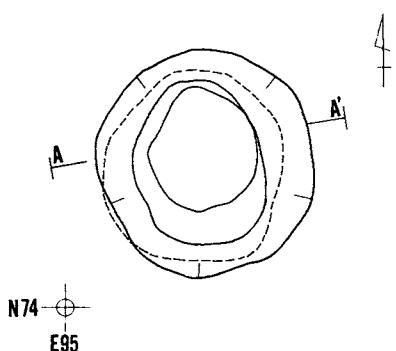
平面形は開口部・底部共に不整な円形で、断面形は浅皿状を呈する。規模は開口部径92×71cm、底部径79×56cmで、深さは14cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、平坦である。埋土は5層に細分される。黄褐色シルトブロックや暗褐色シルトブロックが混じる黒褐色

III B - 1 号土坑



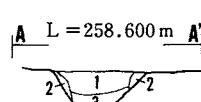
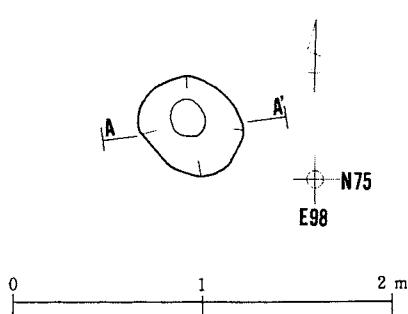
層位	色調	土性
1	10 Y R 1/2	黒色シルト 含、礫(少量)
2	10 Y R 2/2	黒褐色シルト 含、礫(多量)
3	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、黒・黄褐色シルト
4	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、黒褐色シルトブロック、礫
5	10 Y R 3/2	暗褐色シルト 含、黒褐色・褐色シルトブロック
6	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、礫(少量)
7	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、礫(多量)、炭化物(少量)
8	10 Y R 3/2	暗褐色シルト
9	10 Y R 3/2	褐色シルト 含、礫(少量)
10	10 Y R 3/2	にぶい黄褐色シルト

III C - 1 号土坑



層位	色調	土性
1	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、礫
2	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、暗褐色シルトブロック
3	10 Y R 3/2	暗褐色シルト 含、黒褐色シルトブロック、礫(少量)
4	10 Y R 3/2	暗褐色シルト 含、礫(少量)
5	10 Y R 3/2	褐色シルト
6	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、礫(少量)
7	10 Y R 3/2	暗褐色シルト
8	10 Y R 3/2	暗褐色シルト
9	10 Y R 3/2	暗褐色シルト 含、砂・礫(多量)
10	10 Y R 3/2	黒褐色シルト
11	10 Y R 3/2	暗褐色シルト 含、砂

III C - 2 号土坑



層位	色調	土性
1	10 Y R 3/2	黒褐色シルト
2	10 Y R 3/2	黒褐色シルト 含、黄褐色シルトブロック
3	10 Y R 3/2	暗褐色シルト

第4図 III B-1、III C-1・2号土坑

シルトで構成され、人為堆積の様相を呈する。出土遺物はない。

IV C - 1号土坑

遺構（第5図、写真図版5）

本遺構は調査区中央部南側に位置し、北西約4mにIV C - 2号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に北東～南西方向に長い不整形である。規模は開口部が最大で172×140cm、底部が120×84cmを測り、深さは24cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、幾分凹凸がある。壁は南西側が緩やかに立ち上がり、北東側がやや急に立ち上がっている。埋土は6層に細分される。褐色シルトブロックが混じる黒褐色シルトや暗褐色シルトで構成され、人為堆積の様相を呈する。出土遺物はない。

IV C - 2号土坑

遺構（第6図、写真図版5）

本遺構は調査区中央部南側に位置し、南東約4mにIV C - 1号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径112×107cm、底部径58×39cmで、深さは52cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、ほぼ平坦でしまっている。壁は底面から外傾しながら立ち上がっている。埋土は4層に細分される。上部層は径2～5cmの礫が混じり、炭化物粒を微量含む黒褐色シルト、下部層は径2～5cmの礫や暗褐色シルトブロックが混じる黒褐色シルトで構成される。出土遺物はない。

IV C - 3号土坑

遺構（第6図、写真図版5）

本遺構は調査区中央部やや西寄りに位置する。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径153×134cm、底部径62×58cmで、深さは71cmである。VII層（砂礫層）まで掘り込んで構築されており、底面は幾分凹凸がある。壁は底面から外傾しながら立ち上がり、中位付近に緩い段をもっている。埋土は10層に細分され、全体に径3～15cmの礫が混入している。出土遺物はない。

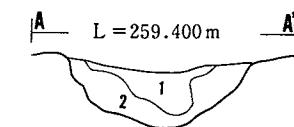
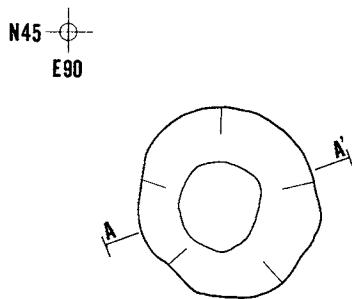
VI B - 1号土坑

遺構（第6図、写真図版6）

本遺構は調査区東側の南西に位置する。

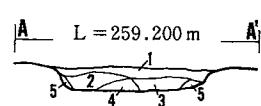
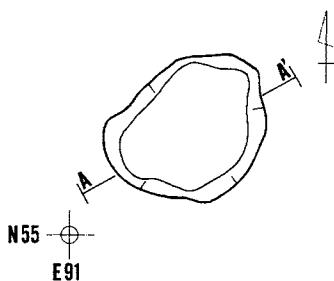
平面形は開口部・底部共に円形で、断面形はビーカー形を呈する。規模は開口部径107×97

III C - 3号土坑



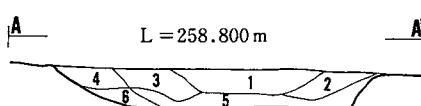
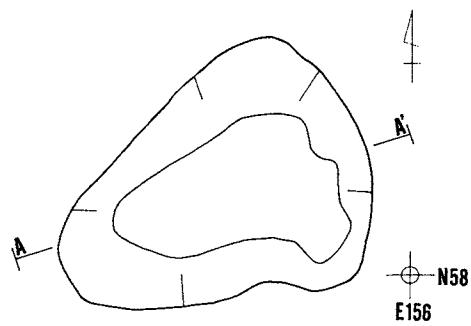
層位	色調	土性
1	10Y R ½	黒褐色シルト 含、黄褐色シルトブロック
2	10Y R ¾	黄褐色シルトと 10Y R ½ 黒褐色シルトの混合土

III C - 4号土坑

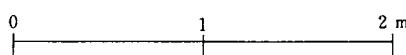


層位	色調	土性
1	10Y R ½	黒褐色シルト 含、黄褐色シルトブロック
2	10Y R ¾	暗褐色シルト 含、黒褐色シルトブロック
3	10Y R ½	黒褐色シルト 含、暗褐色シルトブロック
4	10Y R ¾	褐色シルト 含、暗褐色シルトブロック
5	10Y R ¾	黄褐色シルト 含、黒褐色シルトブロック

IV C - 1号土坑

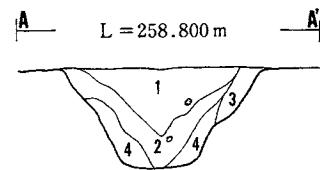
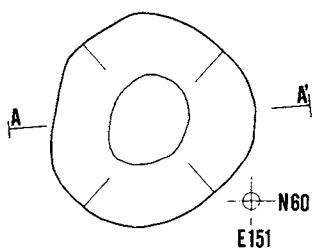


層位	色調	土性
1	10Y R ½	黒褐色シルト
2	10Y R ¾	黒褐色シルト
3	10Y R ½	黒褐色シルト 含、褐色シルトブロック
4	10Y R ¾	黒褐色シルト 含、褐色シルトブロック
5	10Y R ¾	暗褐色シルトと 10Y R ½ 黒褐色シルトの混合土
6	10Y R ¾	暗褐色シルト



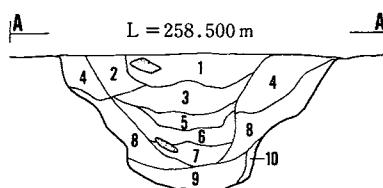
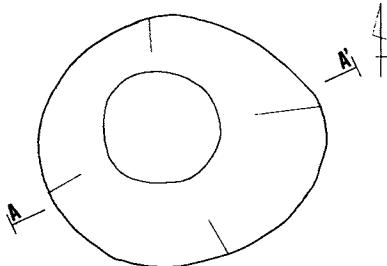
第5図 III C - 3・4、IV C - 1号土坑

IV C - 2号土坑



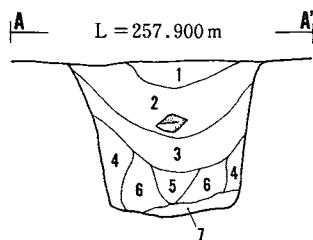
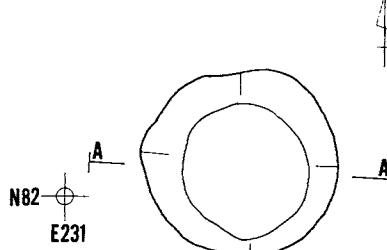
層位	色調	土性
1	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫、炭化粒(微量)
2	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫、暗褐色シルトブロック
3	10Y R 2/6	黒褐色シルトと 10Y R 4/6褐色シルトと混合土 含、礫
4	10Y R 4/6	暗褐色シルト

IV C - 3号土坑



層位	色調	土性
1	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫
2	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫
3	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、黒褐色シルトブロック、礫
4	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、暗褐色シルトブロック、礫
5	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、暗褐色シルトブロック、礫
6	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫
7	10Y R 2/6	黒褐色シルト 含、礫
8	10Y R 2/6	暗褐色シルト 含、黃褐色シルトブロック、礫
9	10Y R 2/6	暗褐色シルト 含、黃褐色シルトブロック
10	10Y R 2/6	暗褐色シルト 含、黃褐色シルトブロック

VI B - 1号土坑



層位	色調	土性
1	10Y R 2/6	黑色シルト 含、礫(多量)
2	10Y R 2/6	暗褐色シルト 含、礫(多量)
3	10Y R 2/6	暗褐色シルト 含、礫
4	10Y R 2/6	褐色シルト
5	10Y R 2/6	褐色シルトと 10Y R 4/6褐色シルトの混合土、含、礫(多量)
6	7.5Y R 2/6	暗褐色砂質シルト 含、礫
7	10Y R 2/6	暗褐色砂質シルト 含、礫(少量)

0 1 2 m

第6図 IV C - 2・3、VI B - 1号土坑

cm、底部径 71×66 cmで、深さは 82 cmである。VII層（砂礫層）まで掘り込んで構築されており、底面は平坦でかたくしまっている。埋土は 7 層に細分され、全体的に径0.3～4 cmの小礫が多く混入し、径 15 cm程の礫も少量混じっている。出土遺物はない。

VIIA-1号土坑

遺構（第7図、写真図版6）

本遺構は調査区東側の東端に位置し、北西約 6 mにVIIA区沢跡がある。

平面形は開口部・底部共に円形で、断面形はピーカー形を呈する。規模は開口部径 257×236 cm、底部径 169×164 cmで、深さは 102 cmである。底面はVII層（砂礫層）まで掘り込んで構築されており、平坦でかたくしまっている。埋土は 21 層に細分される。上部層は褐色～黄褐色シルトブロックが混入する黒褐色シルト層、中～下部層は色調の異なる黒色シルトがレンズ状に堆積し、最下部に褐色シルトや黄褐色シルトが堆積しており、壁際には壁の崩壊土と思われる褐色シルトや黄褐色シルトが堆積している。上部（1～4層）が水田耕作の際の攪乱をうけているものの、他は自然堆積である。

出土遺物（第7図、写真図版15） 埋土下部から剝片（60）が1点出土している。

VII B-1号土坑

遺構（第7図、写真図版6）

本遺構は調査区東側の南東に位置する。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径 110×100 cm、底部径 37×32 cmで、深さは 92 cmである。底面はVI層を掘り込んで構築されており、ほぼ平坦である。壁は底面からやや外傾しながら立ち上がっている。埋土は 6 層に細分され、全体的に径 2～8 cm程度の礫が混入している。

出土遺物 埋土 1 層から剝片が 1 点出土しているが、掲載していない。

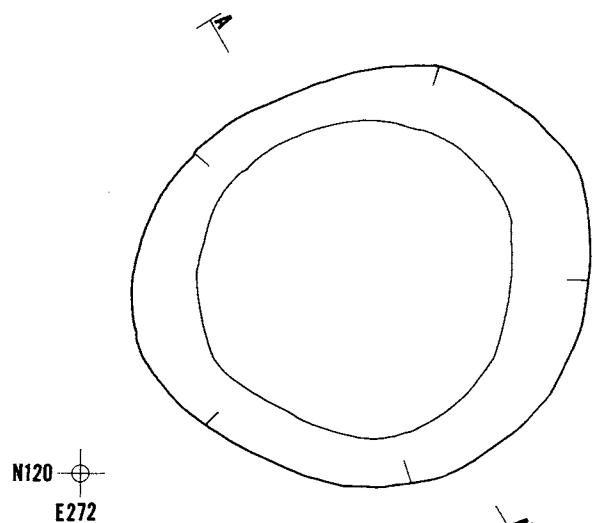
VII B-2号土坑

遺構（第8図、写真図版6）

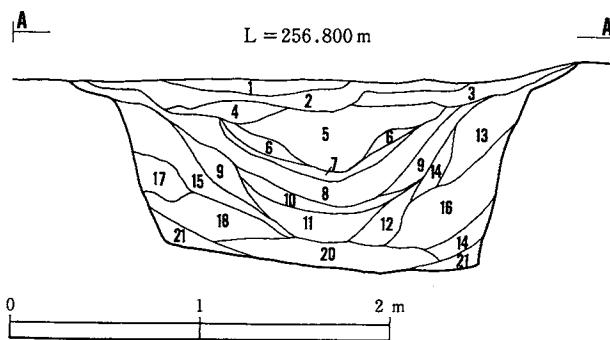
本遺構は調査区東側中央の南東寄りに位置し、西約 3 mにVII B-6号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に東西方向に長い不整な長方形である。規模は開口部が辺 224×114 cm、底部が辺 175×87 cmで、深さは 50 cmである。底面はVI層を掘り込んで構築されており、凹凸がある。壁は底面から外傾しながら立ち上がる。埋土は 7 層に細分され、全体的に明黄褐色シルトブロックや炭化物粒（少量）が混じる黒褐色シルト層で構成される。出土遺物はない。

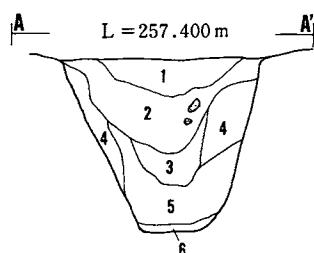
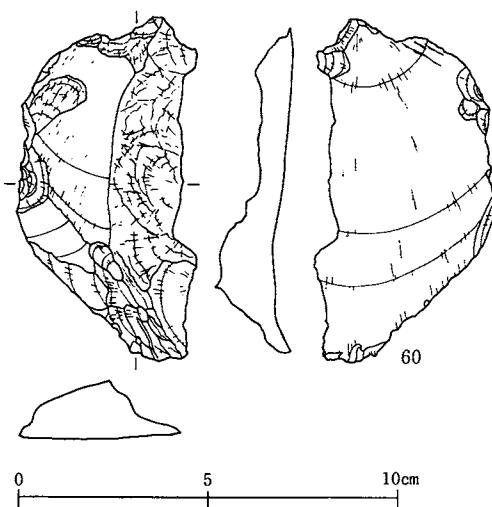
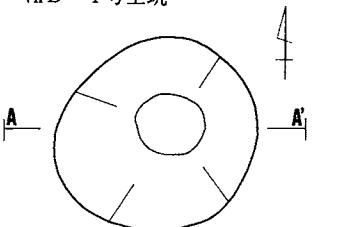
VII A - 1号土坑



層位	色調	土性
1	2.5 Y 4/6 黒褐色シルト	含、炭化物(微量)
2	10 Y R 3/6 黒褐色シルト	含、褐色シルトブロック(少量)、褐色シルト粒(多量)
3	10 Y R 3/6 黒褐色シルト	含、黄褐色シルトブロック
4	10 Y R 3/6 黒褐色シルト	含、褐色シルト(少量)
5	10 Y R 1/6 黒色シルトと10 Y R 4/6 褐色シルトの混合土	
6	10 Y R 1/6 黑色シルト	
7	7.5 Y R 1/6 黑色シルト	
8	10 Y R 1/6 黑色シルト	
9	10 Y R 3/6 黑褐色シルト	含、褐色シルト(少量)
10	7.5 Y R 1/6 黑色シルト	
11	10 Y R 1/6 黑色シルト	
12	10 Y R 3/6 黑褐色シルト	
13	10 Y R 4/6 褐色シルト	含、黄褐色シルト(少量)
14	10 Y R 4/6 黄褐色シルト	
15	10 Y R 4/6 にぶい黄褐色シルト	
16	10 Y R 4/6 黄褐色シルトと10 Y R 4/6 にぶい黄褐色シルトの混合土 含、炭化物(少量)	
17	10 Y R 4/6 暗褐色シルト含、黄褐色シルト粒(微量)	
18	10 Y R 4/6 褐色シルトと10 Y R 4/6 黄褐色シルトの混合土	
19	10 Y R 4/6 褐色シルトと10 Y R 4/6 黄褐色シルトの混合土 含、褐色砂質シルト(少量)	
20	10 Y R 4/6 にぶい黄褐色シルト	
21	10 Y R 4/6 灰黃褐色シルト	



VII B - 1号土坑



層位	色調	土性
1	10 Y R 1/6 黑色シルト	含、礫
2	7.5 Y R 3/6 黑褐色シルト	含、暗褐色・黑色シルトブロック、礫(多量)
3	10 Y R 4/6 暗褐色粘土質シルト	含、褐色シルトブロック、礫(多量)
4	10 Y R 4/6 褐色粘土質シルト	含、暗褐色シルトブロック
5	10 Y R 4/6 褐色粘土質シルト	含、暗褐色シルト(少量)、礫
6	10 Y R 4/6 暗褐色粘土質シルト	

第7図 VII A-1、VII B-1号土坑

VII B - 3号土坑

遺構（第8図、写真図版7）

本遺構は調査区東側の南東に位置し、東約5mにVII B - 4号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径116×114cm、底部径46×42cmで、深さは85cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、幾分凹凸があり、壁は底面からやや外傾しながら立ち上がる。埋土は7層に細分される。上層から黒色シルト、暗褐色シルト、褐色シルトが堆積し、黒褐色シルトブロックや黄褐色シルトブロックが混入する。

出土遺物 埋土2層から剝片・チップが1点ずつ出土しているが、掲載していない。

VII B - 4号土坑

遺構（第8図、写真図版7）

本遺構は調査区東側の南東に位置し、西約5mにVII B - 3号土坑がある。

平面形は開口部が円形、底部が北西～南東方向に長い隅丸長方形であり、本来隅丸長方形であったと思われる。規模は開口部が辺136×120cm、底部が辺92×54cmで、深さ76cmである。底面はVI層を掘り込んで構築され、ほぼ平坦である。壁はやや急に立ち上がる。埋土は11層に細分される。全体的に黒褐色シルトや暗褐色シルト、褐色シルトなどの混合土で構成され、人為堆積の様相を呈している。出土遺物はない。

VII B - 5号土坑

遺構（第9図、写真図版7）

本遺構は調査区東側中央の南東寄りに位置し、東にVII B - 6号土坑が隣接し、東約5mにVII B - 2号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に円形である。規模は開口部径91×80cm、底部径50×49cmで、深さは76cmである。底面はVII層（砂礫層）を掘り込んで構築され、やや凹凸がありかたくしまっている。壁は底面からやや外傾気味に立ち上がる。埋土は8層に細分され、黄褐色シルトブロックや径1～3cm程の小礫を含む。出土遺物はない。

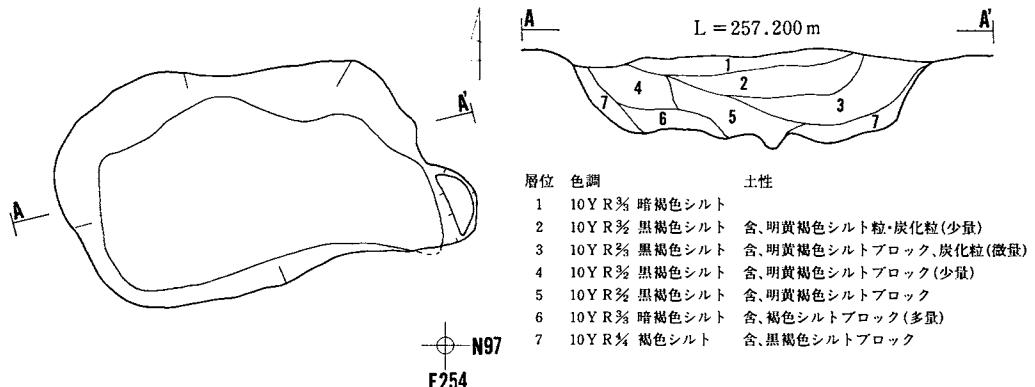
VII B - 6号土坑

遺構（第9図、写真図版7）

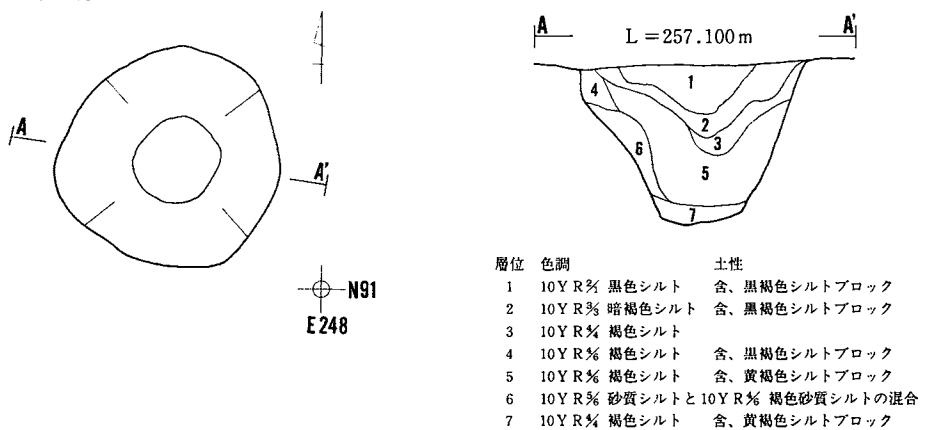
本遺構は調査区東側中央の南東寄りに位置し、西にVII B - 5号土坑が隣接し、東約4mにVII B - 2号土坑がある。

平面形は開口部・底部共に東西方向に長い楕円形である。規模は開口部径102×75cm、底部

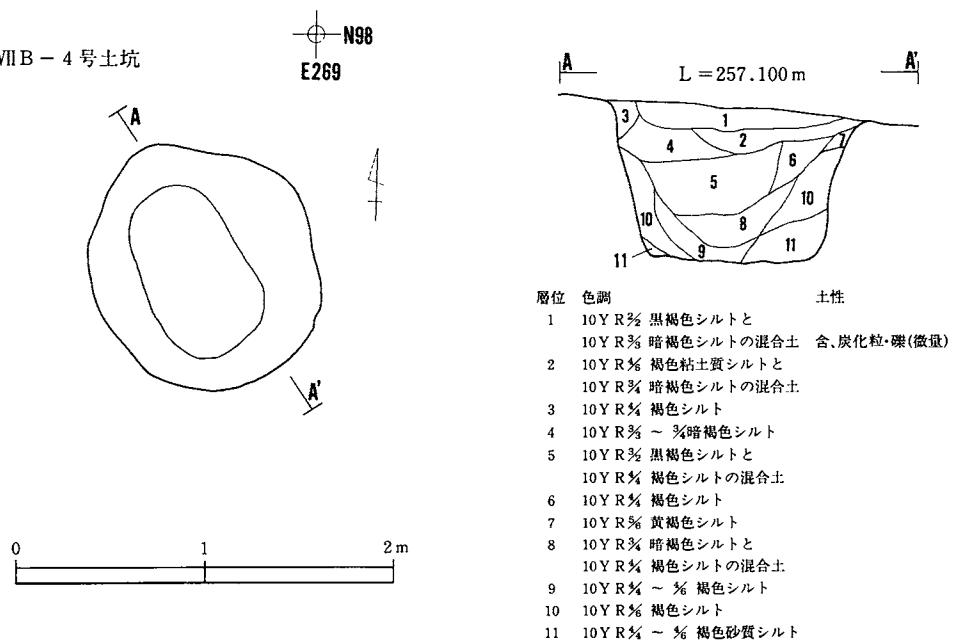
VII B - 2号土坑



VII B - 3号土坑



VII B - 4号土坑



第8図 VII B-2~4号土坑

径 55 × 41 cm で、深さは 65 cm である。底面は VII 層（砂礫層）を掘り込んで構築され、やや凹凸がある。壁は底面から外傾気味に立ち上がる。埋土は 7 層に細分され、4 層には礫が少量含まれる。出土遺物はない。

（3）陥し穴状遺構

IV B - 1 号陥し穴状遺構

遺構（第 9 図、写真図版 8）

本遺構は調査区東側中央付近に位置している。

平面形は東西方向に細長い溝状を呈し、両端が丸く膨らんでいる。断面形は U 字状を呈する。規模は開口部が長さ 265 cm、幅が中央部で 44 cm、両端が 58 ~ 71 cm である。底部は長さ 242 cm、幅が中央部で 8 cm、両端が 36 ~ 42 cm である。深さは 80 ~ 120 cm で東側に傾斜している。底面は VII 層（砂礫層）を掘り込んで構築されており、前述の傾斜は砂礫層の傾斜に対応している。埋土は 9 層に細分され、自然堆積の様相を呈する。出土遺物はない。

（4）その他

VII A 区沢跡

遺構（第 10 図、写真図版 8）

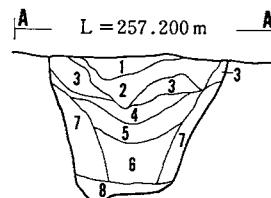
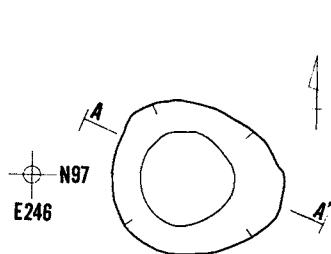
調査区東側の北東に位置する。検出面は基本層序第 V ~ VII 層上面である。幅約 3 ~ 4 m で、幾分蛇行しながら北東方向の鬼ヶ瀬川にむかって伸びている。精査したのは南西～北東方向約 18 m の範囲で、検出面から底面までの深さは 1 ~ 0.8 m、上～下流の底面の比高は約 1 m である。底面は一部礫層が露出し凹凸がある。埋土は長径 1 ~ 10 cm 程の礫を多量に含む黒褐色シルト層で構成される。

出土遺物（第 11・12 図、写真図版 10・11・13）

土器 底面から一括土器（1）、埋土から土器片が 6 点（21・22・23 の 3 点掲載）出土している。1 は底面に押し潰された状況で出土したものである。底部を欠いているため全体の器形は不明であるが、復元された口～胴下半の状況から底部は尖底であったと思われる。胎土に植物性纖維を含み、外面には横回転の複節縄文（RLR）が施文されている。口唇部には縄文原体の末端か結束部を押圧したと思われる深い圧痕文が施文されている。21 は羽状縄文、22 は 0 段多条（RL）、23 は単節縄文（LR）が施文され、22・23 には胎土に纖維が含まれている。

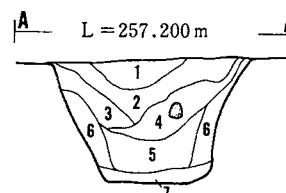
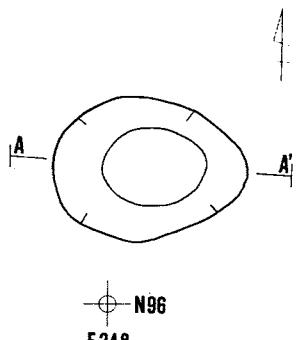
石器 底面から石籠（38）が 1 点出土している。他に埋土中から剝片が 7 点出土しているが、

VII B - 5 号土坑



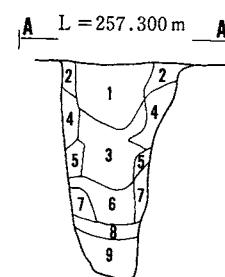
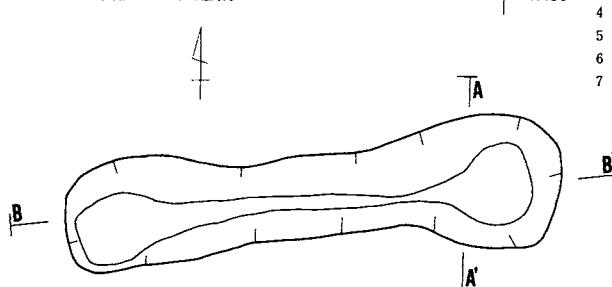
層位	色調	土性
1	10 Y R 3/4 黒色シルト	含、黄褐色シルトブロック、礫(少量)
2	10 Y R 3/4 黑褐色シルト	含、暗褐色シルトブロック、礫(少量)
3	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、礫(少量)
4	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、礫(少量)
5	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、礫(少量)
6	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、黄褐色シルトブロック(少量)
7	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、黄褐色シルトブロック
8	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、砂、炭化物(少量)

VII B - 6 号土坑



層位	色調	土性
1	10 Y R 3/4 黒褐色シルト	含、黑褐色シルトブロック
2	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、黑褐色シルトブロック
3	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、礫(少量)
4	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、礫(少量)
5	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、黄褐色シルトブロック
6	10 Y R 3/4 黄褐色シルト	含、褐色シルトブロック
7	10 Y R 3/4 暗褐色シルト	含、砂、炭化物(少量)

IV B - 1号陷し穴状遺構

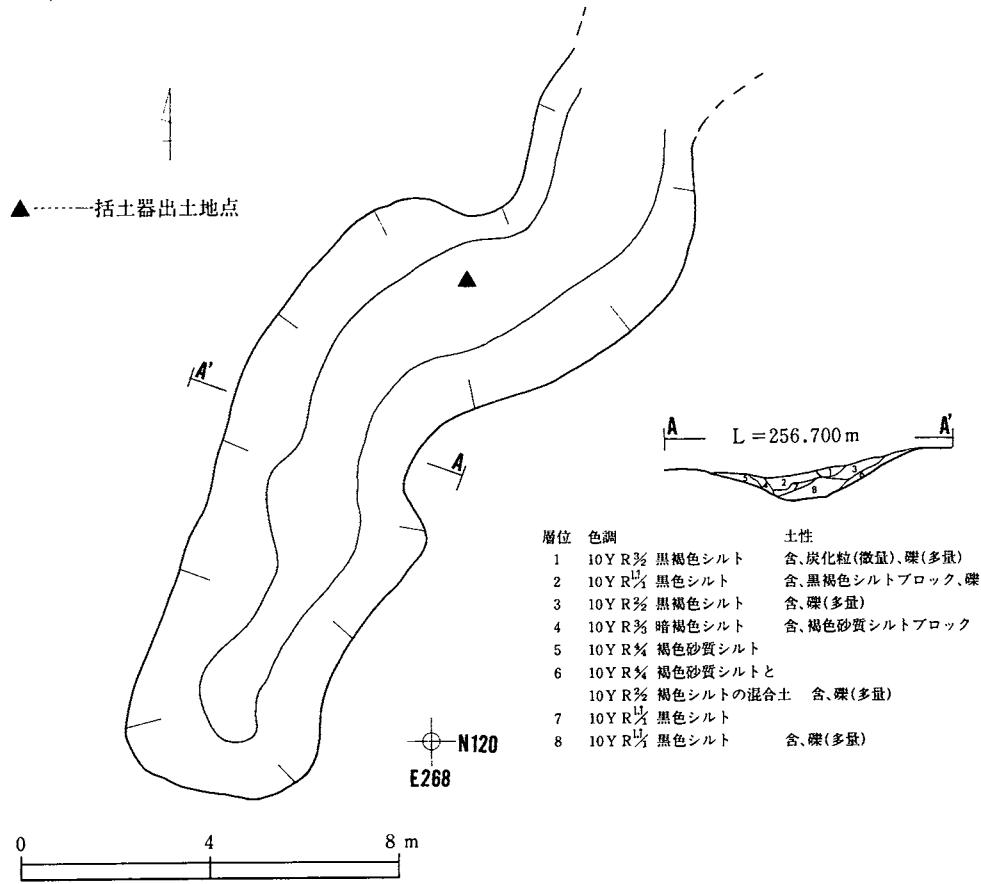


層位	色調	土性
1	10 Y R 3/4 黒色シルト	含、黄褐色シルト粒(微量)
2	10 Y R 3/4 黑褐色シルト	含、黄褐色シルト粒(少量)
3	10 Y R 3/4 黑褐色シルト	含、黄褐色シルト粒(少量)
4	10 Y R 3/4 黄褐色粘土質シルト	含、黑褐色シルトブロック
5	10 Y R 3/4 黄褐色粘土質シルト	含、褐色シルト(少量)
6	10 Y R 3/4 黑色シルト	含、褐色シルト(スジ状 2~3)
7	10 Y R 3/4 黑褐色シルトと 10 Y R 3/4 黄褐色シルトの混合土	
8	10 Y R 3/4 褐色シルト	
9	10 Y R 3/4 黑褐色シルト	含、褐色シルトブロック

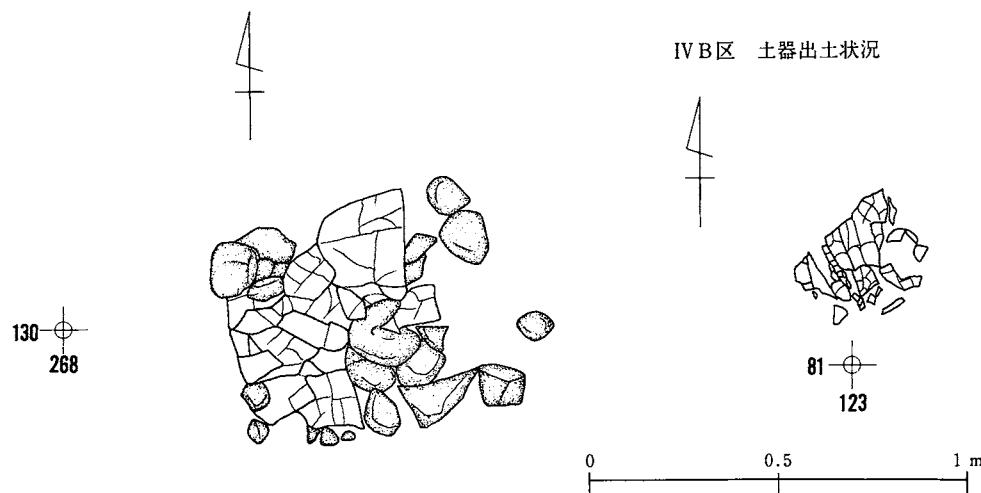
0 1 2 m

第9図 VII B - 5・6号土坑、IV B - 1号陷し穴状遺構

VII A 区 沢跡



VII A 区沢跡、土器出土状況(底面)



第10図 VII A 区沢跡、VII A 区沢跡・IV B 区一括土器出土状況

掲載していない。

石器類出土集中区（第2図、第3～5表、写真図版9）

調査区西側の南西端にあたるID-6i・6j・7i・7j区の基本層序第Ⅲ～V層から剥片石器類が集中して出土している。内訳は、剥片石器類8点(139.38g)、剥片174点(371.26g)、チップ3287点(380.71g)で、この中には石器の未製品と思われるものも3点含んでいる。隣接する地区は極端に出土量が少なくなっていることから、当地区及び南東側周辺で石器製作が行われていたことを示すものと思われる。

5. 出土遺物

縄文時代の土器及び石器が出土している。「1. 調査結果の概要」で述べた通り、出土量は少なく、復元できた土器も2個体だけである。したがって、土器については細かな分類は行わず、大まかな出土状況と地区毎の出土土器についてその特徴を述べ、石器類については出土状況と器種毎の説明をすることとする。

(1) 土器

①出土状況（第1表）

今回の調査で確認された個体数は56点で、そのうち23点を掲載している。地区別にみると、調査区西側のID・IC・ID区から22点、中央部北～北東側のIVB・VB区から2点、東側のVI A・VI B・VII A・VII B区から32点出土している。この中で出土量の比較的多い西側と東側（特にVII A区25点）は水田の耕地整理などによる削平を受けていない地区であり、他は概ね基本層序第VI層（地山）まで削られており、出土層も耕作土（I層）中かその直下である。しかし、削平を受けている地区に残存するⅢ～V層（旧河道や沢跡、傾斜面）からの出土がほとんどないことを考えると、削平の有無と同時に、鬼ヶ瀬川（西～北側）に面した段丘縁に多く出土していると考えることも可能と思われる。

②地区別出土土器（第10～12図、第2表、写真図版9～11）

< ID・II D区 >

3～9がID区、10がII D区からの出土で、いずれも細片である。3は沈線文が施文され周囲は磨消されている。4は平行沈線間に刻目が施文されている。5は鰐状突起（三日月状貼付文）が施文される口縁部片である。6は胴部に沈線区画された入り組み状の帶縄文が展開する

口縁部片で、口縁部に小突起をもつ。口縁部下には平行沈線が巡り、沈線間には刻目が施文され、無文帯は丁寧に磨消されている。7は単節縄文(LR)、8は0段多条(RL)が施文される胴部片である。9は底部が尖底をなすと思われる胴部片で、胎土に纖維を含み、器面には撫糸文が施文されている。10は沈線区画による幅の広い直線的な磨消縄文帯が展開する胴部片である。これらの土器の所属時期は、文様等の特徴から3・4・6が縄文時代後期後葉(十腰内V式)、10が後期中葉(十腰内III式)、9が前期初頭に比定されると思われる。他の土器片の所属時期は不明であるが、5は中期末葉の大木10式に類似し、6・7は出土地点からそれぞれ後期、前期に属する可能性がある。

<IV B・VB区>

IV B区から2、VB区から11が出土している。2は耕作土直下の基本層序第V層から潰れた状態で一括して出土したもので、底部を欠いている。復元された口～胴下半の状況から、底部は丸底であったと思われる。地文には結束の羽状縄文(RL・LR)、口唇部には縄文原体の側面圧痕文が施文されている。また、胎土には纖維が含まれている。11は胎土に纖維を含み、単節縄文(LR)が施文された胴部片である。これらは、縄文時代前期初頭に比定されると思われる。

<VI A・VII A区>

12がVI A区、13～20がVII A区からの出土であり、すべて胎土に纖維を含んでいる。12・14・16はループ文(LR)が施文され、他は単節縄文(LR)を地文にもつ胴部片である。12・14・16は縄文時代前期前葉(大木1式)、他は前期初頭～前葉に比定されると思われる。

(2) 石 器

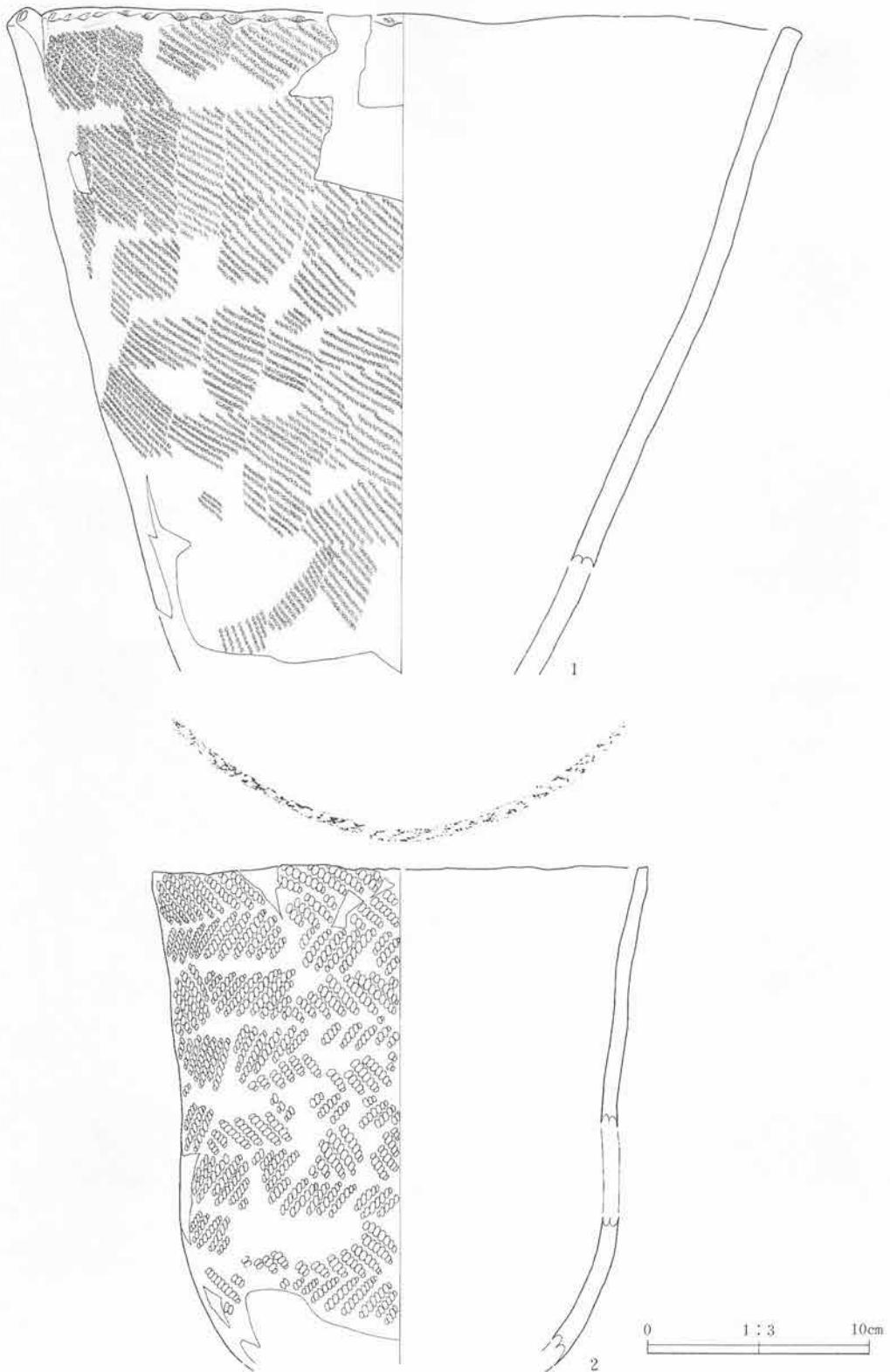
①出土状況(第3表)

土坑・VII A区沢跡出土の石器類を除く全地区からの出土は、剝片石器(使用痕・調整痕を有する剝片も含む)が37点(1021.1g)、剝片が388点(2537.06g)、チップが3394点(426.92g)、石核3点(179.84g)で、総重量4164.92gであり、他に擦石が2点出土している。地区別でみると、調査区西側のID・IID区が2245.75gで一番多く、中でも南西端に集中することは前述の通りである。以下北東側のVII A区が1589.74g、中央北側のIV B区が82.97gとなっており、土器の出土状況と似たような傾向となっている。

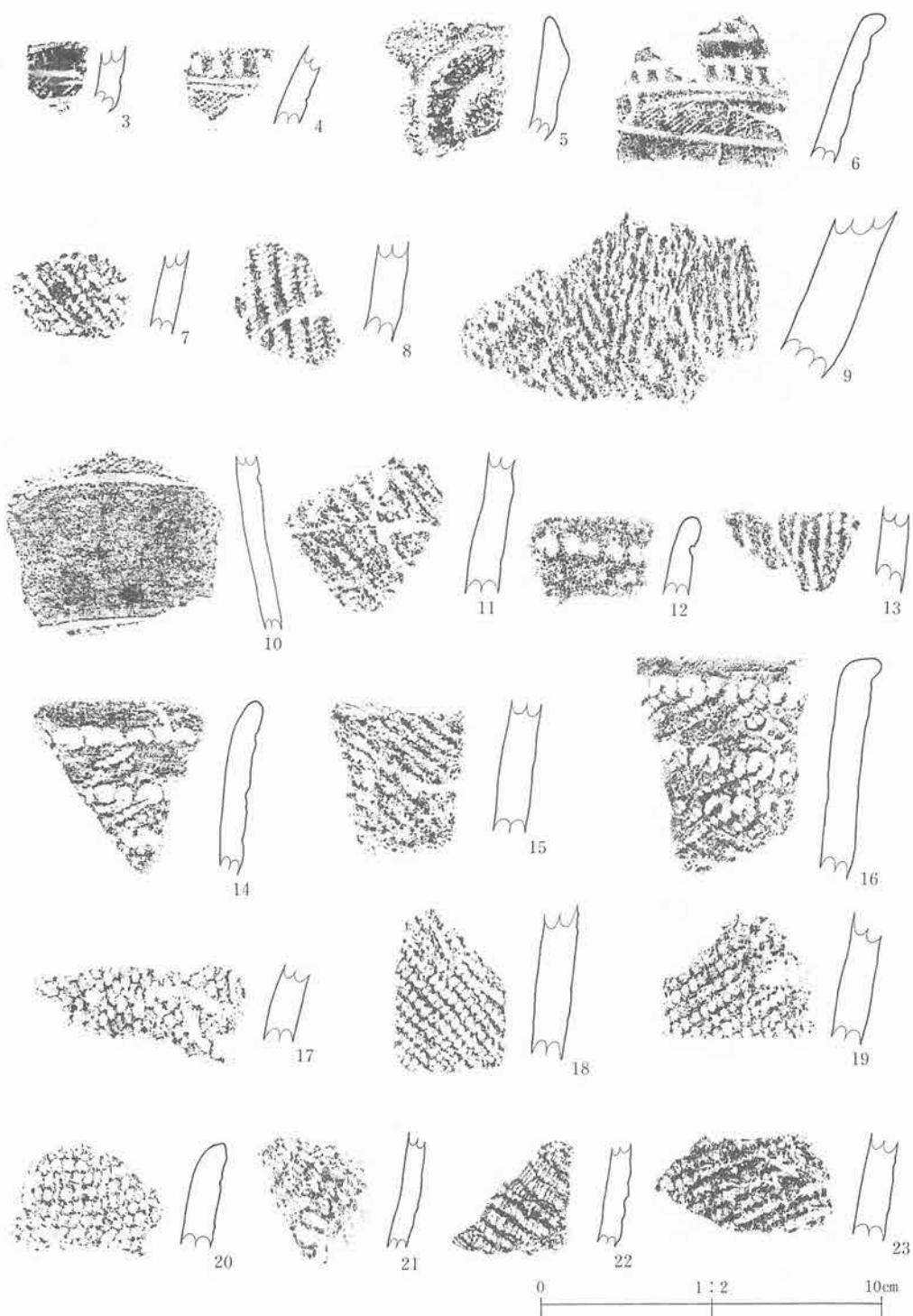
②器種別による分類(第5表)

石 鏶(第13図、写真図版12)

24～31の8点出土しているが、31は重量等から尖頭器の欠損品の可能性がある。24～26



第11図 出土遺物：土器 (1)



第12図 出土遺物：土器 (2)

第1表 地区別土器出土状況

地区		層位	点数	備考 土器(No)、その他	地区		層位	点数	備考 土器(No)、その他
大	小				大	小			
I D	- 6 b	V層	1		VII A	- 2 i	IV層	1	土器(16)
	- 6 c	V層	1			- 3 g	I・IV層	5	土器(17)
	- 6 h	IV層	1			- 3 h	III層	1	
	- 6 i	III~IV層	6	土器(3、4、5)、石器類集中区		- 3 j	IV層	2	土器(18)
	- 6 j	IV層	8	土器(6、7)、石器類集中区		- 4 g	III層	1	土器(19)
	- 7 c	IV~V層	2	土器(8、9)		- 4 i	I層	1	土器(20)
	- 7 f	IV層	2			- 8 i	III層	1	
	- 7 i	IV層	?	細片多く個体数不明、石器類集中区		5層		2	土器(21)
II D	- 2 g	I層	1	土器(10)		6層		2	土器(22)
IV B	- 1 e	V層	1	一括土器(2)		7層		1	土器(23)
VB	不明	I層	1	土器(11)		底面		2	一括土器(1)
VIA	- 9 h	IV~V層	1	土器(12)	VII B	不明	表採	2	
VIB	- 4 e	I層	2			- 2 a	I層	1	
VII A	- 0 h	IV層	1	土器(13)		- 6 e	I層	1	
	- 0 i	IV層	4	土器(14)	合計	確認個体数			56
	- 0 j	IV層	1	土器(15)		*その他、確認不能な細片が数10点ある。			

第2表 土器観察表

No	出土地点・層位	器種・部位	外面(文様の特徴、原体など)	備考	内面 (調整など)	縄文時代	図版	写真 図版
1	VII A 区沢跡	深鉢・口～胴下部	複節縄文(RLR)、口唇部原体圧痕、底部尖底？	繊維混入	ナデ	前期初頭	11~1	10-1
2	IVB-1 e・V層	深鉢・口～胴下部	結束羽状縄文(RL・LR)、口唇部原体圧痕、底部丸底？	繊維混入	ナデ	前期初頭	11-2	10-2
3	ID-6 i・IV層	深鉢・胴部	沈線		ナデ	後期後葉	12-3	11-3
4	ID-6 i・IV層	深鉢・胴部	刻み、平行沈線		ナデ	後期後葉	12-4	11-4
5	ID-6 i・IV層	深鉢・口縁部	錯状突起？		ナデ	中期末葉？	12-5	11-5
6	ID-6 j・IV層	深鉢・口縁部	口唇部刻み、平行沈線、刻み、磨消縄文(LR)		ナデ	後期後葉	12-6	11-6
7	ID-6 j・IV層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)		ナデ		12-7	11-7
8	ID-7 c・V層	深鉢・胴部	0段多条(RL)		ナデ		12-8	11-8
9	ID-7 c・IV層	深鉢・胴部	撚糸文(L1段)、底部尖底？	繊維混入	ナデ	前期初頭	12-9	11-9
10	II D-2 g・I層	深鉢・胴部	沈線、磨消縄文(LR)		ナデ	後期中葉	12-10	11-10
11	VB 区・I層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期初頭	12-11	11-11
12	VIA-9 h・IV~V層	深鉢・口縁部	ループ文	繊維混入	ナデ	前期前葉	12-12	11-12
13	VII A-0 h・III~IV層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-13	11-13
14	VII A-0 i・IV層	深鉢・口縁部	ループ文、単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期前葉	12-14	11-14
15	VII A-0 j・IV層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)、内面煤付着	繊維混入	ナデ	前期初頭	12-15	11-15
16	VII A-2 i・IV層	深鉢・口縁部	ループ文、単節縄文(LR)、折り返し口縁？	繊維混入	ナデ	前期前葉	12-16	11-16
17	VII A-3 g・I層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-17	11-17
18	VII A-3 j・IV層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-18	11-18
19	VII A-4 g・III層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-19	11-19
20	VII A-4 i・I層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-20	11-20
21	VII A 区沢跡・5層	深鉢・胴部	羽状縄文		ナデ	前期	12-21	11-21
22	VII A 区沢跡・6層	深鉢・胴部	0段多条(RL)	繊維混入	ナデ	前期	12-22	11-22
23	VII A 区沢跡・7層	深鉢・胴部	単節縄文(LR)	繊維混入	ナデ	前期	12-23	11-23

は無茎鎌で、24は基部に浅い抉りがはいり、身部が長くなっている。27～30は有茎鎌で、基部はすべて凸基である。28は身部が短く、30は長い。また、29・30は基部から茎部にかけてアスファルトが付着している。石質鑑定によると26が黒曜石、28が粘板岩、31が泥質凝灰岩で、他は硬質泥岩である。

石 匙（第13図、写真図版12）

32～34の3点出土している。32が横形、33・34が縦形である。いずれも丁寧な剝離調整によりつまみ部を作り出している。32・33は主に片面からの調整であるが、33は両面からの調整で先端部が尖り、左右対称をなしている。石質は32が硬質泥岩で、他は泥質凝灰岩である。

石 篠（第14・15図、写真図版13）

35～42の8点出土している。両面からの調整が施されているもの（35・37・38）と、主に片面だけの調整によるもの（36・39～41）があり、36は裏面の側縁にも細かな剝離調整が施されている。石質は35が緑色凝灰岩、36～39が硬質泥岩、40～42が泥質凝灰岩である。

不定形石器（第7・15～17図、写真図版13～15）

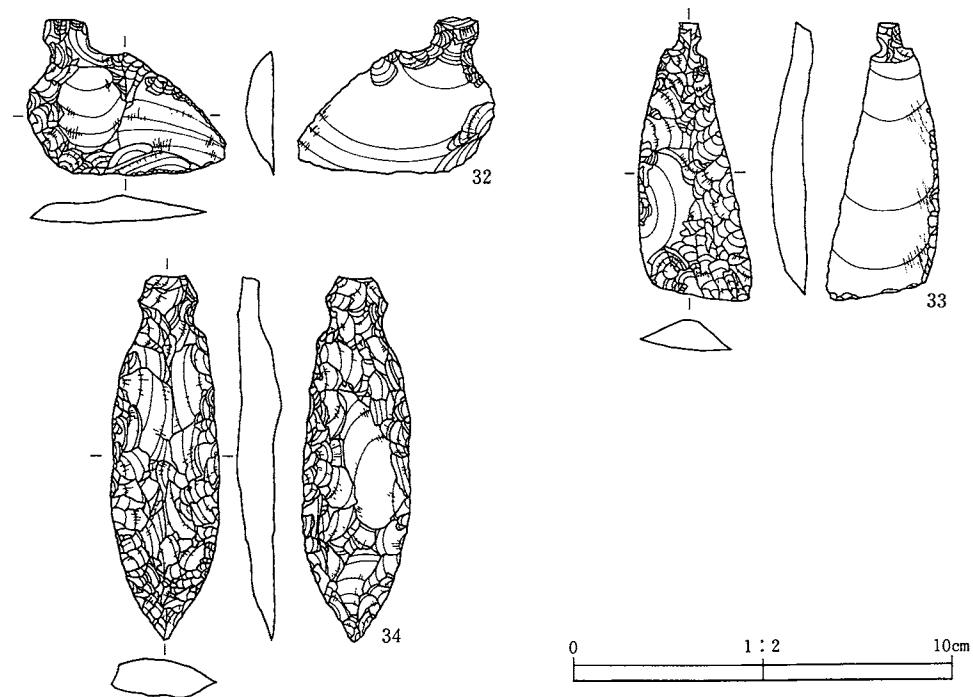
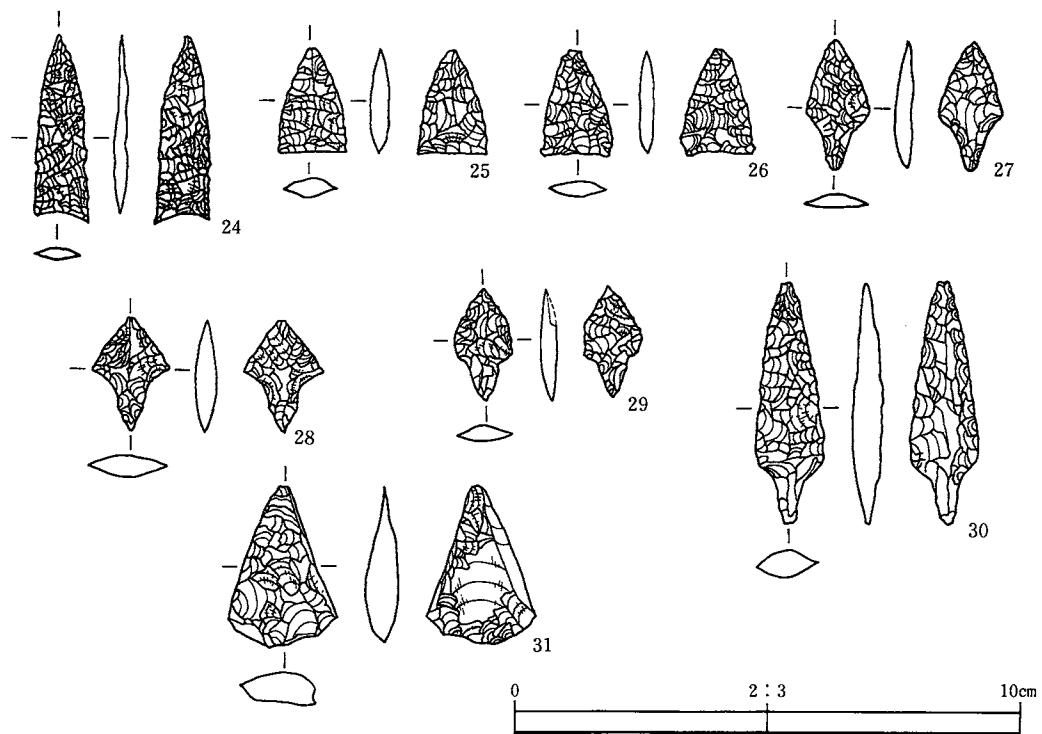
一定の形状をもたない剝片石器や使用による微細な剝離痕を有する剝片類を一括した。43～46は剝片の全縁辺あるいは1縁辺に両面・片面からの剝離調整による刃部をもつもので、削器としての機能が考えられるものである。47・48は彫器の類で、剝片の尖った先端部を利用しておらず、使用による摩耗痕がみられる。49～55は剝片の縁辺に調整痕や使用によると考えられる微細な剝離痕が認められるもので、削器として使用されたと思われる。56～59は両面からの調整が施されているものの明瞭な刃部等が認められないもので、石籠などの未製品の可能性がある。61は定形石器の欠損品と思われる。62は上端に敲打痕を有し、下端に摩耗した刃部をもつことから楔として使用されたものと考えられる。石質は泥質凝灰岩が13点、硬質泥岩が6点である。

擦 石（第18図、写真図版9・15）

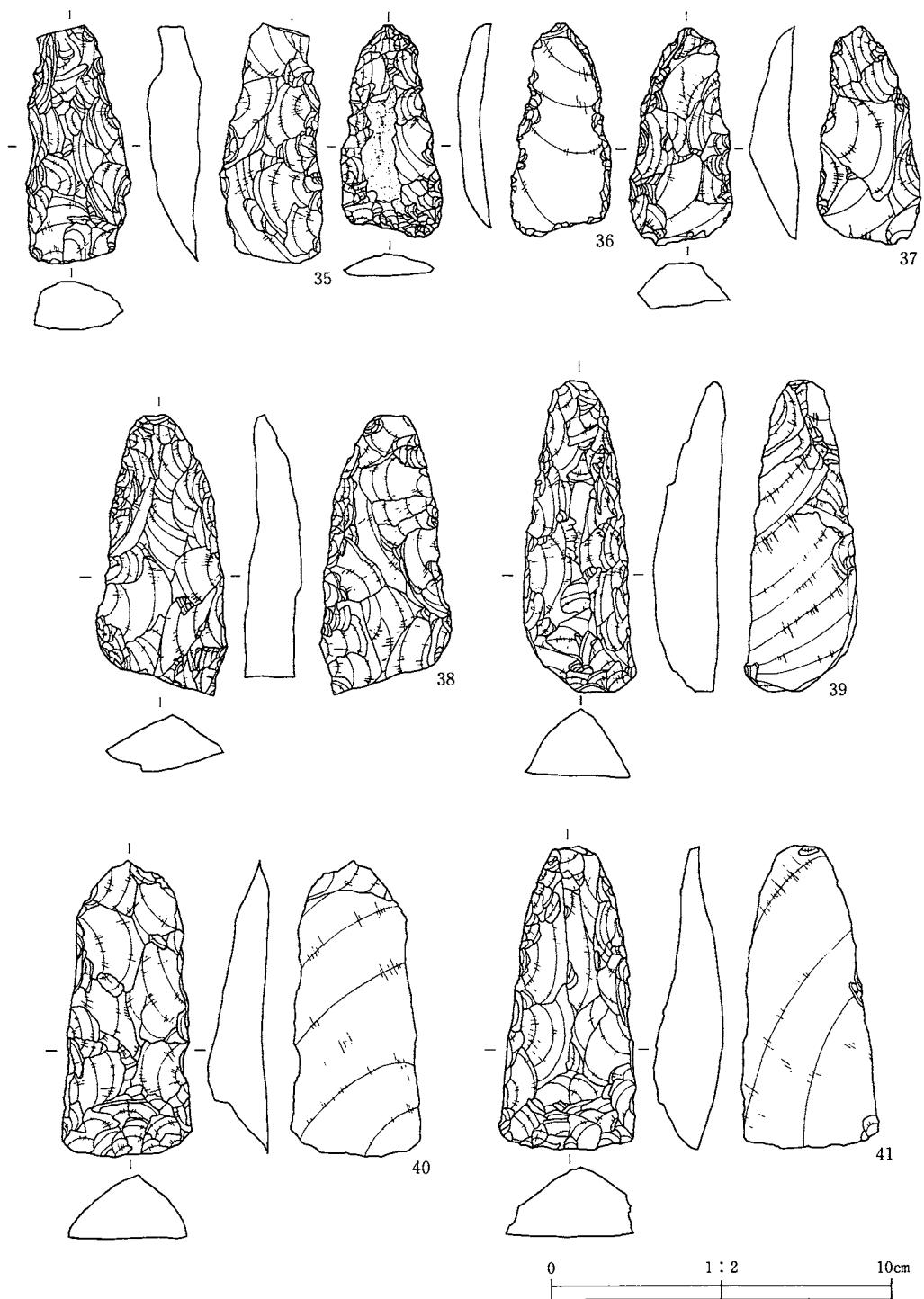
VIIA区沢跡の南西側付近から63・64の2点が並んで出土している。自然礫の1側面に明瞭な擦痕を有するもので、64は先端が欠損している。石質はいずれも緑色凝灰岩である。

③接合資料（第17図、第3・5表、写真図版15）

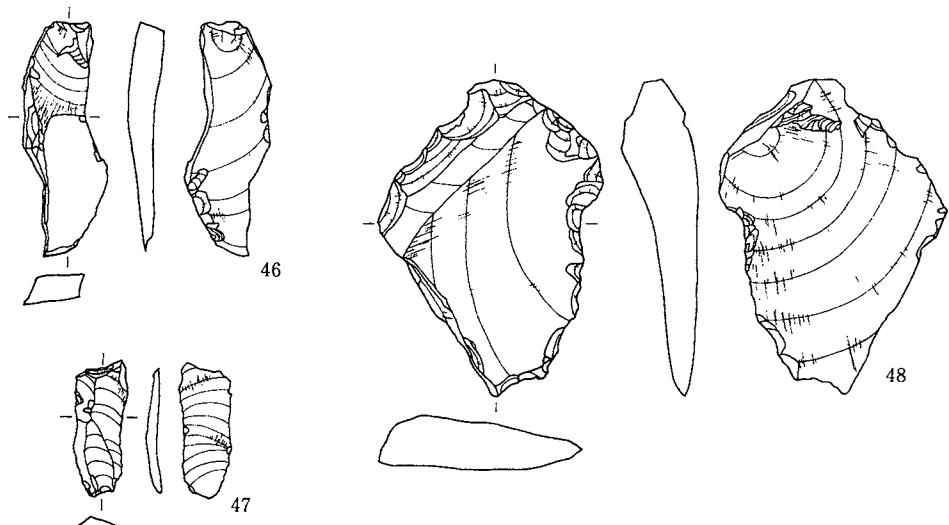
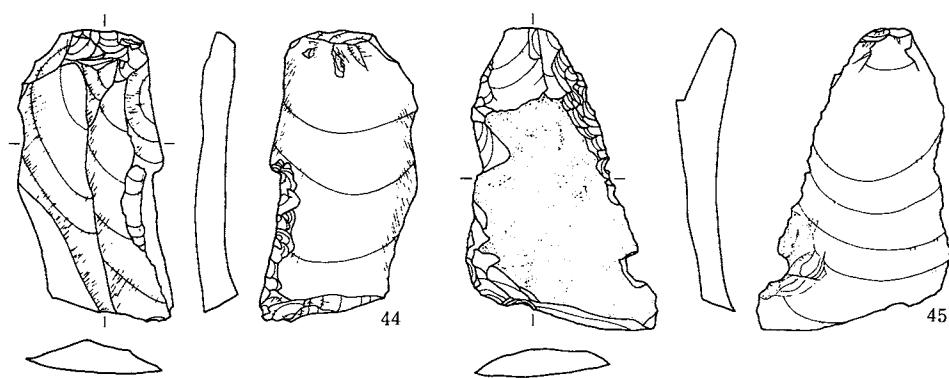
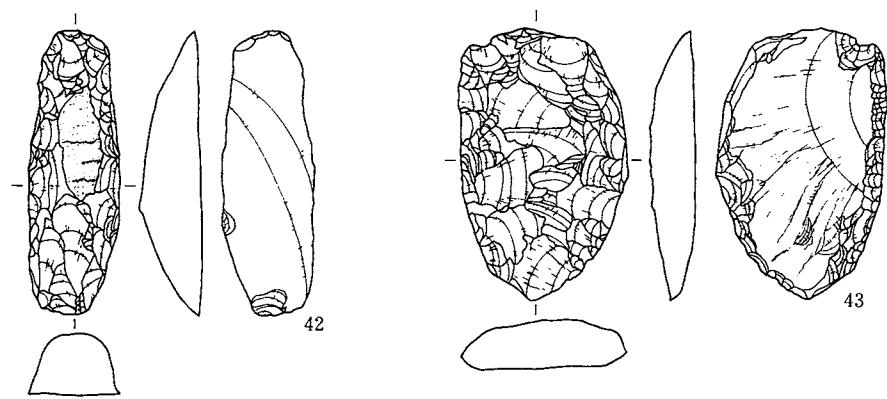
出土した剝片類の中で数点接合できたものがある。調査区中央部北西側のⅢB-8h区で2点1組（資料b）、北東側のVIIA-1i・2i区で2点ずつ5組（資料a）、3点1組（資料c）である。石質はいずれも硬質泥岩で、周辺で採集可能なものであり、当地で石器製作が行われたことを示すものと思われる。



第13図 出土遺物：石器（1）

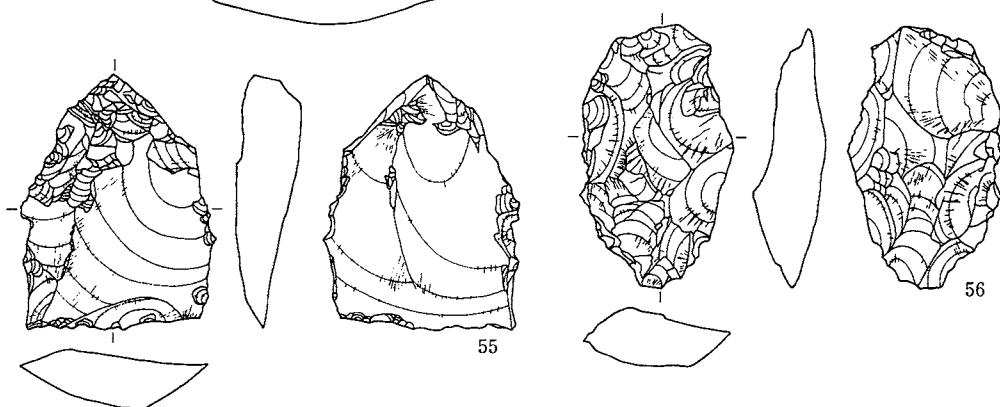
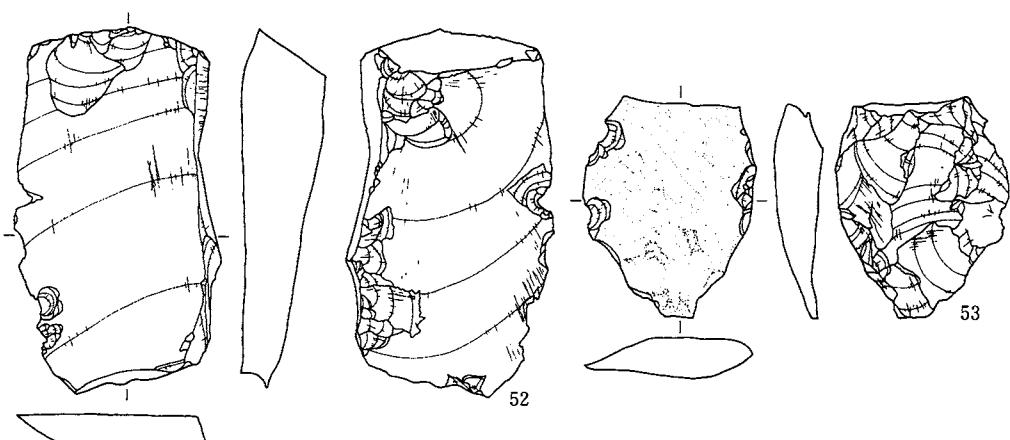
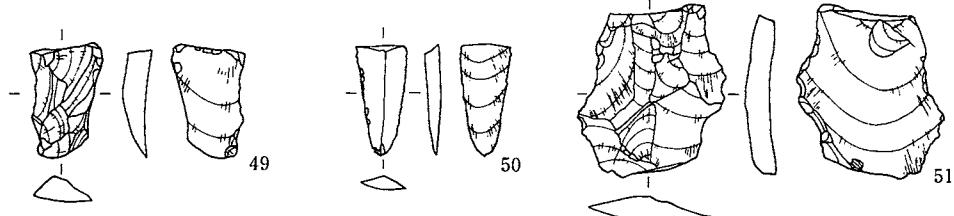


第14図 出土遺物：石器（2）



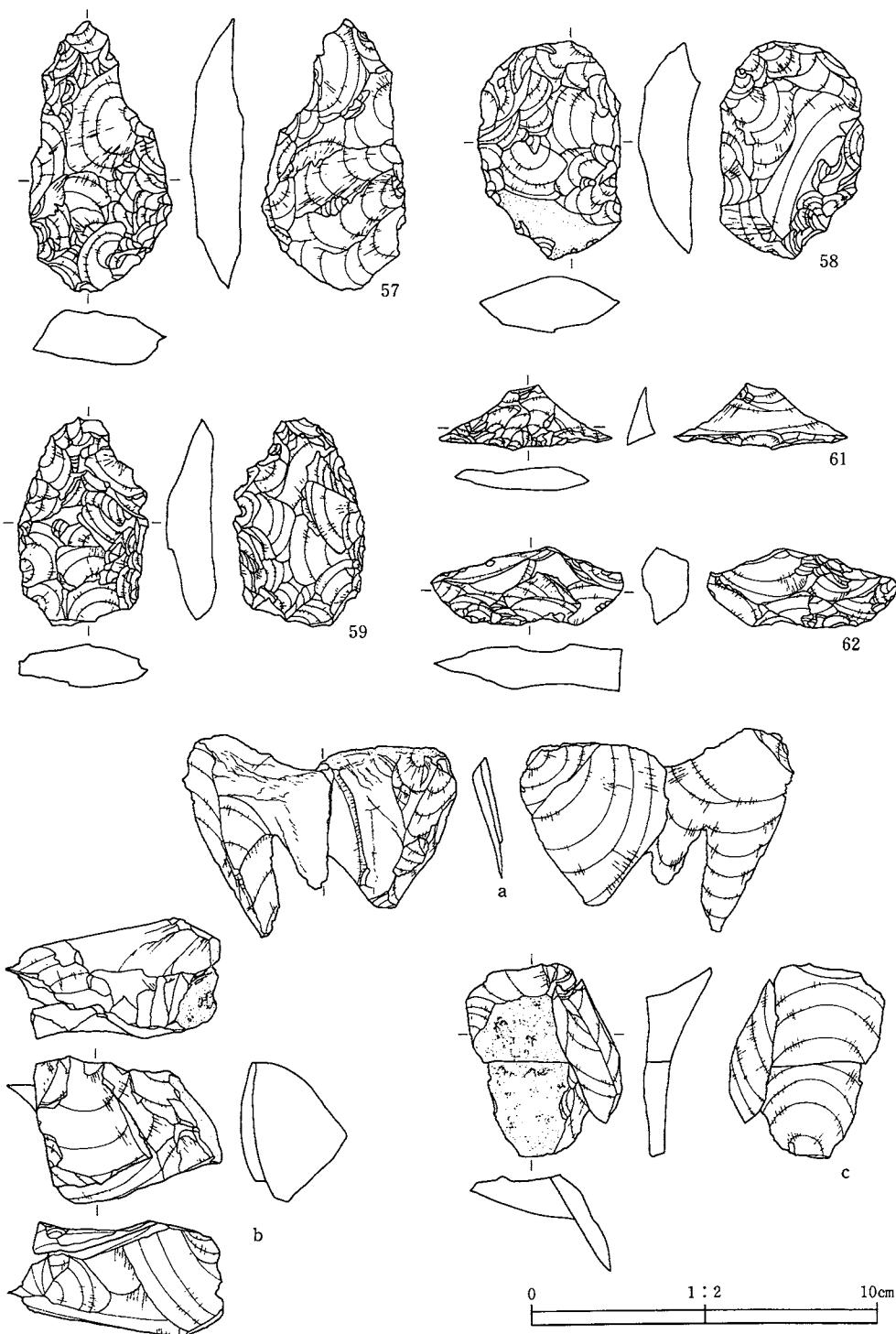
0 1 : 2 10cm

第15図 出土遺物：石器（3）

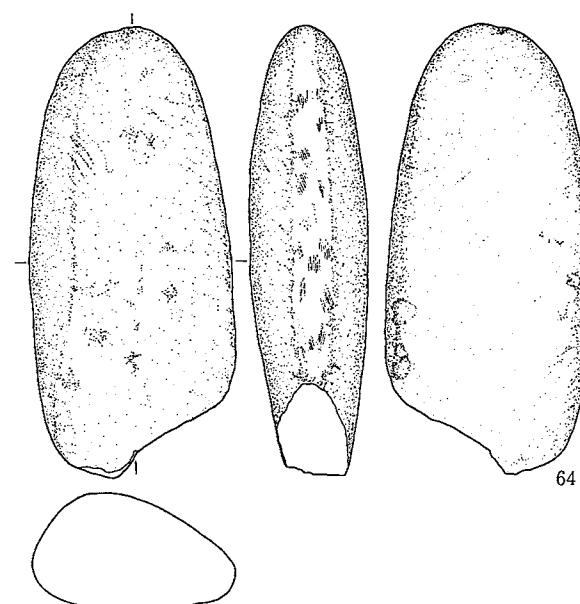
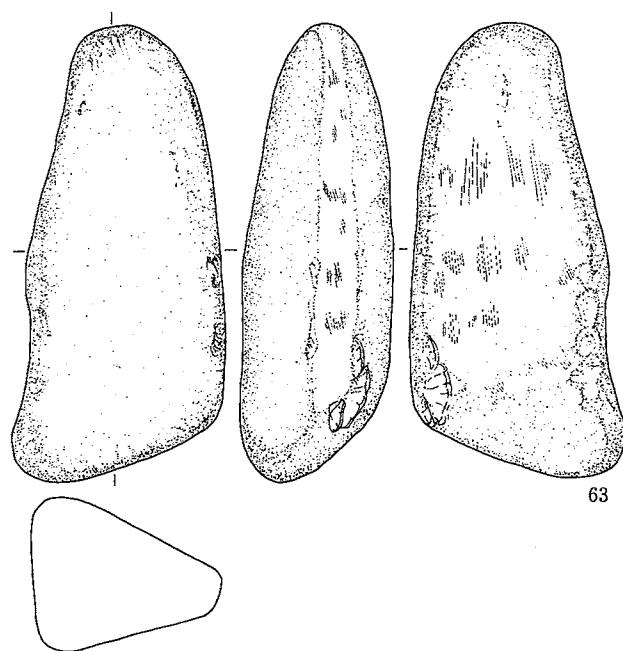


0 1 : 2 10cm

第16図 出土遺物：石器（4）



第17図 出土遺物：石器（5）



0 1 : 3 10cm

第18図 出土遺物：石器 (6)

第3表 地地区別石器類出土状況 (重量g)

地区	層位	石 器		剝片類		チップ		石 核		備考石器(No)、その他
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
I C	- 6 j	表採	1	13.77						石箇(34)
I D	- 0 i	I層			1	3.28				
	- 2 f	I層			1	2.48				
	- 5 a	I層	1	51.72						不定形(43)
	- 5 b	I層			1	1.05				
	- 6 b	IV層	1	2.94						石鎌(30)
		V層			1	19.49				
	- 6 c	V層					1	0.52		
	- 6 e	IV層			1	15.15				
	- 6 f	IV層			1	8.39				
	- 6 g	不明			1	4.54				
	- 6 h	IV層			4	12.07	1	0.29		
	- 6 i	III層			3	7.3	17	4.11		集中区
		IV層	2	1.74	15	47.61	258	36.22		石鎌(27、28)
	- 6 j	III層			4	7.39				集中区
		IV層	3	119.18	38	101.13	337	32.42		不定形(56、57、58)
	- 7 b	I層			2	12.91				
	- 7 c	IV層			1	29.64				
		V層			1	4.05				
	- 7 d	I層			3	54.76				
		IV層	1	0.97						石鎌(25)
	- 7 e	I層					1	0.52		
		III層			1	5.05				
		IV層	1	32.84	8	33.44	10	3.51		石箇(35)
	- 7 f	III層					1	0.67		
		IV層			3	9.5	10	3.56		
	- 7 g	I層					1	0.71		
		II層			2	15.74				
		III層			1	11.85				
		IV層					1	0.41		
	- 7 h	I層	1	16.89						不定形(62)
		IV層			2	18.02				
	- 7 i	I層			1	7.29				集中区
		II層			1	21.3				
		III層			4	15.39	22	9.93		
		IV~V層	2	14.88	70	163.8	2561	273.74		石鎌(29)、石匙(32)
	- 7 j	III層			5	12.5	12	5.11		集中区
		IV層	1	3.58	8	16.14	80	19.18		不定形(49)
	- 8 d	I層			1	2.82				
		IV層			1	2.69				
	- 8 e	IV層			2	7.85	9	4.01		
	- 8 f	I層			1	1.99				
	- 8 h	I層					1	0.33		
		IV層			1	3.37				
	- 8 i	I層			2	5.45	1	0.11		
		III層			1	7.16	2	0.5		
	- 9 g	I層	1	4.5	11	107.04				尖頭器?(31)
	- 9 h	I層	1	136.78	4	23.59				不定形(52)
	- 9 i	I層			1	2.85				
I D 区小計			15	386.02	209	826.07	3326	395.85		

地 区	層 位	石 器		剝 片		チップ		石 核		備考石器(No)、その他
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
II C	- 9 a	I 層		1	2.06					
II D	- 0 f	I 层	1	27.74						不定形(53)
	- 0 g	I 层	2	81.23						石箙(37)、不定形(55)
	- 0 h	I 层			5 68.54					
	- 0 i	I 层	1	11.27	4	73.05	1	1.75		不定形(46)
	- 1 d	IV 层			1	0.94				
	- 1 e	I 层			2	2.64				
	- 1 f	I 层	1	71.02	2	15.61				不定形(48)
	- 1 g	I 层			4	27.72	1	0.36		
	- 2 c	I 层					2	1.62		
	- 2 e	IV 层			1	22.97				
II D区小計	- 2 e	I 层			1	62.07				
	- 2 f	I 层			1	44.47	1	0.8		
	- 2 g	I 层	1	45.17						不定形(54)
	- 3 f	不明					1	0.38	1	59.4
	- 4 e	III 层					1	0.15		
	- ?	不明			1	18.91				
			6	236.43	22	336.92	7	5.06	1	59.4
	- 4 i	I 层	1	30.0						不定形(59)
	- 8 h	IV 层			1	9.04			1	69.42 接合資料 b
	- 0 b	I 层	1	1.05						石箙(24)
IV B	- 0 g	IV 层	1	31.37						不定形(44)
	- 0 h	不明					1	0.26		
	- 1 g	IV 层					1	0.21		
	- 1 h	不明					3	0.4		
	- 2 g	IV 层					2	1.33		
	- 2 i	不明			3	5.75	1	0.19		
	- 3 h	不明			1	1.13	2	0.41		
	- ?	I 层			1	40.06	4	1.86		
IV B区小計			1	31.37	5	46.94	14	4.66		
V B	- 0 e	IV 层			1	15.48				
	- 0 h	I 层			1	3.21				
V C	- 1 e	表採	1	0.74						石箙(26)
	- 4 b	II 层	1	33.78						不定形(45)
VIB	- 4 f	I 层			1	22.67				
VIA	- 0 g	III 层			1	33.18				
	- 0 h	III 层			1	6.25				
	- 0 j	IV 层			2	7.0				
	- 1 g	III 层			3	39.96	1	0.22		
	- 1 g	IV 层			3	12.51	3	2.11		
	- 1 h	I 层					1	0.15		
	- 1 h	III 层					1	0.73		
	- 1 h	IV 层			1	1.59				
	- 1 i	I 层			4	49.45	2	0.48		
	- 1 i	III 层			3	7.97				
	- 1 i	IV 层	1	3.66	48	245.71	8	4.32		不定形(61)、接合資料 a・c 他 4 組
- 1 j	- 1 j	I 层			7	14.99	5	2.01		
	- 1 j	IV 层			13	151.2				
	- 2 g	I 层			3	33.86	1	0.49		
- 2 g	- 2 g	III 层			1	3.43				

地区	層位	石器		剝片		チップ		石核		備考石器(No)、その他
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
VIIA	-2g	IV層			1	8.31	1	0.41		
	-2h	III層			4	34.62	1	0.5		
	-2i	III~IV層			14	77.34	12	5.39		1i~IV層の剝片と接合
	-2j	III層			1	20.36				
		IV層			4	11.79	1	0.19		
	-3g	IV層			2	3.41			1	51.02
		II層			1	8.92				
	-3h	III層			7	192.63	3	2.12		
		IV層	1	1.23	2	37.79				不定形(50)
	-3i	IV層			3	47.73	2	1.02		
	-3j	IV層	1	1.7	2	64.04				不定形(47)
		II層			1	17.12				
	-4g	III層			1	18.67				
		IV層			2	12.35				
	-4h	I層			1	1.64				
		III層			1	18.5				
		IV層	4	172.89	3	22.07	2	0.47		石箇(40、41、42)、不定形(51)
	-4i	IV層			1	5.33				
	-5g	II層			1	13.21				
	-5h	I層			1	23.57				
	-6h	IV層	1	63.05						石箇(39)
	-6i	III層	1	28.98						石匙(34)
VIIA 区小計			9	271.51	143	1246.5	44	20.71	1	51.02
VIB	-0i	IV層			1	1.78				
	-0j	I層			1	7.69				
	-2d	I層			1	15.34				
	-2e	I層			1	3.36				
	-2h	IV層					1	0.12		
	-3g	IV層					1	0.12		
	-5e	I層	1	16.43						石匙(33)
	-6b	I層					1	0.4		
VIB 区小計			1	16.43	4	28.17	3	0.64		
全地区総計(重量)			37(1021.1)	388(2537.06)	3394(426.92)	3(179.84)			総重量 (4164.92)	

第4表 土坑・沢跡出土石器類 (重量 g)

遺構名	層位	石器		剝片		チップ		石核		備考石器(No)、その他
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
VIIA-1号土坑	埋土下部			1	59.79					剥片(60)
VIIA区沢跡	底面	1	49.26							石箇(38)
	埋土			7	55.5					未掲載
VIB-1号土坑	埋土1層			1	7.3					未掲載
VIB-3号土坑	埋土2層			1	0.8	1	0.36			未掲載

第5表 石器観察表

(長さ・幅・厚さcm、重量g)

No	出土地点・層位	器種	最大長	最大幅	最大厚	重量	石質	産地	生成年代	備考	図版	写真図版
24	III C - 0 b + I 層	石鎌	3.7	1.1	0.3	1.05	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		13-24	12-24
25	I D - 7 d + IV 層	石鎌	2.1	1.4	0.4	0.97	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		13-25	12-25
26	V C - 1 e + 表探	石鎌	2.1	1.4	0.3	0.74	黒曜石	奥羽山地	中新統		13-26	12-26
27	I D - 6 i + IV 層	石鎌	2.5	1.3	0.4	0.84	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	集中区	13-27	12-27
28	I D - 6 i + IV 層	石鎌	2.2	1.55	0.4	0.9	粘板岩	夏油川上流? または北上山地	古生界		13-28	12-28
29	I D - 7 i + V 層	石鎌	2.2	1.2	0.3	0.62	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	基部タール付着	13-29	12-29
30	I D - 6 b + IV 層	石鎌	4.8	1.4	0.6	2.94	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	茎部タール付着	13-30	12-30
31	I D - 9 g + I 層	尖頭器?	3.2	2.15	0.7	4.5	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		13-31	12-31
32	I D - 7 i + IV 層	石匙	4.2	5.3	0.7	14.26	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	集中区	13-32	12-32
33	VII B - 5 e + I 層	石匙	7.4	3.0	0.9	16.43	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		13-33	12-33
34	VII A - 6 i + III 層	石匙	9.7	2.9	1.2	28.98	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	VII A 区沢跡東側	13-34	12-34
35	I D - 7 e + IV 層	石箇	7.1	3.05	1.6	32.84	綠色凝灰岩	奥羽山地	中新統		14-35	13-35
36	I C - 6 j + 表探	石箇	6.25	3.0	1.0	13.77	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		14-36	13-36
37	II D - 0 g + I 層	石箇	6.4	3.05	1.5	25.0	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		14-37	13-37
38	VII A 区沢跡・底面	石箇	8.3	3.9	1.65	49.26	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		14-38	13-38
39	VII A - 6 h + III 層	石箇	9.2	3.3	2.2	63.05	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	VII A 区沢跡西側	14-39	13-39
40	VII A - 4 h + IV 層	石箇	8.8	3.8	1.7	56.69	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		14-40	13-40
41	VII A - 4 h + IV 層	石箇	9.0	4.1	2.1	67.54	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		14-41	13-41
42	VII A - 4 h + IV 層	石箇	7.5	2.45	1.7	35.42	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		15-42	13-42
43	I D - 5 a + I 層	不定形	7.2	4.6	1.2	51.72	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		15-43	13-43
44	IV B - 0 g + IV 層	不定形	7.7	4.2	1.2	31.37	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		15-44	13-44
45	VC - 4 b + II 層	不定形	8.1	5.1	1.7	33.78	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		15-45	13-45
46	II D - 0 i + I 層	不定形	6.3	2.3	1.0	11.27	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		15-46	13-46
47	VII A - 3 j + IV 層	不定形	3.7	1.4	0.3	1.7	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		15-47	14-47
48	II D - 1 f + I 層	不定形	8.4	6.0	2.0	71.02	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		15-48	14-48
49	I D - 7 j + IV 層	不定形	3.0	1.9	0.8	3.58	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	集中区、使用痕	16-49	14-49
50	VII A - 3 h + IV 層	不定形	2.9	1.45	0.4	1.23	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-50	14-50
51	VII A - 4 h + IV 層	不定形	4.55	4.0	0.9	13.24	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-51	14-51
52	I D - 9 h + I 層	不定形	9.7	5.5	2.2	136.78	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-52	14-52
53	II D - 0 f + I 層	不定形	5.9	4.6	1.1	27.74	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-53	14-53
54	II D - 2 g + I 層	不定形	4.9	6.7	1.3	45.17	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-54	14-54
55	II D - 0 g + I 層	不定形	6.8	5.2	1.7	56.23	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	使用痕	16-55	14-55
56	I D - 6 j + IV 層	不定形	7.0	4.1	1.9	39.74	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	未製品、集中区	16-56	14-56
57	I D - 6 j + IV 層	不定形	7.9	4.2	1.6	39.92	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	未製品、集中区	17-57	15-57
58	I D - 6 j + IV 層	不定形	6.3	4.2	1.7	39.52	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	未製品、集中区	17-58	15-58
59	III B - 4 i + I 層	不定形	5.1	3.8	1.4	30.0	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	未製品	17-59	15-59
60	VII A - 1 号土坑・埋土	剥片	9.2	4.8	2.0	59.79	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統		7-60	15-60
61	VII A - 1 i + IV 層	不定形	1.9	5.0	0.8	3.66	泥質凝灰岩	川尻、横手	中新統	石器の折れ?	17-61	15-61
62	I D - 7 h + I 層	不定形	2.3	5.6	1.4	16.89	硬質泥岩	川尻、横手	中新統		17-62	15-62
63	VII B - 6 a + V 層	擦石	16.15	7.6	5.5	805.0	綠色凝灰岩	奥羽山地	中新統		18-63	15-63
64	VII B - 6 a + V 層	擦石	16.1	7.3	4.2	617.0	綠色凝灰岩	奥羽山地	中新統		18-64	15-64
a	VII A - 1 i + III ~ IV 層	剥片	-	-	-	-	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	接合資料	17-a	15-a
b	III B - 8 h + IV 層	剥片・石核	-	-	-	-	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	接合資料	17-b	15-b
c	VII A - 1 i + III ~ IV 層	剥片	-	-	-	-	硬質泥岩	川尻、横手	中新統	接合資料	17-c	15-c

6. まとめ

遺構、遺物については全体的な特徴を簡単に述べ、最後に遺跡全体にかかわることについて若干述べてまとめとしたい。

(1) 遺 構

①堅穴状遺構

調査区中央部南西側で1棟検出されている。北西側半分が削平されているため全体の形状は不明であるが、残存する壁は南北方向で6m、東西方向で4.4mを測り、正方形か長方形を呈していたと思われる。南西側床面及び東壁中央外側に隣接して小土坑2基を伴っているが性格は不明である。形態から古代、中世、近世などの堅穴住居跡や小屋跡などが考えられるが、出土遺物はなく、所属時期を特定することはできない。

②土 坑

検出された土坑16基を平面形で分類すると円形12基、楕円形1基、隅丸長方形1基、不整形2基である。

円形のものは規模や埋土の状況などから更にA～Cに細分され、直径0.8～1.5mで深さ52～132cmのもの8基(A)、直径約2.4mで深さ1.02mのもの1基(B)、直径0.5～1mで深さ14～34cmのもの3基(C)である。Aの断面形はビーカー形1基(VIB-1号土坑)、袋状1基(III C-1号土坑)、底部から外傾しながら立ち上がるるもの6基(III B-1、IV C-2・3、VII B-1・3・5号土坑)で、田村壮一氏(1978)のC型に分類されると考えられる。このタイプの土坑は埋土上部から中部層にかけて黒～黒褐色シルトが堆積し、径1～15cm程の礫が多く含まれており、短期間に埋まった様相を呈するものである。B(VIA-1号土坑)の断面形はビーカー形であるが、Aに比べ開口部径・底部径が大きく、また、壁際の崩壊土の様子などからフラスコ形であった可能性もある。C(III C-2・3・4号土坑)は断面形が浅皿・摺鉢状を呈する小形のもので、埋土は人為堆積の様相を呈するものである。

これらの土坑は出土遺物を伴わず所属時期を決定する根拠に乏しいが、周辺から出土している土器は縄文時代前期初頭～前葉のものであり、A・Bは縄文時代前期初頭以降に構築されたものと思われる。なお、AのIII B-1号土坑埋土7層から出土した炭化物は放射性炭素年代測定によると 7280 ± 240 y.B.P.、VIA-1号土坑(B)の埋土下部出土の炭化物は 2780 ± 130 y.B.P.という結果を得ている。楕円形・隅丸長方形のものは埋土の状況等からA・Bに近い時期のものと推定される。Cは不明であるが、埋土が人為堆積の様相を呈するものが多く、また、比較的やわらかいことから、昭和30年代の開田時以降につくられた可能性がある。不整形

の2基は不明である。

土坑の性格としては、Aは西側を除くほぼ全域に散在し、規則的な配列などは特に認められないが陥し穴の可能性が考えられる。Bは貯蔵穴としての機能が考えられるが、周辺に住居跡や集落跡が検出されておらず断定はできない。楕円形・隅丸長方形のものは過去の類例などから墓壙としての機能が考えられ、特に、VII B-4号土坑（隅丸長方形）は塚野I遺跡検出の土坑と規模・形態・埋土状況が類似している。しかし、単独で検出されたものであり、副葬品の出土もないことから断定はできない。円形で小形のもの3基（C）と不整形2基は不明である。

③陥し穴状遺構

調査区東側中央付近で1基検出されている。長さ（開口部）約2.6m、幅約0.5mの溝状のもので両端が膨らんでおり、深さは80～12cmで東側に傾斜している。このタイプは、瀬川司男氏（1981）によればA IV型（溝形で両先端部が広がるタイプ）に分類され、田村壮一氏（1987）によればA₁型（溝形で長さ1.5m未満のもの）に分類される。構築時期は、岩手県内検出の陥し穴状遺構の出土遺物と遺構の切り合い関係及び降下火山灰の3つの視点から、「縄文時代中期末（大木10式）～後期前葉である」（田村、1987）としている。

④VII A区沢跡

底面・埋土出土土器や周辺のVII A区出土土器は縄文時代前期初頭～前葉に比定されるもので、当該期に存在していたと思われる。

⑤石器類出土集中区

石器・剝片・チップ等が集中して出土しており、石器製作が行われていたことを示すものである。出土土器は縄文時代後期のものが多いが、南東側からの流れ込みも考えられ、縄文時代前期～後期の広い範囲でえた方がよいと思われる。なお、当地区基本層序第IV～V層出土炭化物は、放射性炭素年代測定によると3590±150y.B.P.という結果を得ている。

（2）出土遺物

①土 器

縄文時代前期初頭～前葉のものが大半である。ここで前期初頭というのは長七谷地Ⅲ群・上川名Ⅱ式・早稻田6類に相当するものを指し、前期前葉というのは大木1式に相当するものを指している。復元された2個体はいずれも胎土に纖維を含み、口唇部に縄文原体圧痕を有し、底部が尖底あるいは丸底になると思われるものである。地文はそれぞれ複節縄文や結束羽状縄文が施文され、前期初頭に属するものである。他は、細片がほとんどであるが胎土に纖維を含み、地文に单節縄文（LR）が施文されるものが多い。羽状縄文や0段多条、ループ文が施文さ

れるものもあるが少ない。

後期のものは石器類出土集中区付近に数点出土しているだけであり、十腰内Ⅲ・V式相当の土器片が出土している。他に鰐状突起と思われる粘土貼付けを有する口縁部片が、同集中区から1点出土しており、縄文時代中期末葉（大木10式）のものと思われるが摩耗が著しく詳細は不明である。

②石 器

剥片石器と礫石器が出土している。礫石器は擦石2点だけで、VIA区沢跡の南東側付近から並んで出土している。剥片石器は石鏃8点（尖頭器1点を含む）、石匙3点、石籠8点、不定形石器（使用痕を有する剥片も含む）が19点出土しており、他に剥片・チップなどが出土している。

石質は擦石が緑色凝灰岩で、剥片石器は泥質凝灰岩が19点、硬質泥岩が16点、黒曜石・粘板岩・緑色凝灰岩が各1点となっている。このうち、比較的多く用いられている泥質凝灰岩・硬質泥岩は産地が川尻・横手とされており、接合資料として取り上げた剥片や他の剥片類も同質のものである。

（3）まとめ

①塚野Ⅱ遺跡は、水田造成時等に著しい削平・攪乱を受けているにもかかわらず、少量ではあるが縄文時代の土器・石器が出土していること、石器製作の存在を示すような剥片・チップの集中する箇所や接合できた剥片があること、土器が底面からまとまって出土した沢跡や陥し穴・土坑の存在などから、縄文時代の狩り場を含む何らかの生活の場として利用されていたものと思われる。

②土器や石器は、鬼ヶ瀬川に面した段丘縁（西側、北東側）に比較的多く出土していることから、生活の場はある程度限定されていたものと考えられる。

③出土土器は縄文時代前期初頭～前葉が中心であり、後期のものは調査区南西端部（石器類出土集中区付近）に限られている。

④遺構の構築時期は、縄文時代のもの（円形で小形や不整形以外の土坑、陥し穴状遺構）、不明のもの（堅穴状遺構、円形で小形や不整形の土坑）がある。

⑤本遺跡を含め、湯田町内で縄文時代の集落跡や住居跡は発見されていない。しかし、縄文時代の散布地として登録されている遺跡もあり、本遺跡周辺の地形を考えると、調査区域外南側に集落跡や住居跡が存在する可能性があると思われる。

<参考・引用文献>

- 瀬川司男 1981 「陥し穴状遺構について」『紀要Ⅰ』(財) 岩手県埋蔵文化財センター
- 田村壮一 1987 「陥し穴状遺構の形態と時期について」『紀要VII』(財) 岩手県埋蔵文化財センター
- 熊谷常正 1983 「岩手県における縄文時代前期土器群の成立」『岩手県立博物館研究報告第1号』

塚野 II 遺跡 写真図版



遺跡全景(南から)



遺跡全景(北から)

写真図版 1 空中写真(遺跡全景)



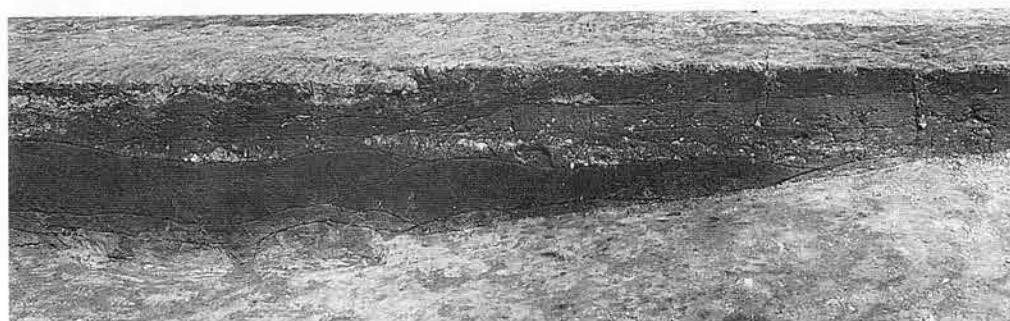
調査区遠景(西側一南西から)



調査区遠景(中央～東側一南西から)



基本土層(西側一北から)



基本土層(中部一西から)

写真図版2 調査区遠景・基本土層



完掘全景(東から)



埋土断面(東から)



埋土断面(南から)



P₁ 完掘全景



P₂ 完掘全景

写真図版3 III C—1号竪穴状遺構



全景(北西から)

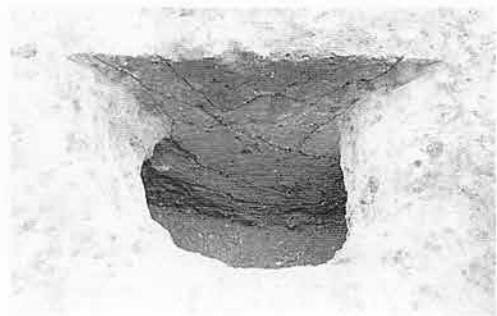


III B-1号土坑

断面(東から)

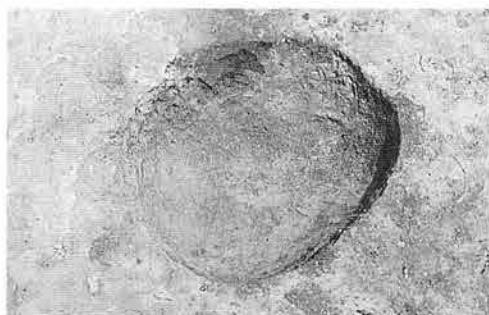


全景(南から)



III C-1号土坑

断面(南から)



全景(南から)



III C-2号土坑

断面(南から)



全景(南から)



III C-3号土坑

断面(西から)

写真図版4 III B-1、III C-1~3号土坑



全景(西から)



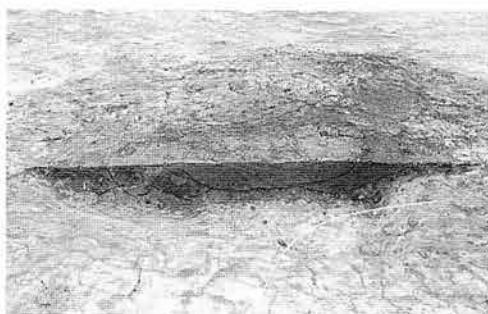
III C-4号土坑

断面(南東から)

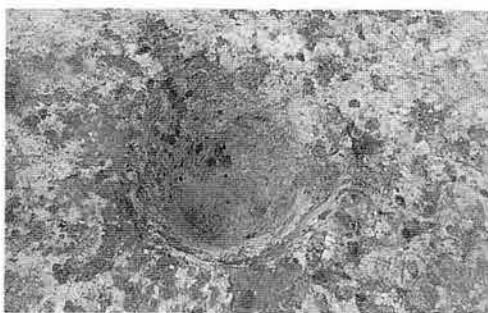


全景(南から)

IV C-1号土坑



断面(南から)



全景(南から)

IV C-2号土坑

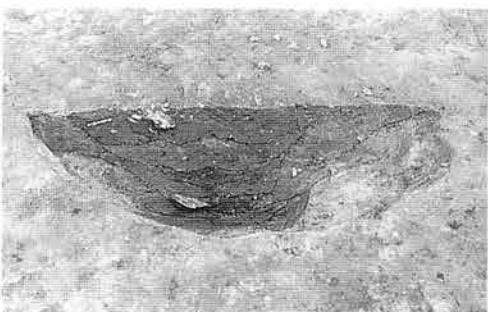


断面(南から)



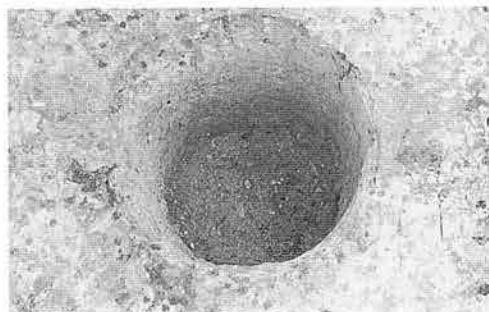
全景(南から)

IV C-3号土坑



断面(南から)

写真図版5 III C-4、IV C-1~3号土坑



全景(西から)

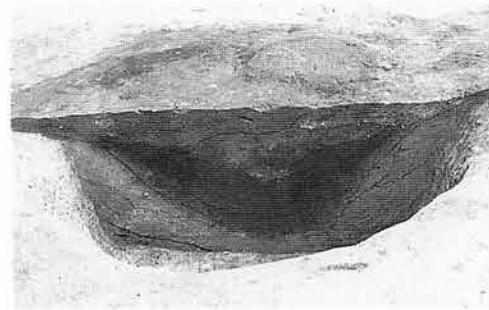


VII B - 1号土坑

断面(南から)



全景(西から)



VII A - 1号土坑

断面(南西から)

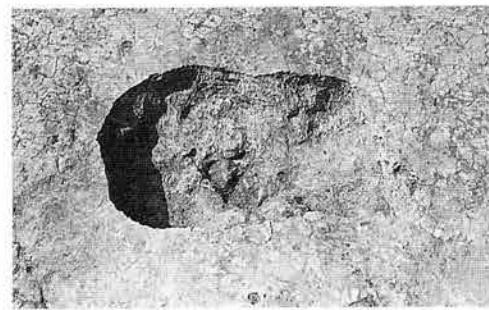


全景(南西から)

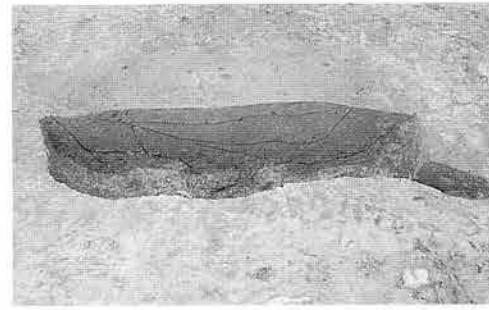


VII B - 1号土坑

断面(南から)



全景(南から)



VII B - 2号土坑

断面(南から)

写真図版6 VI B - 1、VII A - 1、VII B - 1・2号土坑



全景(西から)

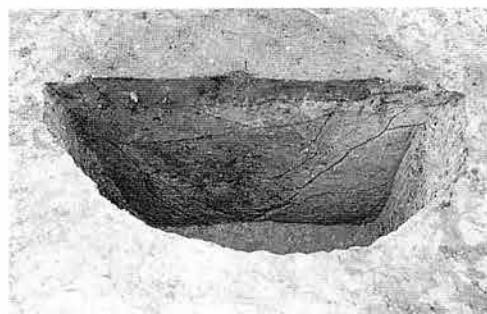


断面(南から)

VII B - 3 号土坑

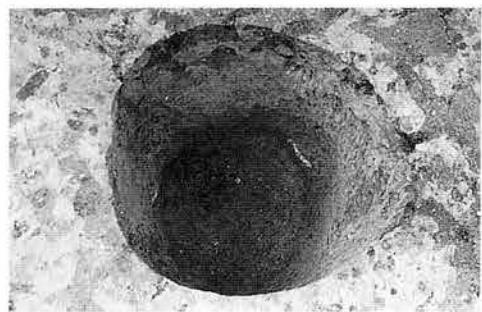


全景(南西から)



断面(南西から)

VII B - 4 号土坑



全景(南から)

VII B - 5 号土坑

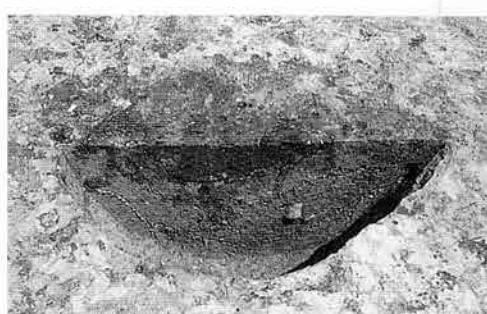


断面(南から)



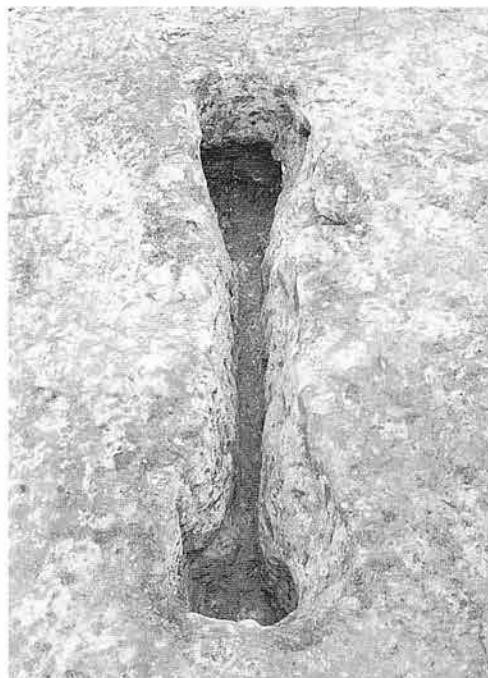
全景(南から)

VII B - 6 号土坑



断面(南から)

写真図版 7 VII B - 3~6号土坑



全景(東から)



VII B - 1号陷し穴状遺構

断面(東から)



全景(南から)



断面(北から)



VII A区沢跡

一括土器出土状況(北から)

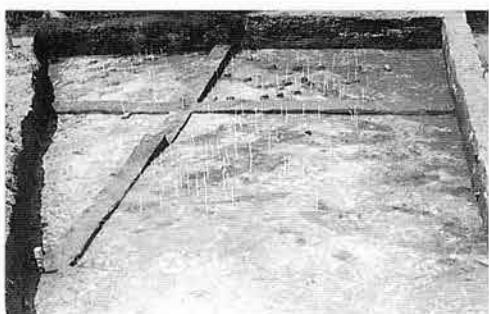
写真図版8 VII B - 1号陷し穴状遺構、VII A区沢跡



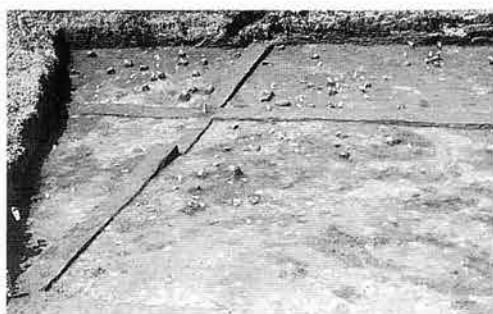
擦石出土状況(東から)



一括土器出土状況(IV B区西から)



全景(北東から)

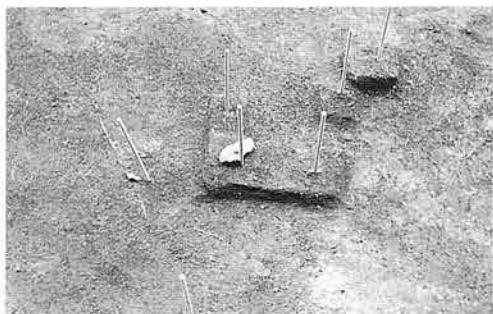


石器類出土集中区(1)

全景(北東から)

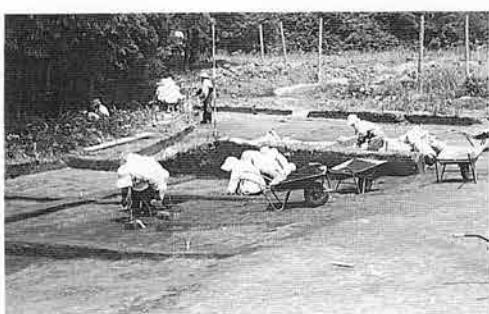


剥片・チップ出土状況(北東から)



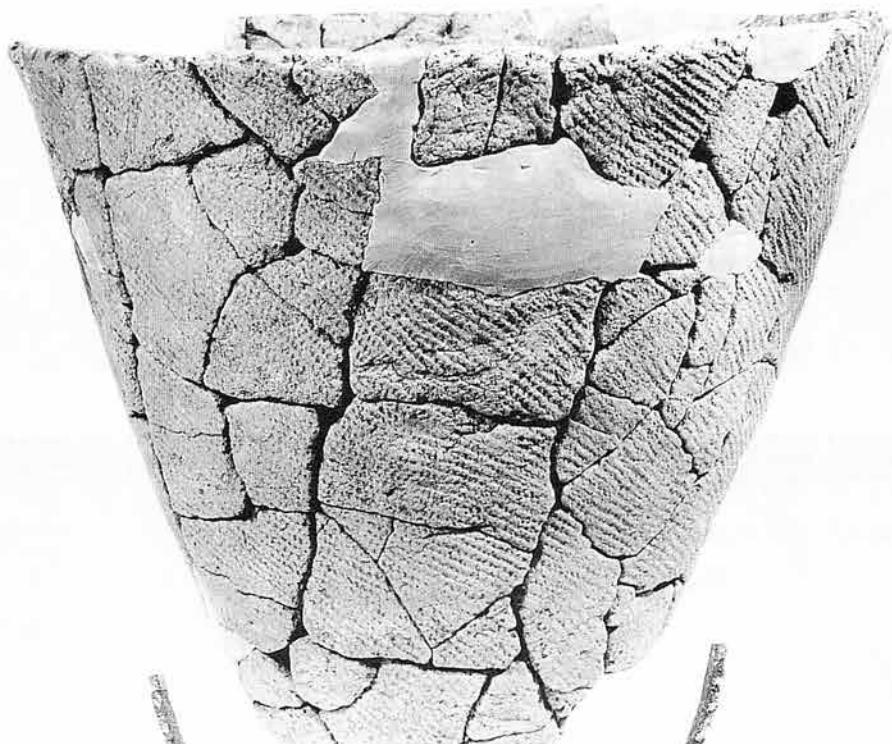
石器類出土集中区(2)

剥片・チップ出土状況(北東から)



作業風景

写真図版9 石器類出土集中区、その他



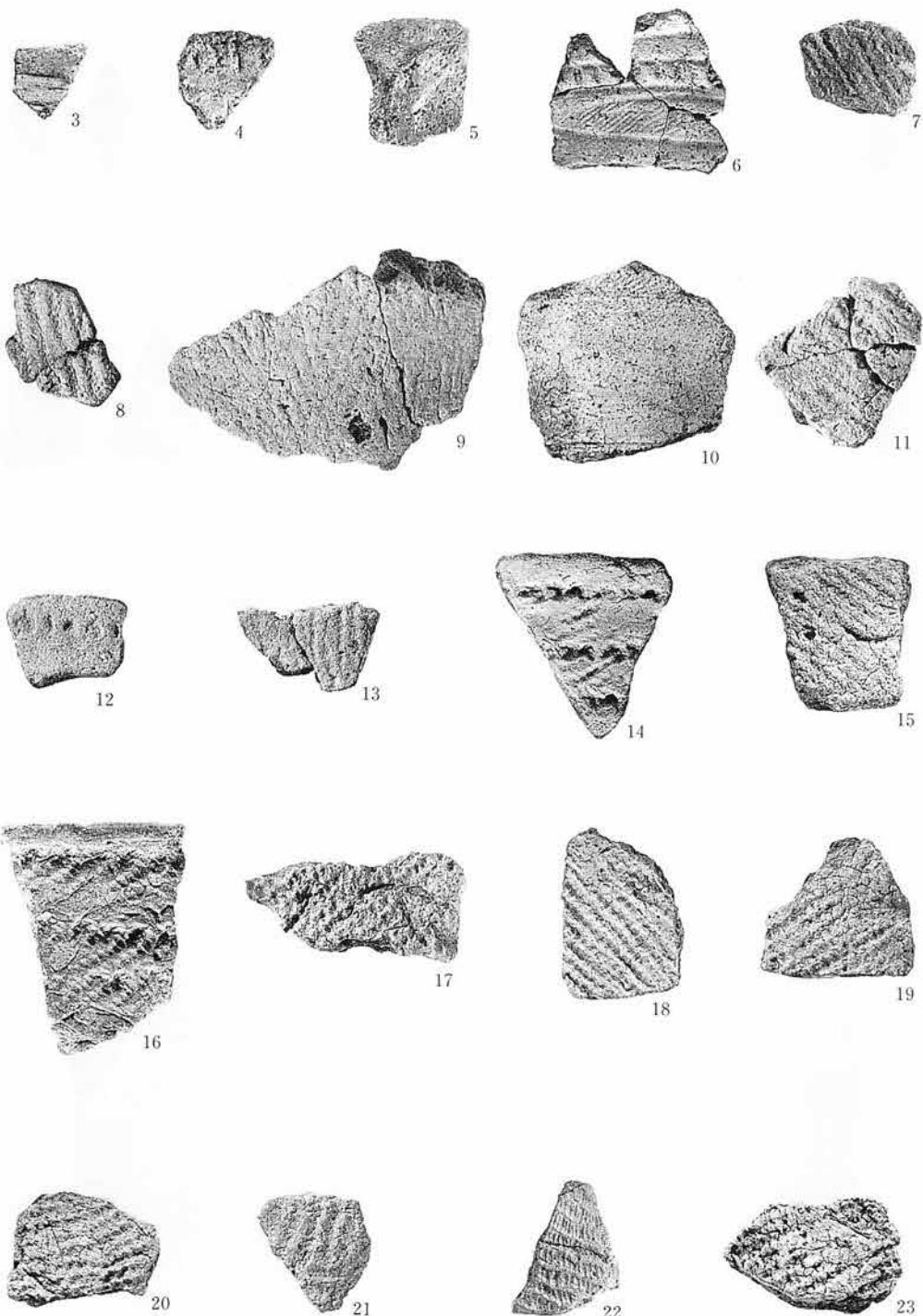
1



2

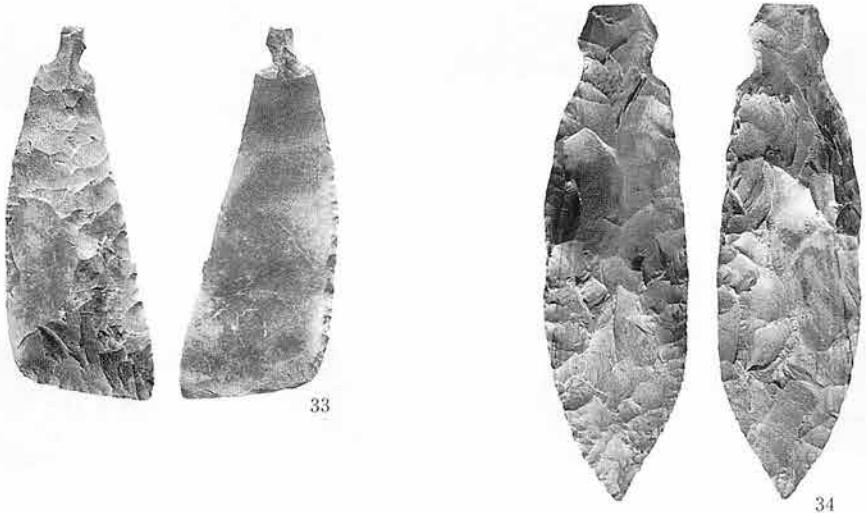
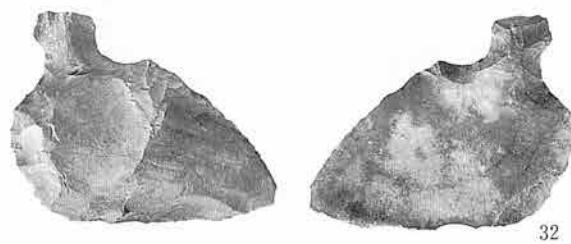
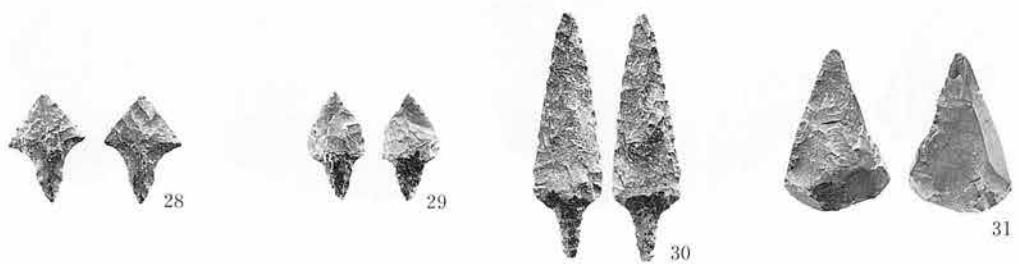
 $S \approx \frac{1}{3}$

写真図版10 出土遺物：土器 (1)



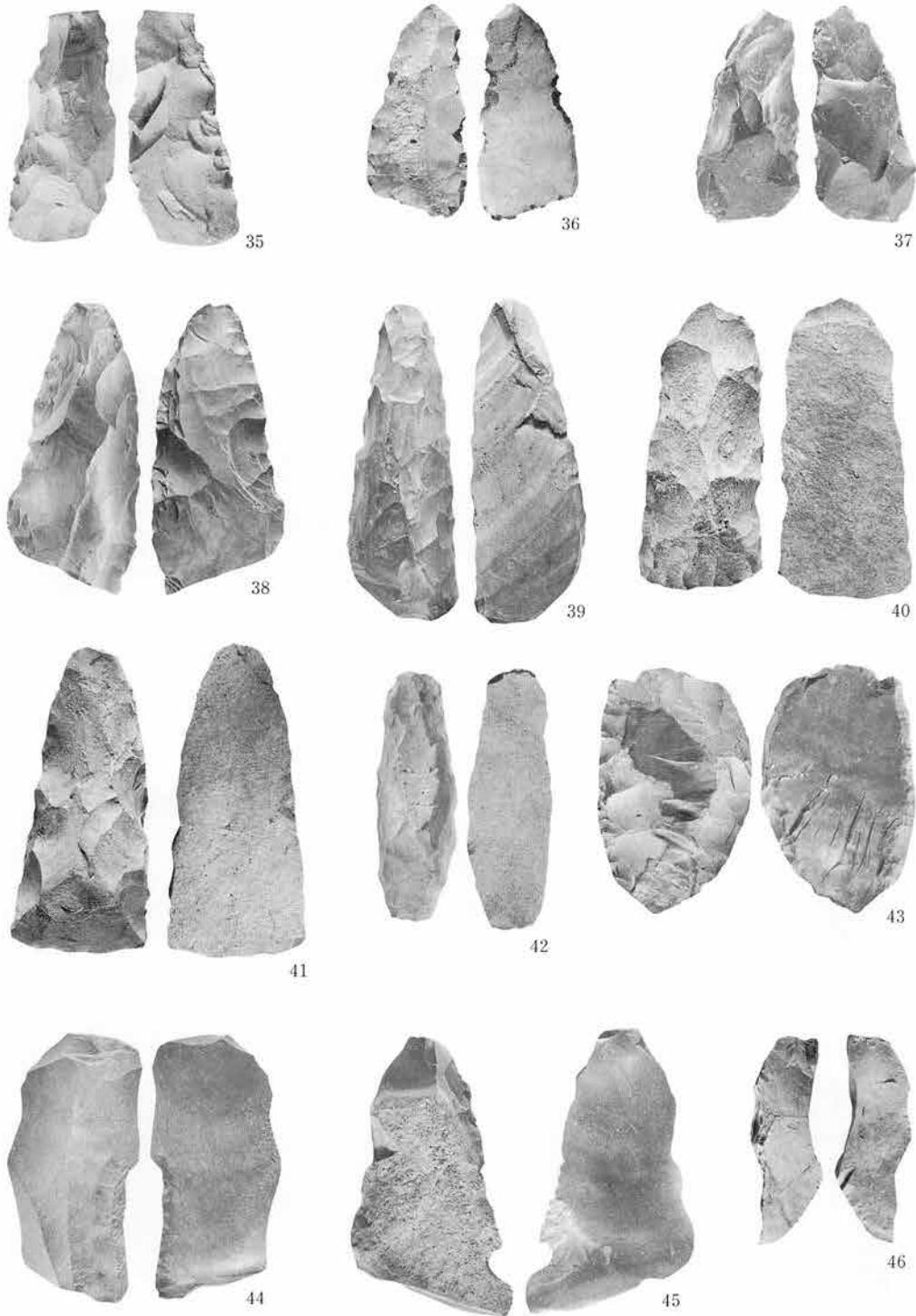
S = 1/4

写真図版11 出土遺物：土器 (2)



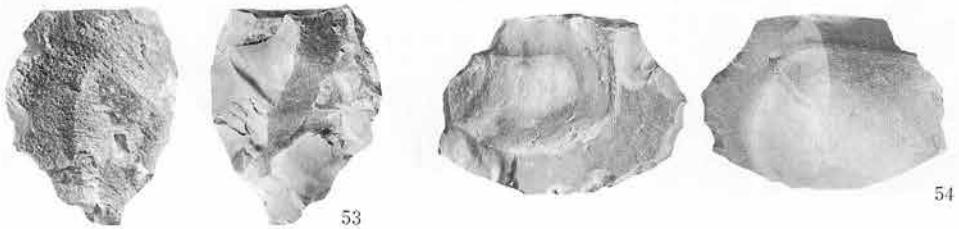
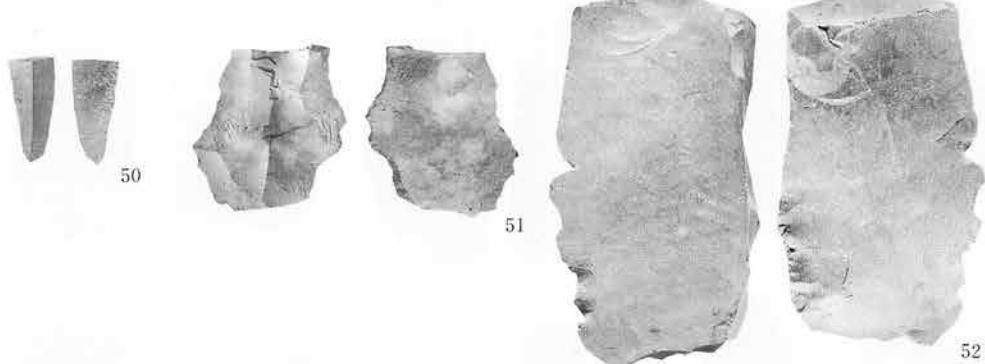
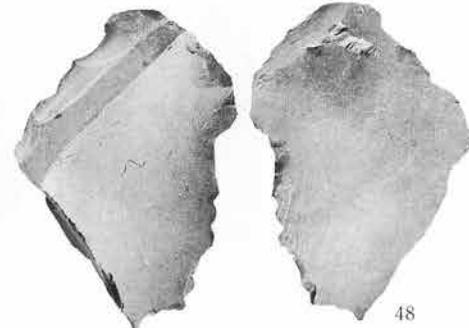
S = 2%

写真図版12 出土遺物：石器（1）



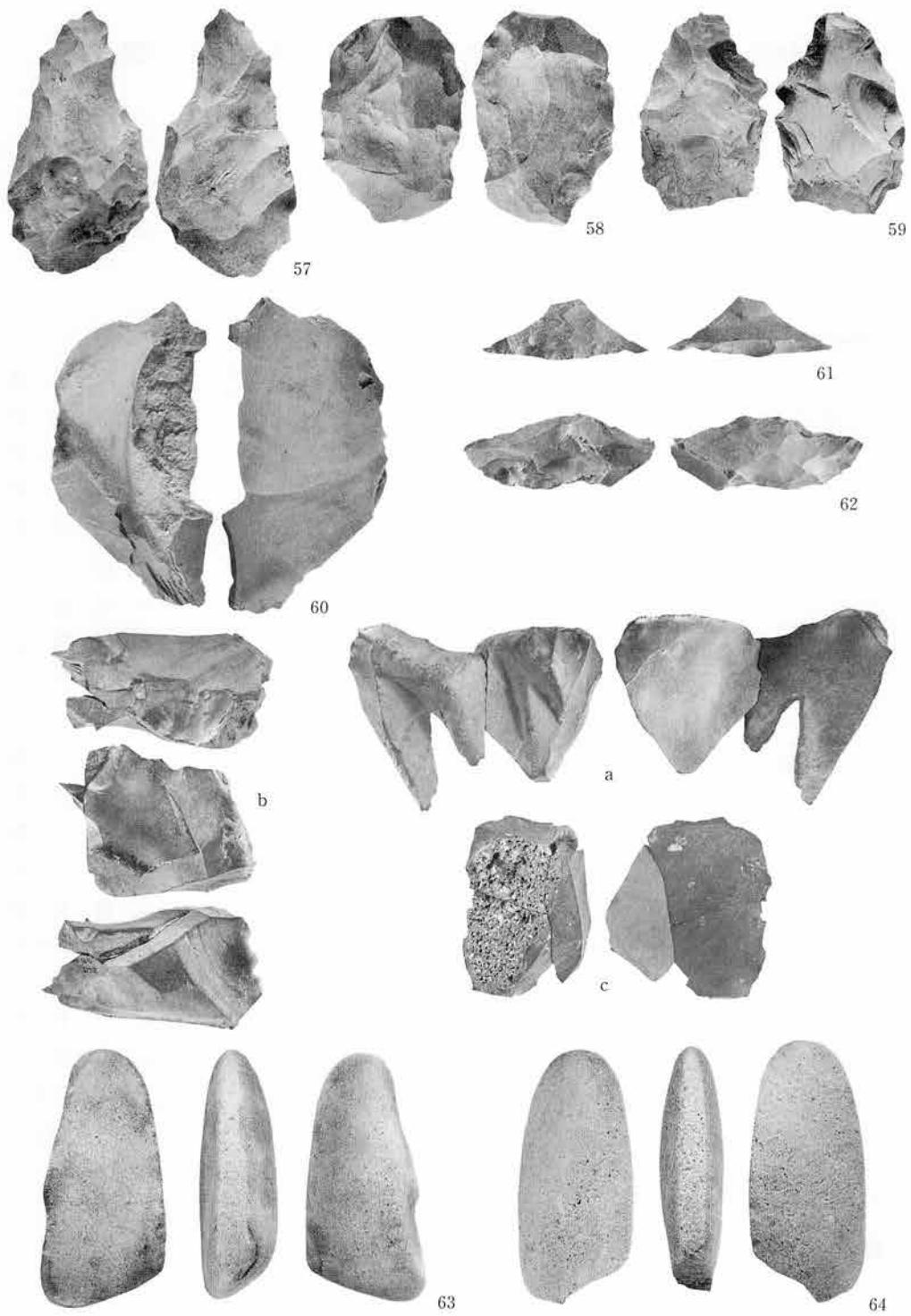
S = 1/2

写真図版13 出土遺物：石器（2）



S ÷ 1/2

写真図版14 出土遺物：石器（3）



57~62・a~c S=½ 63~64・S=¼

写真図版15 出土遺物：石器（4）

財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員

所長 高橋重實

副所長 高橋敬明

[管理課]

管理課長 澤田 寛

嘱託 吉田十次

主事 佐藤理

野崎他夫

" 久保田幸恵

[調査課]

調査課長 鈴木恵治

文化財専門調査員 松本建速

課長補佐 三浦謙一

篠平克子

" 高橋與右衛門

花坂政博

主任文化財専門調査員 菊池強一

佐々木務

" 渡辺洋一

金子昭彦

" 高橋正之

濱田宏

" 工藤利幸

阿部勝則

" 中川重紀

星雅之

" 佐々木清文

羽柴直人

" 高橋義介

高木晃拓

文化財専門調査員 斎藤實

村上精造

" 千葉孝雄

鎌田磨精

" 川村均

柳田悟

" 鈴木貞行

千葉悟

" 伊東格

高橋英樹

" 吉田充

溜浩二郎

" 斎藤邦雄

佐藤修一

" 神敏明

稻垣雅宏

" 高橋一浩

田畠博之

" 小原眞一

八重座のり子

" 酒井宗孝

杉沢昭太郎

" 鎌田勉

平澤祐子

" 小山内透

期専門職付員

[資料課]

資料課長 村松義夫

主任文化財専門調査員 駒嶺高幸

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第199集

塚野Ⅰ・塚野Ⅱ遺跡発掘調査報告書

東北横断自動車道秋田線建設関連遺跡発掘調査

印刷 平成5年9月24日

発行 平成5年9月30日

発行 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020 盛岡市下飯岡11-185

TEL (0196) 38-9001

印刷 川口印刷工業株式会社
〒020 盛岡市本町通2-13-8
TEL (0196) 23-3351